DENON®

AVR-X1400H

INTEGRATED NETWORK AV RECEIVER

取扱説明書

- 記載内容は予告なく更新される場合があります。最新の取扱説明書は、WEB マニュアルをご覧ください。
  http://manuals.denon.com/AVRX1400H/JP/JA/
- 複数ページを 1 枚の用紙に印刷することができます。

付属品 8
乾電池の入れかた 9
リモコンの使いかた 9
特長 10
高音質 10
多彩な機能 11
簡単操作 15
各部の名前 16
フロントパネル 16
ディスプレイ 19
リアパネル 21
リモコン 24

接続のしかた

スピーカーを設置する 28
スピーカーを接続する 35
スピーカーを接続する 35
スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定 39
5.1 チャンネルのスピーカーを接続する 40
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する 41
5.1 チャンネルのスピーカーを接続する:フロントスピーカーのバイアンプ接続 47
5.1 チャンネルのスピーカーを接続する:2 台目のフロントスピーカーの接続 48
マルチゾーンのスピーカーを接続する 49
テレビを接続する 50
接続 1:HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ 51
接続 2:HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ 52
接続 3:HDMI 端子がないテレビ 53
再生機器を接続する 54
セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー) 55
DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する 56
ビデオカメラやゲーム機などを接続する 57
USB 端子に USB メモリーを接続する 58
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する 59
ホームネットワーク(LAN)に接続する 61
有線 LAN 61
無線 LAN 62
電源コードを接続する 63

再生のしかた

基本操作 65
- 電源を入れる 65
- 入力ソースを選ぶ 65
- 音量を調節する 66
- 一時的に音を消す(ミューティング) 66
- DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する 66

USB メモリーを再生する 67
- USB メモリーに保存されているファイルを再生する 68

Bluetooth 機器の音楽を聴く 71
- Bluetooth 機器の音楽を聴く 72
- 2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする 73
- Bluetooth 機器から本機に再接続する 74

FM 放送または AM 放送を聴く 75
- FM 放送または AM 放送を聴く 76
- 周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング) 77
- 受信モードを変更する(チューニングモード) 78
- 自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセット) 78
- 聴いている放送局をプリセットする(プリセットに登録) 79
- プリセットした放送局を聴く 79
- プリセットした放送局に名前をつける(プリセットネーム) 80
- プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ) 81
- プリセットスキップを解除する 82

インターネットラジオを聴く 83
- インターネットラジオを聴く 84

パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する 85
- パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する 86

HEOS アプリをダウンロードする 89
- HEOS アカウント 90
- ストリーミング音楽サービスを再生する 91
- 同じ音楽を複数の部屋で聴く 94

AirPlay 機能 98
- iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する 99
- iTunes の曲を本機で再生する 99
- 複数のスピーカー(機器)を選ぶ 100
- 本機のリモコンで iTunes の再生操作をおこなう 100

Spotify Connect 機能 101
- Spotify の曲を本機で再生する 101

便利な機能 102
- HEOS お気に入りに追加する 103
- HEOS お気に入りを再生する 103
- HEOS お気に入りを削除する 104
- 入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節) 105
- トーンを調節する(トーンコントロール) 106
- 音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト) 107
- すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ) 108

サウンドモードを選ぶ 109
サウンドモードを選ぶ 110
ダイレクト再生 111
オートサラウンド再生 111
サウンドモードの種類について 112
入力信号ごとに選択できるサウンドモード 116
HDMI コントロール機能 120
設定のしかた 120
スマートメニュー機能 121
スリープタイマー機能 123
スリープタイマーを設定する 124
クイックセレクトプラス機能 125
設定を呼び出す 126
設定を変更する 127
ゾーン 2(別の部屋)での再生 128
ゾーン 2 の接続 128
ゾーン 2 で再生する 129

設定のしかた

メニュー 一覧 131
メニュー操作のしかた 135
オーディオ 136
ダイアローグレベル 136
サブウーハーレベル 136
サラウンドパラメーター 137
リストアラー 141
オーディオディレイ 142
音量 143
バイリンガルモード 144
Audyssey® 144
マニュアル EQ 147
ビデオ 149
HDMI 設定 149
オンスクリーンディスプレイ 154
4K 信号フォーマット 155
TV フォーマット 156

入力ソース 157
入力端子の割り当て 157
入力ソース名の変更 159
使用ソースの選択 159
ソースレベル 159
オーディオ入力端子の選択 160
スピーカー 161
Audyssey®セットアップ 161
スピーカー設定の流れ(Audyssey®セットアップ) 163
エラーメッセージについて 169
Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき 170
マニュアルセットアップ 171
アンプの割り当て 171
スピーカーの構成 172
距離 177
レベル 178
クロスオーバー周波数 179
低音 180
フロントスピーカー 181
ネットワーク 182
情報 182
接続 182
Wi-Fi 設定 183
接続の設定 184
ネットワークコントロール 186
フレンドリーネームの編集 186
診断 187
HEOS アカウント 188
サインインしていない場合 188
サインインしている場合 188

一般 189
言語 189
エコ設定 189
ゾーン 2 の設定 192
ゾーン名の変更 193
クイックセレクト名の変更 193
フロントディスプレイ 193
ファームウェア 194
情報 197
使用状況の送信設定 198
セーブ&ロード 199
セットアップロック 199
リモコンで操作するゾーンを限定する 200

困ったときは

こんなときの解決方法 202
故障かな？と思ったら 204
電源が入らない / 電源が切れる 205
リモコンで操作ができない 206
本機のディスプレイが表示されない 206
音がまったく出ない 207
希望する音が出ない 208
音が途切れたり、ノイズが入ったりする 211
テレビに映像が映らない 212
テレビにメニュー画面が表示されない 213
AirPlay 再生ができない 214
USB メモリーが再生できない 215
Bluetooth が再生できない 216
インターネットラジオが再生できない 217
パソコン内や NAS 内の音楽ファイルが再生できない 218
各種オンラインサービスが再生できない 219
HDMI コントロール機能が動作しない 219
無線 LAN ネットワークに接続できない 220
アップデート/アップグレードエラーメッセージ 221
お買い上げ時の設定に戻す 222
ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す 223
保証と修理について 224

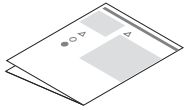
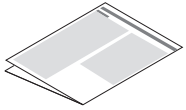
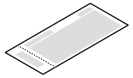
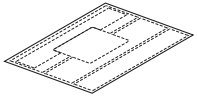
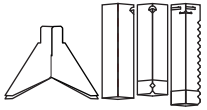
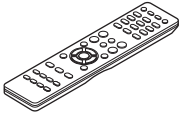
付録

HDMI について 226
USB メモリーの再生について 229
Bluetooth 機器の再生について 230
パソコンや NAS に保存されているファイルの再生について 231
インターネットラジオの再生について 232
パーソナルメモリープラス機能 232
ラストファンクションメモリー 232
サウンドモードとチャンネル出力の関係 233
サウンドモードとパラメーター一覧表 235
入力信号の種類と対応するサウンドモード 238
用語の解説 241
登録商標について 250
主な仕様 252
索引 257
ライセンス 260

お買い上げいただきありがとうございます。
本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

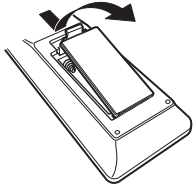
付属品

ご使用になる前にご確認ください。

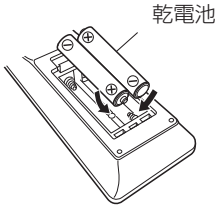
かんたんスタートガイド	CD-ROM（取扱説明書）	 安全にお使いいただくために	 電波に関するご注意	 保証書
 ケーブルラベル	FM室内アンテナ	AMループアンテナ	セットアップマイク	 マイクスタンド
 リモコン（RC-1217）	単4形乾電池（2本）			

乾電池の入れかた

1 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。



2 乾電池(2 本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



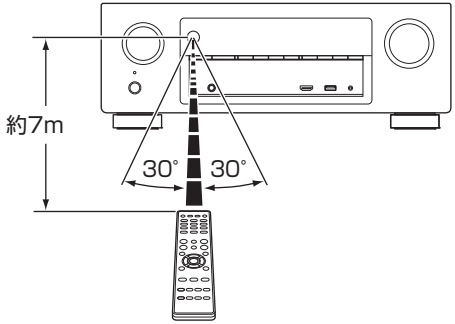
3 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損･液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。



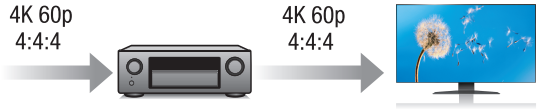
特長

高音質

- **ディスクリート回路構成による全 7 チャンネル同一クオリティーのパワーアンプ搭載(120W×7 チャンネル)**
  本機には、オリジナル音源を忠実に再生するために、全チャンネルに同一のクオリティーと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。
  パワーアンプ回路には、ディスクリート回路構成を採用することによって、高品位な再生を実現しています。
- **Dolby Atmos 搭載(☞241 ページ)**
  本機は、Dolby Atmos に対応したデコーダーを搭載しています。オーバーヘッドスピーカーの追加により、音の定位または移動をより正確に再現し、これまで以上に自然でリアルなサラウンド音場を体験することができます。
- **DTS:X 搭載(☞245 ページ)**
  本機は、DTS:X デコーダー技術を搭載しています。DTS:X は従来のチャンネルベース方式のサウンドフォーマットに対し、音像の移動感を表現するオブジェクト信号を付加したサウンドフォーマットです。オブジェクト信号に記録されている音声情報と三次元の位置情報を再生環境に合わせてリアルタイムに演算して出力するため、どのような再生環境でも最適化された豊かで臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。
- **DTS Virtual:X 搭載(☞245 ページ)**
  DTS Virtual:X 技術は、DTS 独自のバーチャルハイトとバーチャルサラウンド処理を採用しており、あらゆる入力ソース(ステレオから 7.1.4 チャンネルまで対応)やスピーカー構成で臨場感あふれるサウンド体験を提供します。

多彩な機能

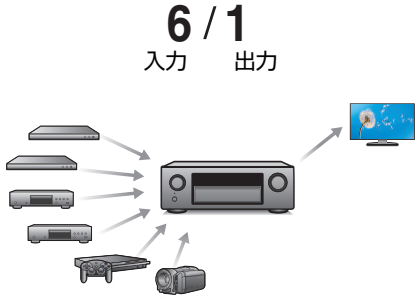
- **4K 60Hz 入出力対応**



4K Ultra HD（High Definition）で、1 秒間に 60 フレーム分の映像信号（60p）の入出力を実現しました。4K Ultra HD、60p 映像入力信号に対応したテレビと接続することで、動きの速い映像も滑らかに、高精細画質によって得られる臨場感のある映像を楽しめます。
そして、本機は 4K 60p、4:4:4、24bit の映像処理に対応しています。元の解像度のまま映像処理をおこなうことで、画質を損なうことなく、そのまま高精細な画質を楽しめます。
本機は HDR（High Dynamic Range）および色域規格の BT. 2020 にも対応しています。

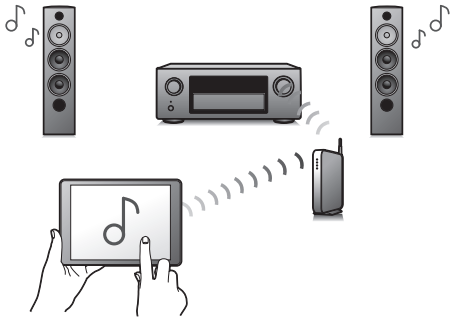
- **HDCP 2.2**
本機はコンテンツ保護方式規格 HDCP 2.2 に対応しています。

- **さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備（入力：6 系統、出力：1 系統）**



本機には 6 系統の HDMI 入力端子と 1 系統の HDMI 出力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどのさまざまな HDMI 端子付き機器との接続ができます。

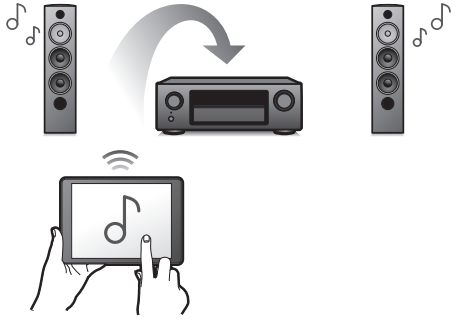
- **インターネットラジオなどのネットワーク機能に加え、AirPlay®機能を搭載 (☞98 ページ)**



インターネットラジオを聴いたり、パソコンに保存している音楽ファイルを再生したり、さまざまな再生をお楽しみいただけます。
また、本機は AirPlay 機能を搭載していますので、ネットワークを通して iPhone® や iPad®、iPod touch®、iTunes®の音楽を本機で再生できます。

- **USB とネットワーク経由による DSD と FLAC ファイルの再生**
  高解像度のオーディオフォーマットである DSD(5.6MHz)や FLAC 192kHz ファイルの再生に対応しています。高解像度ファイルの高音質再生を実現しています。

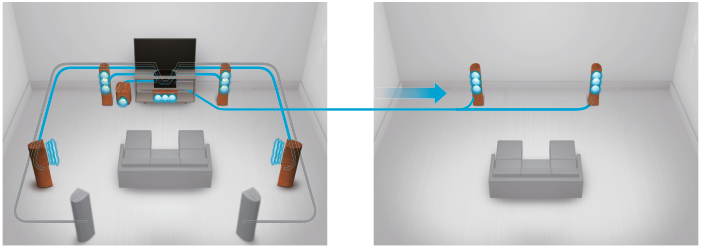
- **簡単に Bluetooth 機器とのワイヤレス接続が可能(☞71 ページ)**



お手持ちのスマートフォン、タブレット、パソコンなどとワイヤレス接続することで、簡単に音楽を楽しめます。

• **マルチルームでの音声再生に対応(☞108 ページ)**

【メインゾーン】 【ゾーン 2】

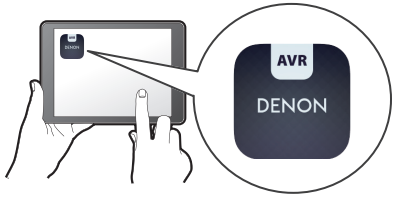


メインゾーンおよびゾーン 2 でそれぞれの入力を選択して再生できます。
また、All Zone Stereo 機能を使用すると、メインゾーンで再生中の音楽を同時にすべてのゾーンで楽しむことができます。家全体で BGM を流したいときに便利です。

• **省エネ設計**

本機は使用中の消費電力を低減しながら、映画や音楽を楽しむことができるエコモード機能、および未使用時に自動的に電源をオフするオートスタンバイ機能を搭載しています。不要な電力の節約ができます。

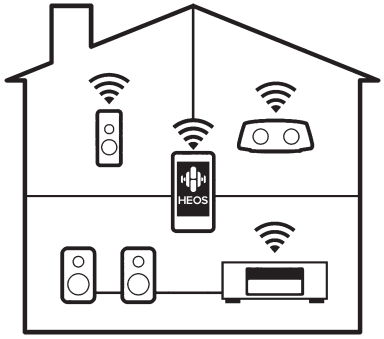
- **iPad、iPhone や Android™機器（Google、Amazon Kindle Fire）で本機の基本的な操作がおこなえる“Denon 2016 AVR Remote”アプリ * に対応**



多くの新機能を追加し、画面デザインやユーザーインターフェースも一新しました。スマートフォンやタブレットから AV レシーバーの詳細な設定が可能なセットアップメニューにアクセスしてコントロールすることができます。“Denon 2016 AVR Remote”アプリは AV レシーバーのステータスやメニューの表示、Denon 製ブルーレイディスクプレーヤーのコントロールや WEB マニュアルへのアクセスなどを提供します。

* “Denon 2016 AVR Remote”アプリを iOS や Android 機器にダウンロードしてください。（無料）　本機を LAN 接続し、iPhone や iPod touch を同じネットワーク上にある Wi-Fi（無線 LAN）に接続する必要があります。

- **お気に入りのオンラインミュージックソースからストリーミング音楽を提供**



本機は、お気に入りの音楽をご家庭内のどこにいても楽しむことができる、HEOS 無線マルチルームサウンドシステムの一部です。ホームネットワークと HEOS アプリ（iOS、Android および Amazon 機器で利用可能）を利用して、ご自身の音楽ライブラリや多数のオンラインミュージックサービス内の音楽を再生できます。

また、複数の HEOS 機器が同じネットワークに接続している場合、HEOS 機器をグループ化して同じ音楽を同時に再生したり、それぞれの HEOS 機器で別々の音楽を再生したりすることができます。

簡単操作

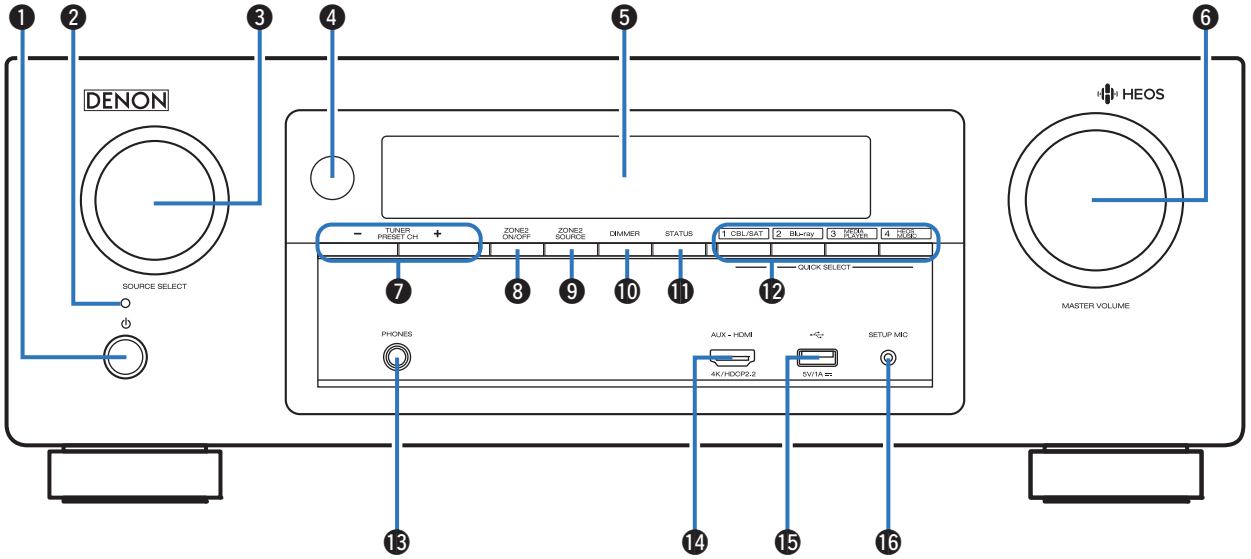
- **基本的な設定が簡単にできる“セットアップアシスタント”メニュー**
  最初に言語選択画面で言語を選択します。テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、誰でも簡単にスピーカーの接続やネットワークの設定など基本的な設定がおこなえます。
- **操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース**
  本機には、“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載し、操作性を向上させています。

ステレオ音のエチケット

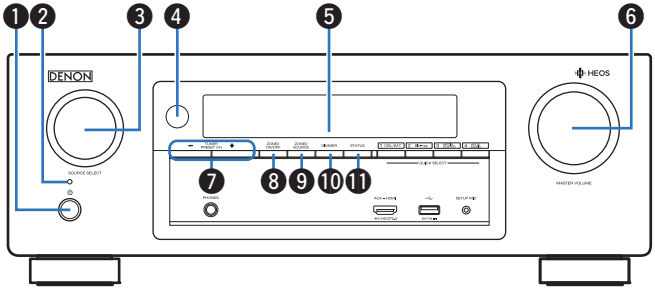
- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

各部の名前

フロントパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。



❶ **電源ボタン(⏻)**
メインゾーン(本機のある部屋)の電源をオン/オフ(スタンバイ)します。(☞65 ページ)

❷ **電源表示**
電源の状態によって、次のように点灯します。
- 緑色:電源オン時
- 消灯:通常のスタンバイ時
- 赤色:
  - “HDMI パススルー”の設定が“オン”のとき (☞150 ページ)
  - “HDMI コントロール”の設定が“オン”のとき (☞151 ページ)
  - “ネットワークコントロール”の設定が“常時オン”のとき (☞186 ページ)

❸ **入力ソース選択つまみ (SOURCE SELECT)**
入力ソースを選択します。(☞65 ページ)

❹ **リモコン受光部**
リモコンからの信号を受信します。(☞9 ページ)

❺ **ディスプレイ**
各種情報を表示します。(☞19 ページ)

❻ **音量調節つまみ(MASTER VOLUME)**
音量を調節します。(☞66 ページ)

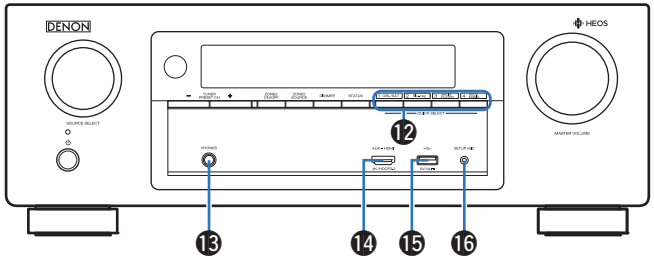
❼ **チューナープリセットチャンネルボタン (TUNER PRESET CH +、−)**
プリセットした放送局を選択します。(☞79 ページ)

❽ **ゾーン 2 用電源ボタン(ZONE2 ON/OFF)**
ゾーン 2(別の部屋)の電源をオン/オフします。(☞129 ページ)

❾ **ゾーン 2 用入力ソース選択ボタン(ZONE2 SOURCE)**
ゾーン 2 の入力ソースを選択します。(☞129 ページ)

❿ **ディマーボタン(DIMMER)**
ディスプレイの明るさを切り替えます。(☞193 ページ)

⓫ **ステータスボタン(STATUS)**
ボタンを押すたびにステータス情報を切り替えて、ディスプレイに表示します。



⓬ クイックセレクトボタン(QUICK SELECT)
それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。
(☞125 ページ)

⓭ ヘッドホン端子(PHONES)
ヘッドホンを接続します。
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよびサブウーハー端子から音が出なくなります。

ご注意

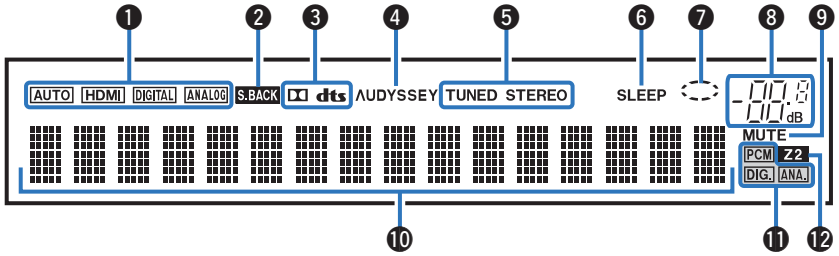
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

⓮ AUX - HDMI 端子
HDMI 出力対応のビデオカメラやゲーム機を接続します。
(☞57 ページ)

⓯ USB 端子(•⇝)
USB ストレージ(USB メモリーなど)を接続します。(☞58 ページ)

⓰ セットアップマイク端子(SETUP MIC)
付属のセットアップマイクを接続します。(☞164 ページ)

ディスプレイ



❶ 入力モード表示
各入力ソースの音声入力モードの設定により点灯します。(☞160 ページ)

❷ サラウンドバック表示
サラウンドバックスピーカーから音声が出力されているときに点灯します。(☞174 ページ)

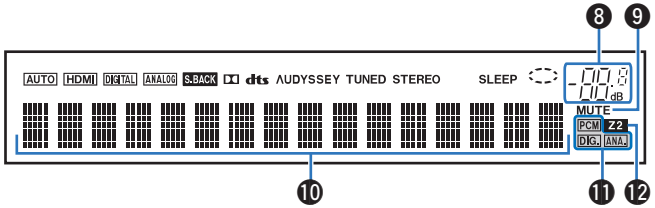
❸ デコーダー表示
Dolby または DTS 信号が入力されているとき、または Dolby または DTS デコーダーが動作しているときに点灯します。

❹ Audyssey®表示
“MultEQ® XT”、“Dynamic EQ”または“Dynamic Volume”が設定されているときに点灯します。(☞144 ページ)

❺ チューナー受信モード表示
入力ソースが“Tuner”のとき、放送局の受信状態により点灯します。
TUNED:放送局を受信したときに点灯します。
STEREO:FM ステレオ放送を受信したときに点灯します。

❻ スリープタイマー表示
スリープタイマーを設定しているときに点灯します。(☞123 ページ)

❼ サークル表示
入力ソースが“HEOS Music”で音楽を再生中に点灯します。



❽ 音量表示

❾ ミュート表示

消音中に点滅します。(☞66 ページ)

❿ インフォメーションディスプレイ

入力ソース名、サウンドモード、設定値などを表示します。

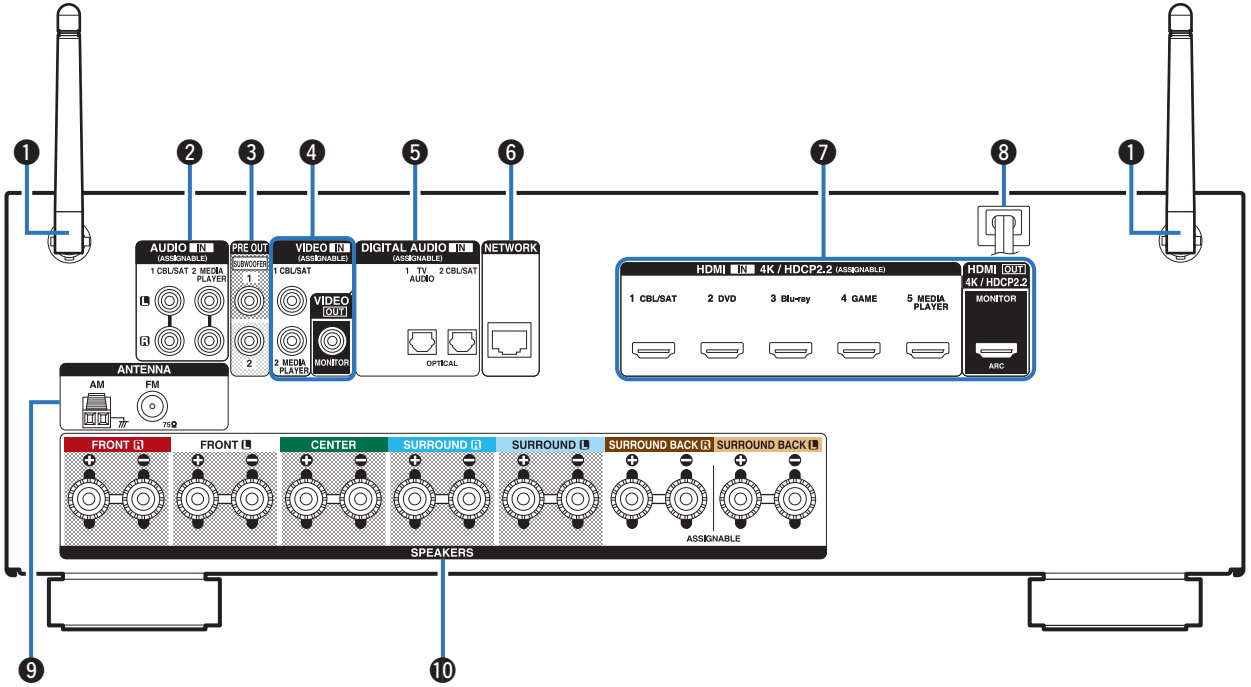
⓫ 入力信号表示

入力信号によって点灯します。(☞160 ページ)

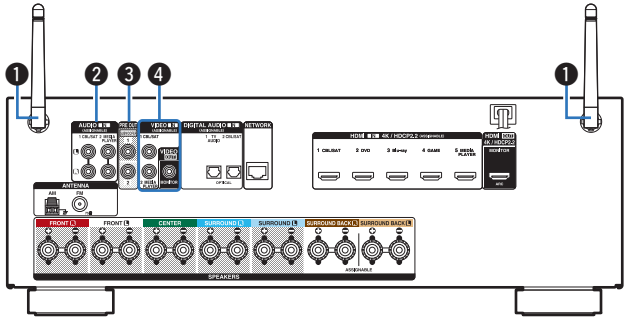
⓬ ゾーン 2 表示

ゾーン 2(別の部屋)の電源が入っているときに点灯します。(☞129 ページ)

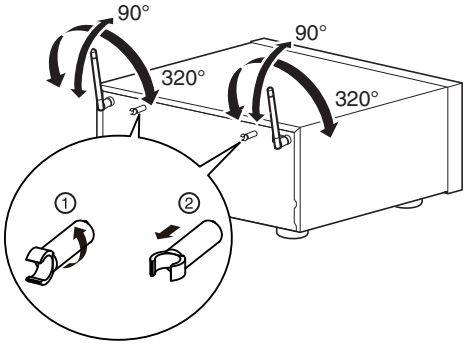
リアパネル



詳しくは、次のページをご覧ください。



❶ **Bluetooth/無線 LAN 用ロッドアンテナ**
Bluetooth でお手持ちの機器と接続する場合、または無線 LAN でネットワークに接続する場合は、このアンテナを立ててご使用ください。(☞62 ページ)

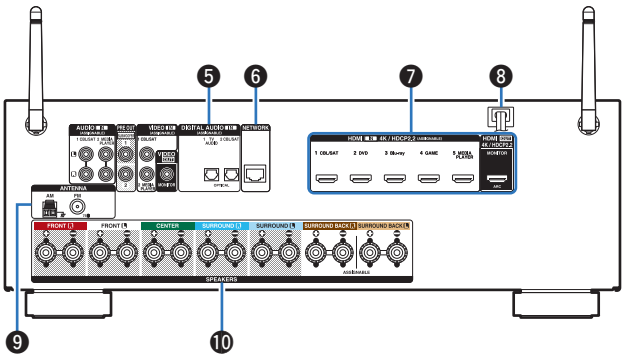


- リアパネルから、アンテナクリップを外すことができます。
  ① アンテナクリップを左へ 90 度回す。
  ② アンテナクリップを手前に引き抜く。
  - アンテナクリップは、輸送時に必要です。大切に保管してください。
  - アンテナクリップの取り付けは、外しかたと逆の手順でおこなってください。

❷ **アナログオーディオ端子(AUDIO)**
アナログオーディオ端子付きの機器を接続します。(☞55 ページ)

❸ **プリアウト端子(PRE OUT)**
アンプ内蔵のサブウーハーを接続します。(☞36 ページ)

❹ **ビデオ端子(VIDEO)**
ビデオ端子付きの機器を接続します。
- 「接続 3:HDMI 端子がないテレビ」(☞53 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞55 ページ)



❺ デジタルオーディオ端子(DIGITAL AUDIO)
デジタルオーディオ端子付きの機器を接続します。
- 「接続 2:HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ」(☞52 ページ)
- 「接続 3:HDMI 端子がないテレビ」(☞53 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞55 ページ)

❻ ネットワーク端子(NETWORK)
有線 LAN でネットワークに接続する際に LAN ケーブルを接続します。(☞61 ページ)

❼ HDMI 端子
HDMI 端子付きの機器を接続します。
- 「接続 1:HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ」(☞51 ページ)
- 「接続 2:HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ」(☞52 ページ)
- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞55 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞56 ページ)

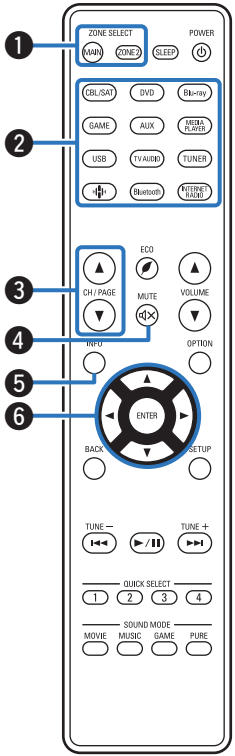
❽ 電源コード (☞63 ページ)

❾ FM/AM アンテナ端子(ANTENNA)
FM アンテナや AM ループアンテナを接続します。(☞59 ページ)

❿ スピーカー端子(SPEAKERS)
スピーカーを接続します。(☞35 ページ)

ご注意
- 端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気により、故障の原因になることがあります。

リモコン



❶ ゾーン選択ボタン(ZONE SELECT)
リモコンで操作するゾーン(メインゾーンまたはゾーン 2)を選択します。
- 「ゾーン 2 で再生する」(☞129 ページ)
- 「メニュー操作のしかた」(☞135 ページ)

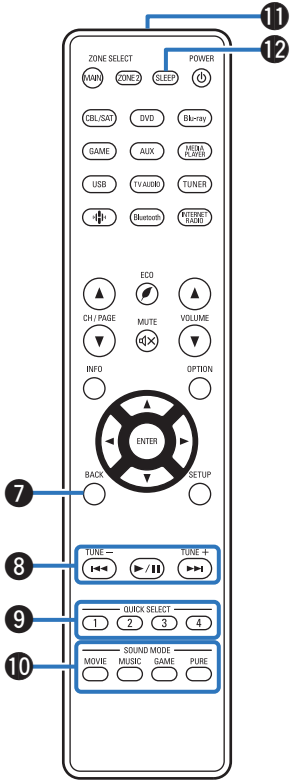
❷ 入力ソース選択ボタン
入力ソースを選択します。
- 「入力ソースを選ぶ」(☞65 ページ)
- 「ゾーン 2 で再生する」(☞129 ページ)

❸ チャンネル選択/ページ検索ボタン(CH/PAGE ▲▼)
プリセット登録した放送局の選択やページの切り替えをします。(☞79 ページ)

❹ ミュートボタン(MUTE 🔇)
消音します。
- 「一時的に音を消す(ミューティング)」(☞66 ページ)
- 「一時的に音を消す(ミューティング)(ゾーン 2)」(☞130 ページ)

❺ インフォメーションボタン(INFO)
ステータス情報をテレビ画面に表示します。(☞198 ページ)

❻ カーソルボタン(△▽◁▷)
項目を選択します。



❼ バックボタン(BACK)
ひとつ前の画面に戻ります。

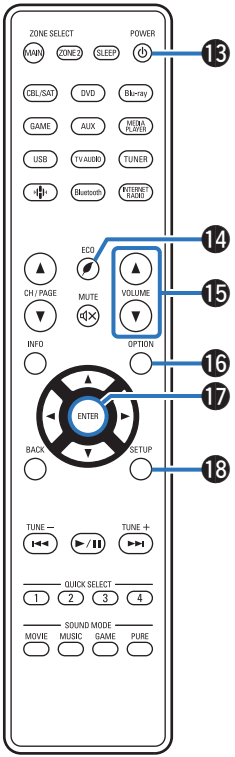
❽ システムボタン
再生に関する操作をします。
選局ボタン(TUNE +, –)
FM 放送局または AM 放送局を選択します。(☞76 ページ)

❾ クイックセレクトボタン(QUICK SELECT 1~4)
それぞれのボタンに登録している入力ソース、音量およびサウンドモードなどの複数の設定をワンタッチで呼び出します。
(☞125 ページ)

❿ サウンドモードボタン(SOUND MODE)
サウンドモードを選択します。(☞109 ページ)

⓫ リモコン信号送信窓
リモコンの信号を送信します。(☞9 ページ)

⓬ スリープタイマーボタン(SLEEP)
スリープタイマーを設定します。(☞123 ページ)



⓭ 電源ボタン(POWER ⏻)
電源をオン/オフします。
- 「電源を入れる」(☞65 ページ)
- 「ゾーン 2 で再生する」(☞129 ページ)

⓮ エコモードボタン(ECO)
エコモードを切り替えます。(☞189 ページ)

⓯ 音量調節ボタン(VOLUME ▲▼)
音量を調節します。
- 「音量を調節する」(☞66 ページ)
- 「音量を調節する(ゾーン 2)」(☞130 ページ)

⓰ オプションボタン(OPTION)
テレビ画面にオプションメニューを表示します。

⓱ エンターボタン(ENTER)
選択した内容を確定します。

⓲ セットアップボタン(SETUP)
テレビ画面に設定メニューを表示します。(☞135 ページ)

■ 目次

スピーカーを設置する	28
スピーカーを接続する	35
テレビを接続する	50
再生機器を接続する	54
USB 端子に USB メモリーを接続する	58
FM アンテナや AM ループアンテナを接続する	59
ホームネットワーク(LAN)に接続する	61
電源コードを接続する	63

ご注意

- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、“セットアップアシスタント”（別冊の“かんたんスタートガイド”の 8 ページ）メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。（“セットアップアシスタント”メニューを操作中、入出力端子は通電しません。）
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

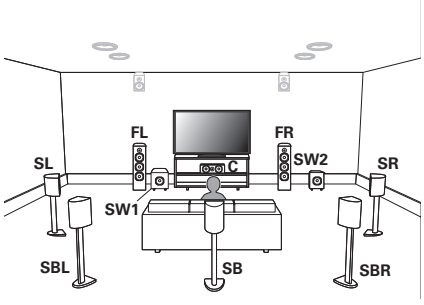
■ 接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。

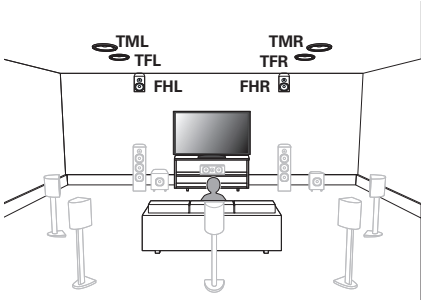
スピーカーケーブル	
サブウーハーケーブル	
HDMI ケーブル	
ビデオケーブル	
光伝送ケーブル	
オーディオケーブル	
LAN ケーブル	

スピーカーを設置する

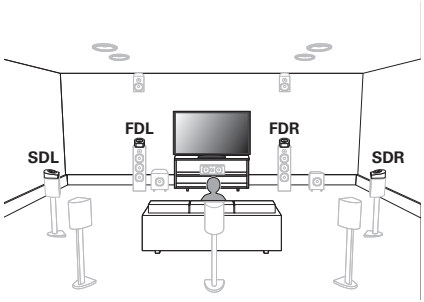
ご使用になるスピーカーの本数に応じてスピーカーシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーハーを部屋に設置します。
例として、代表的な設置方法を説明します。



FL/FR（フロントスピーカー左/右）:	フロント左右スピーカーは視聴位置から前方の等距離に設置します。各スピーカーとテレビの間の距離は同じにしてください。
C（センタースピーカー）:	センタースピーカーはフロント左右スピーカーの中間に設置します。テレビの上または下側に設置してください。
SL/SR（サラウンドスピーカー左/右）:	サラウンド左右スピーカーは視聴位置から左右の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーをお持ちでない場合は、斜め後方に設置してください。
SBL/SBR（サラウンドバックスピーカー左/右）:	サラウンドバック左右スピーカーは視聴位置から後方の等距離に設置します。サラウンドバックスピーカーを 1 台使用する場合（SB）は、リスニングポイントの真後ろに設置してください。
SW 1/2（サブウーハー）:	サブウーハーは、フロントスピーカーの近くの設置可能な場所に設置します。サブウーハーを 2 台使用する場合は、部屋の前方に左右非対称となるように設置してください。



FHL/FHR (フロントハイトスピーカー左/右):	フロントハイト左右スピーカーはフロントスピーカーの真上に設置します。できるだけ天井に近い高さで、リスニングポイントを向くように設置してください。
TFL/TFR (トップフロントスピーカー左/右):	トップフロント左右スピーカーは視聴位置から前方の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせてください。
TML/TMR (トップミドルスピーカー左/右):	トップミドル左右スピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付けます。左右の間隔は、フロント左右スピーカーと合わせてください。

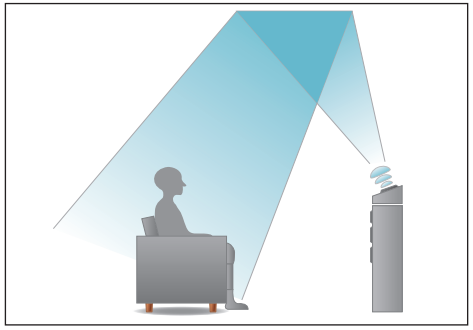


FDL/FDR (フロント Dolby スピーカー左/右):	フロント Dolby Atmos Enabled スピーカーをフロントスピーカーの上に置いてください。フロントスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、フロントスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。
SDL/SDR (サラウンド Dolby スピーカー左/右):	サラウンド Dolby Atmos Enabled スピーカーをサラウンドスピーカーの上に置いてください。サラウンドスピーカーと一体型の Dolby Atmos Enabled スピーカーの場合は、サラウンドスピーカーの代わりに Dolby Atmos Enabled スピーカーを置いてください。

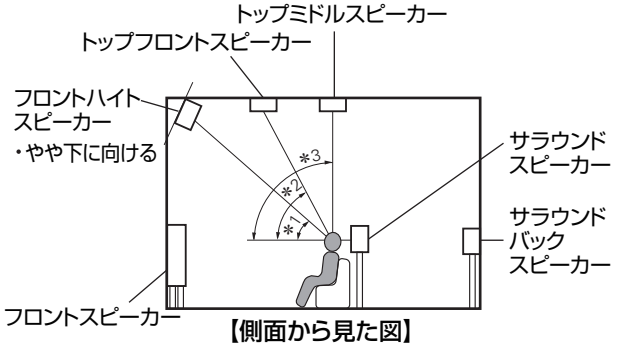
Dolby Atmos Enabled スピーカーについて

Dolby Atmos Enabled スピーカーは上向きの特殊なスピーカーを床面に設置することで、出力された音声を天井で反射させて上方から音声が聴こえるようにするスピーカーです。

天井にスピーカーが設置できない環境でも、Dolby Atmos の 3D サウンドを楽しむことができます。



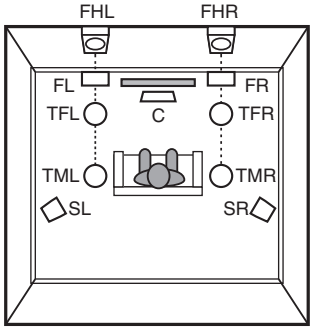
- 本機はサラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Dolby Atmos および DTS:X に対応しています。
- Dolby Atmos は、スピーカーの構成が 5.1 チャンネル以下のときは使用できません。
- DTS:X は、スピーカーの構成に関わらず使用できます。
- 各スピーカーを設置する高さは、次のイラストを目安にしてください。ただし、正確に合わせる必要はありません。



【側面から見た図】

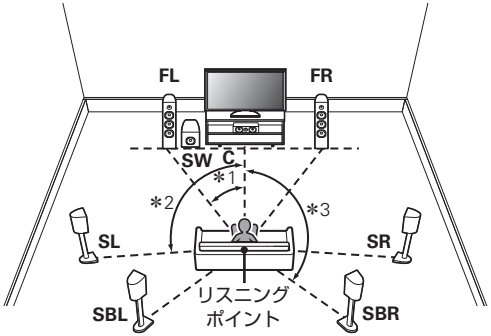
*1 30°~45° *2 30°~55° *3 65°~100°

ハイトスピーカーのレイアウト図



【上面から見た図】

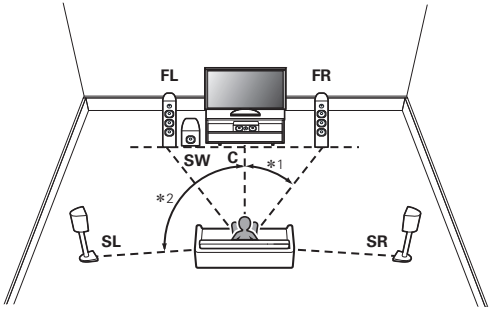
■ サラウンドバックスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき



*1 22°～30° *2 90°～110° *3 135°～150°

- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポイントの真後ろに設置してください。

■ 5.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

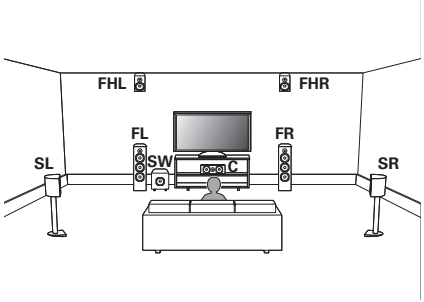


*1 22°～30° *2 120°

■ ハイトスピーカーおよび天井スピーカーを含めたレイアウト

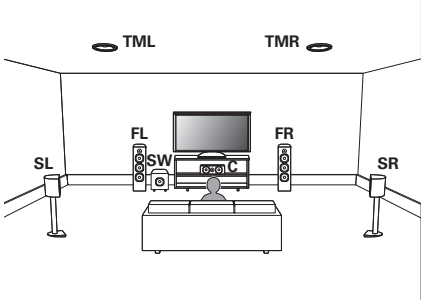
❑ ハイトスピーカーの設置例

5.1 チャンネルのスピーカーにフロントハイトスピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



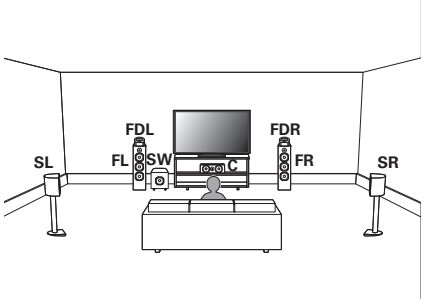
❑ 天井スピーカーの設置例

5.1 チャンネルのスピーカーにトップミドルスピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



❑ Dolby Atmos Enabled スピーカーの設置例

5.1 チャンネルのスピーカーにフロント Dolby スピーカーを組み合わせたレイアウト図です。



スピーカーを接続する

部屋に設置したスピーカーを本機に接続します。

スピーカーを接続する

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。また、サブウーハーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します。(「保護回路」(☞249 ページ))
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。ただし、“セットアップアシスタント”(別冊の“かんたんスタートガイド”の 8 ページ)メニューを操作中は“セットアップアシスタント”メニューの指示に従って接続してください。(“セットアップアシスタント”メニューを操作中、スピーカー端子は通電しません。)
- スピーカーはインピーダンスが 4～16Ω のものを使用してください。

ご注意

- インピーダンスが 4～6Ω のスピーカーをご使用になる場合は、次の設定をおこなってください。

1. 本機の電源が入っているときに本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
   ディスプレイに“V.Format:< NTSC>”を表示します。
2. 本体の DIMMER を 3 回押す。
   ディスプレイに“Sp.Imp.:<8ohms>”を表示します。
3. 本体の TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH －を押して、インピーダンスを選ぶ。

8ohms (お買い上げ時の設定):	接続されたすべてのスピーカーのインピーダンスが 8Ω 以上のときに選択します。
6ohms:	接続されたスピーカーのインピーダンスが 6Ω のときに選択します。
4ohms:	接続されたスピーカーのインピーダンスが 4Ω のときに選択します。

4. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。

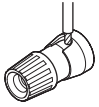
■ スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

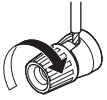
1 スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。

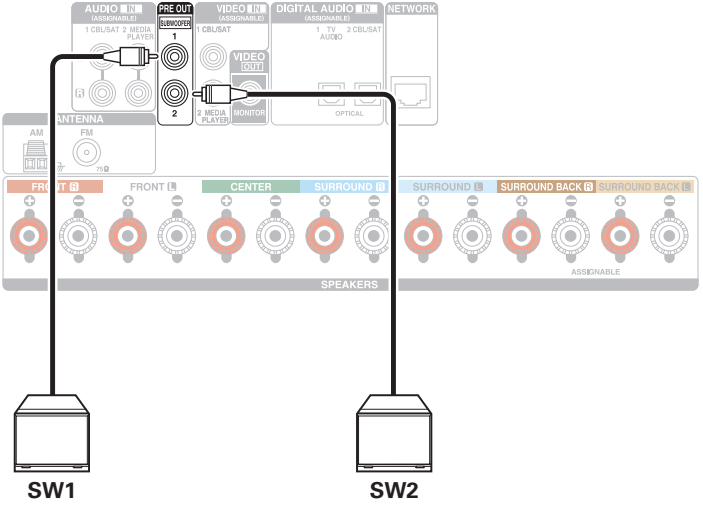


4 スピーカー端子を右に回して締める。



■ サブウーハーを接続する

サブウーハーケーブルを使用して、サブウーハーと接続します。
本機にはサブウーハーを 2 台接続できます。
それぞれのサブウーハー端子からは、同じ信号を出力します。



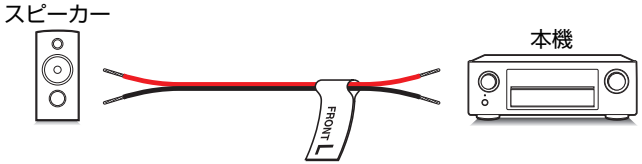
■ チャンネル識別のためのケーブルラベル(付属)について

本機のスピーカー端子は、識別できるように色分けしています。
各スピーカーに合ったケーブルラベルをスピーカーケーブルに貼ってください。リアパネルのスピーカー端子に接続する際、簡単に接続できます。

スピーカー	カラー
FRONT L	白色
FRONT R	赤
CENTER	緑
SURROUND L	水色
SURROUND R	青
SURROUND BACK L	ベージュ
SURROUND BACK R	茶色
FRONT HEIGHT L	ベージュ
FRONT HEIGHT R	茶色
ZONE2 L	ベージュ
ZONE2 R	茶色
TOP FRONT L	ベージュ
TOP FRONT R	茶色
TOP MIDDLE L	ベージュ
TOP MIDDLE R	茶色
FRONT DOLBY L	ベージュ
FRONT DOLBY R	茶色
SURROUND DOLBY L	ベージュ
SURROUND DOLBY R	茶色
SUBWOOFER	黒色

付属のケーブルラベルもパネルに合わせて色分けしています。
表を参照して、各スピーカーケーブルに貼り付けてください。
ラベルと同じ色のスピーカー端子にケーブルを接続することでスピーカーの接続が容易になります。

【 ケーブルラベルの貼りかた 】



スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定

本機は 7 チャンネルのパワーアンプを内蔵しています。基本となる 5.1 チャンネルシステムのほかに、“アンプの割り当て”の設定を変更することで、7.1 チャンネルシステム、バイアンプ接続、マルチゾーン再生用の 2 チャンネルシステムなど、さまざまなスピーカーシステムを構築できます。(☞171 ページ)

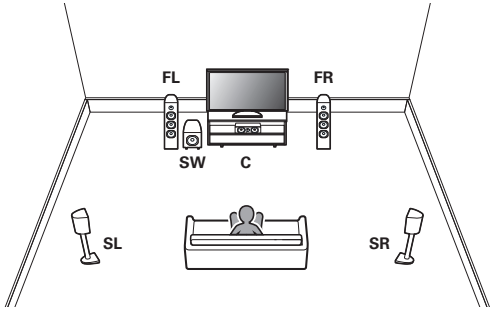
設置するスピーカー構成や部屋の数に合わせて、“アンプの割り当て”の設定をおこなってください。(☞171 ページ)

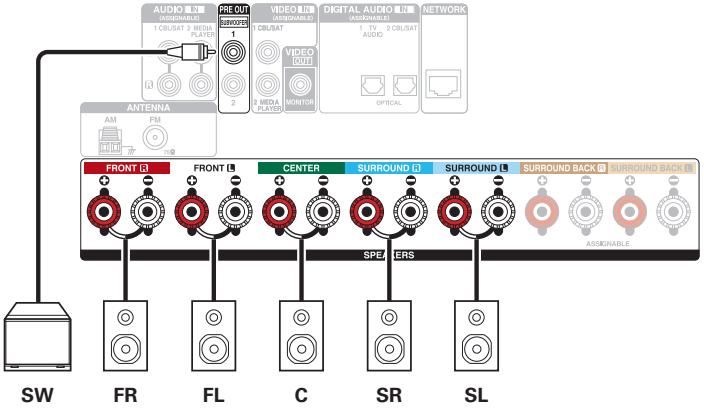
各ゾーンで再生するスピーカー		“アンプの割り当て”の設定	接続のページ
メインゾーン	ゾーン 2		
5.1 チャンネル	使用しない	すべての“アンプの割り当て”モードで設定できます。	40
7.1 チャンネル(サラウンドバック)	使用しない	サラウンドバック(お買い上げ時の設定)	41
7.1 チャンネル(フロントハイト)	使用しない	フロントハイト	42
7.1 チャンネル(トップフロント)	使用しない	トップフロント	43
7.1 チャンネル(トップミドル)	使用しない	トップミドル	44
7.1 チャンネル(フロント Dolby Atmos Enabled スピーカー)	使用しない	フロント Dolby	45
7.1 チャンネル(サラウンド Dolby Atmos Enabled スピーカー)	使用しない	サラウンド Dolby	46
5.1 チャンネル(フロントスピーカーのバイアンプ接続)	使用しない	Bi-Amp	47
5.1 チャンネル+ 2 台目のフロントスピーカー	使用しない	Front B	48
5.1 チャンネル	2 チャンネル(スピーカー出力)	ZONE2	49

- スピーカー構成によって、選択できるサウンドモードが異なります。対応しているサウンドモードについては、「サウンドモードとチャンネル出力の関係」(☞233 ページ)をご覧ください。

5.1 チャンネルのスピーカーを接続する

サラウンドの基本となる 5.1 チャンネルのシステムです。



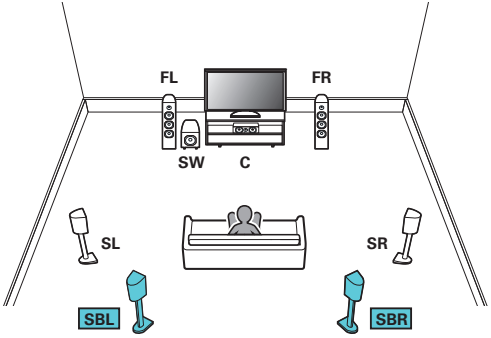


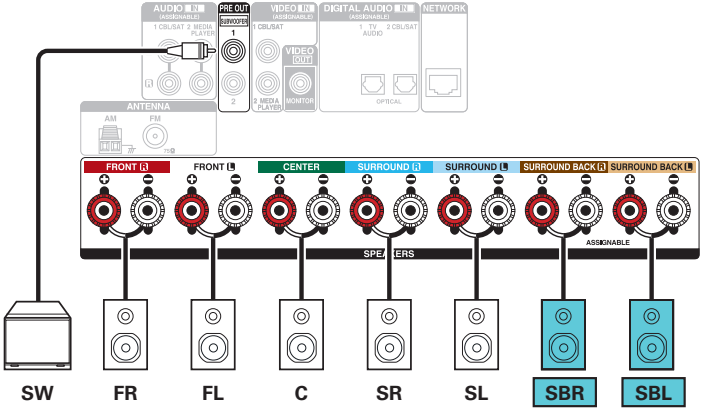
7.1 チャンネルのスピーカーを接続する

7.1 チャンネルのサラウンド再生用システムです。

■ サラウンドバックスピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。



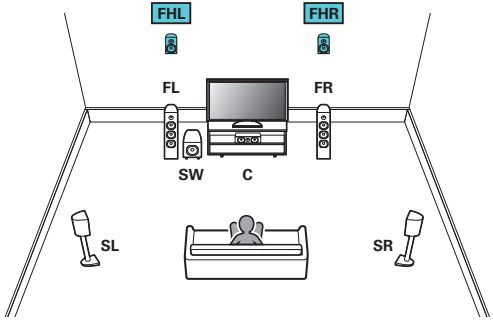


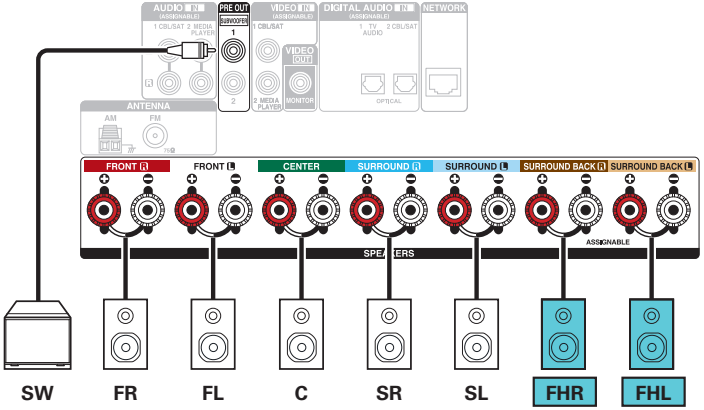
- メニューの“アサインモード”を“サラウンドバック”に設定してください。(☞171 ページ)

- サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合は、SURROUND BACK L 端子に接続してください。

■ フロントハイトスピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、フロントハイトスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。

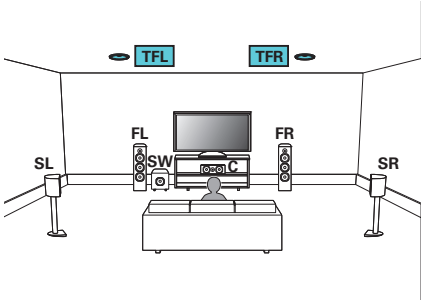


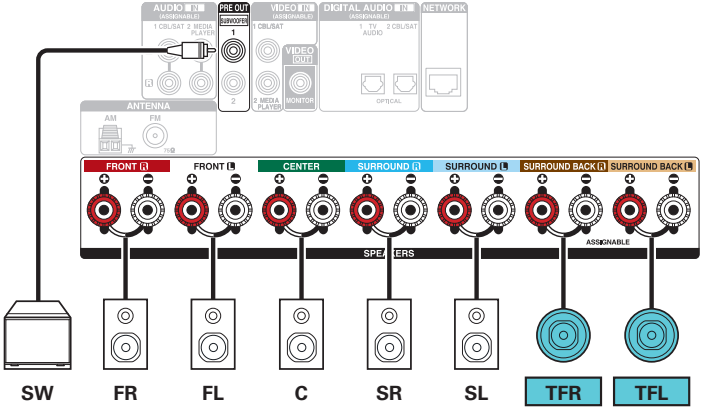


- メニューの“アサインモード”を“フロントハイト”に設定してください。 (☞171 ページ)

■ トップフロントスピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、トップフロントスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。

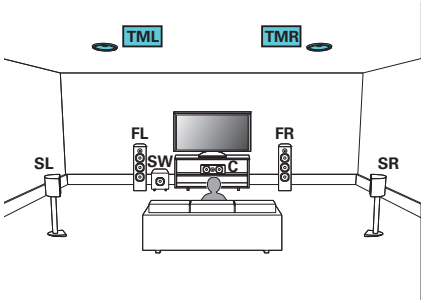


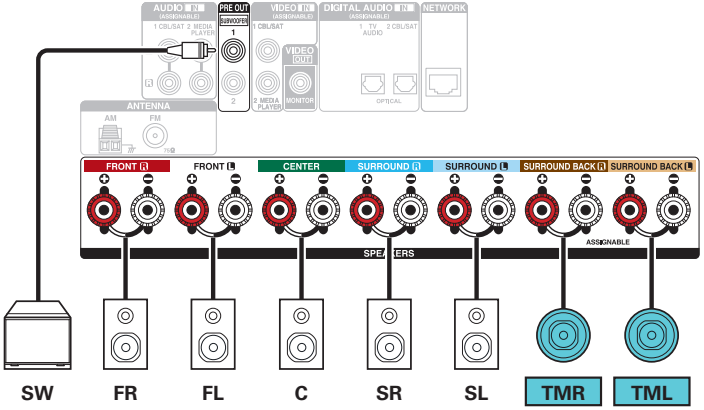


- メニューの“アサインモード”を“トップフロント”に設定してください。 (☞171 ページ)

■ トップミドルスピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、トップミドルスピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。

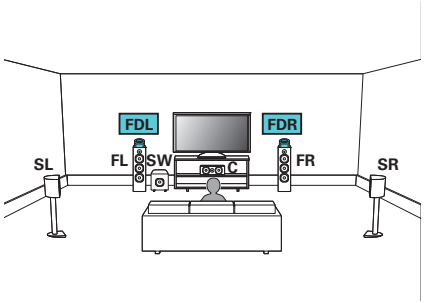


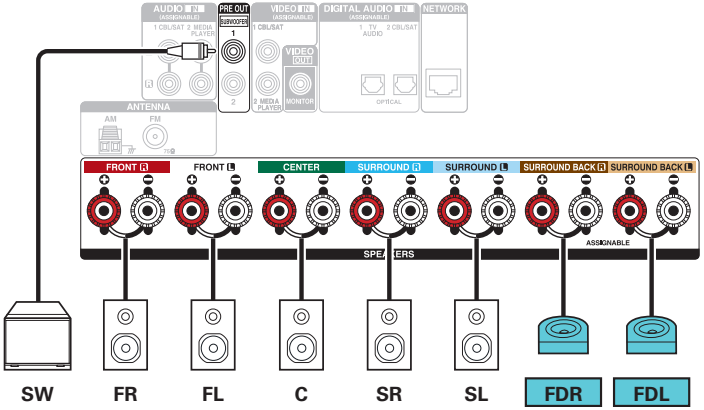


- メニューの“アサインモード”を“トップミドル”に設定してください。 (☞171 ページ)

■ フロント Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、フロント Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。

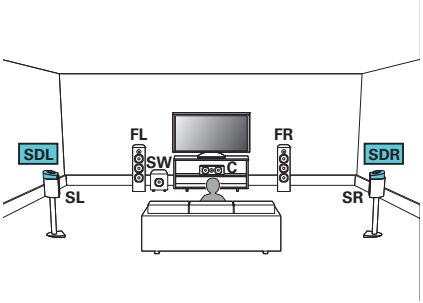


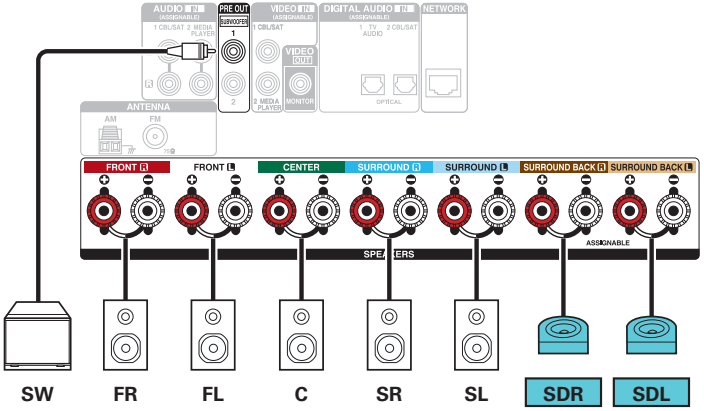


- メニューの“アサインモード”を“フロント Dolby”に設定してください。 (☞171 ページ)

■ サラウンド Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用するときの接続例

基本となる 5.1 チャンネルのシステムに、サラウンド Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用した 7.1 チャンネルのサラウンドシステムです。

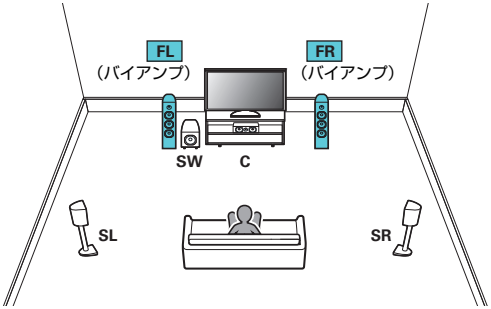


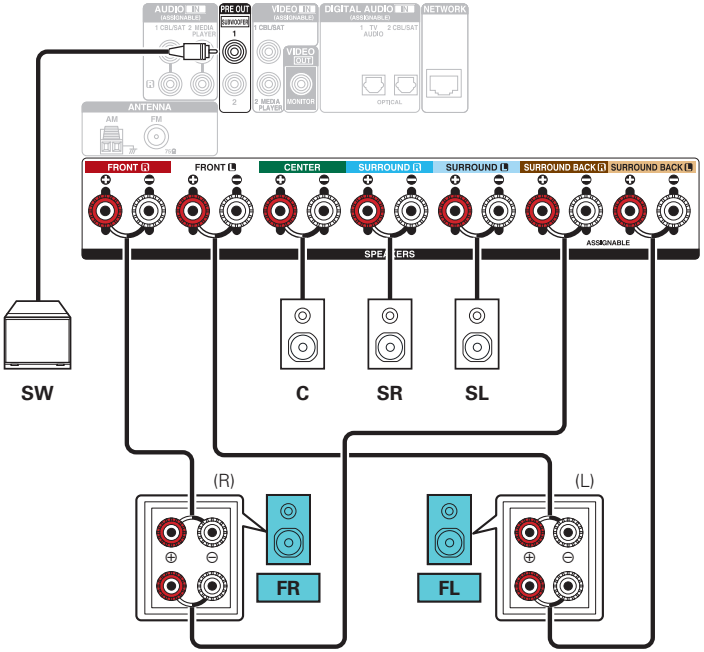


- メニューの“アサインモード”を“サラウンド Dolby”に設定してください。(☞171 ページ)

5.1 チャンネルのスピーカーを接続する：フロントスピーカーのバイアンプ接続

5.1 チャンネル再生をおこなうシステムです。フロントスピーカーはバイアンプ接続ができます。バイアンプ接続は、バイアンプ対応スピーカーのツィーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力（出力されずに戻ってくる電力）がツィーターに流れ込んでツィーターの音質に影響を及ぼすことがないため、より高音質な再生をお楽しみいただけます。





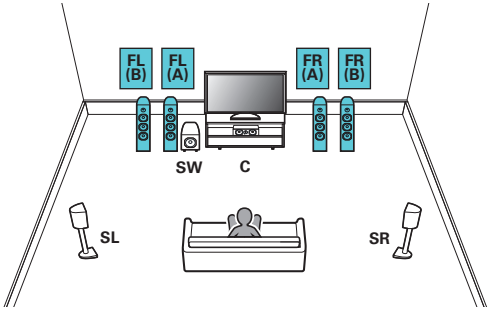
- メニューの“アサインモード”を“Bi-Amp”に設定してください。(☞172 ページ)

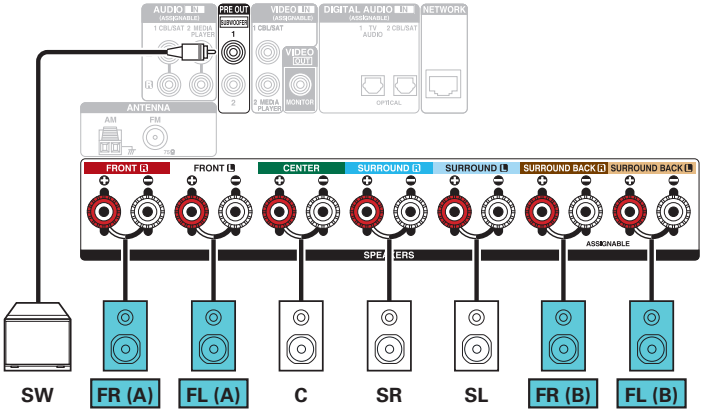
ご注意

- バイアンプ接続をおこなう場合は、スピーカーのウーハー端子とツィーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。

5.1 チャンネルのスピーカーを接続する:2 台目のフロントスピーカーの接続

フロントスピーカー A またはフロントスピーカー B をお好みに合わせて切り替えて再生できるシステムです。



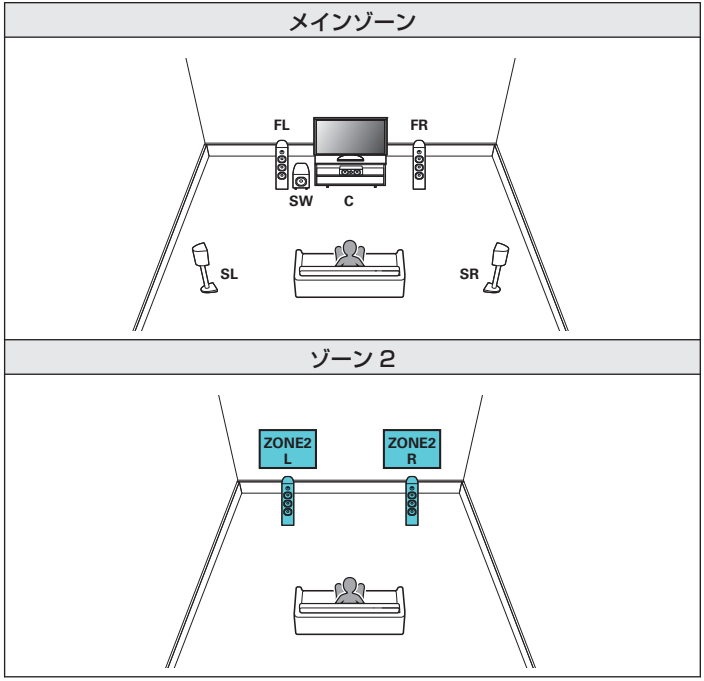


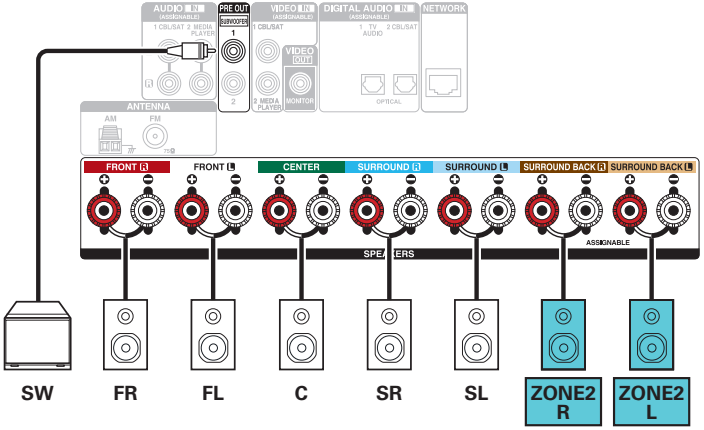
- メニューの“アサインモード”を“Front B”に設定してください。(☞172 ページ)

マルチゾーンのスピーカーを接続する

■ 5.1 チャンネル(メインゾーン)+ 2 チャンネル(ゾーン 2)スピーカーの接続

メインゾーンでは 5.1 チャンネル再生をおこない、ゾーン 2 では 2 チャンネル再生をおこなうシステムです。

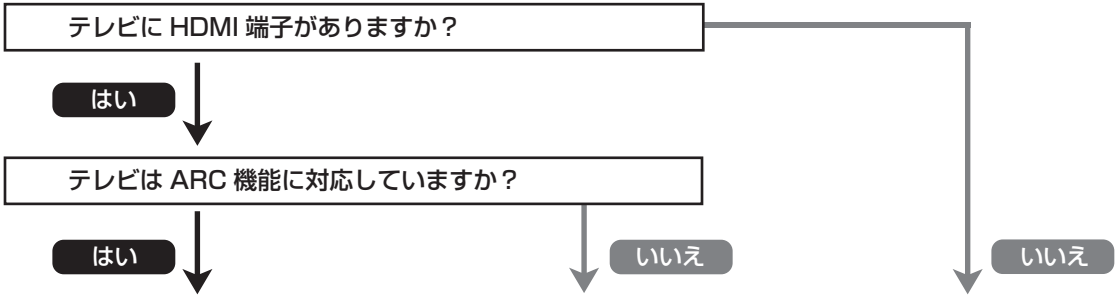




- メニューの“アサインモード”を“ZONE2”に設定してください。 (☞172 ページ)

テレビを接続する

本機にテレビを接続し、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビの音声を本機で楽しむこともできます。
接続方法は、テレビに装備されている端子や機能により異なります。
ARC（Audio Return Channel）機能は、HDMI ケーブルを経由してテレビの音声信号を伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。



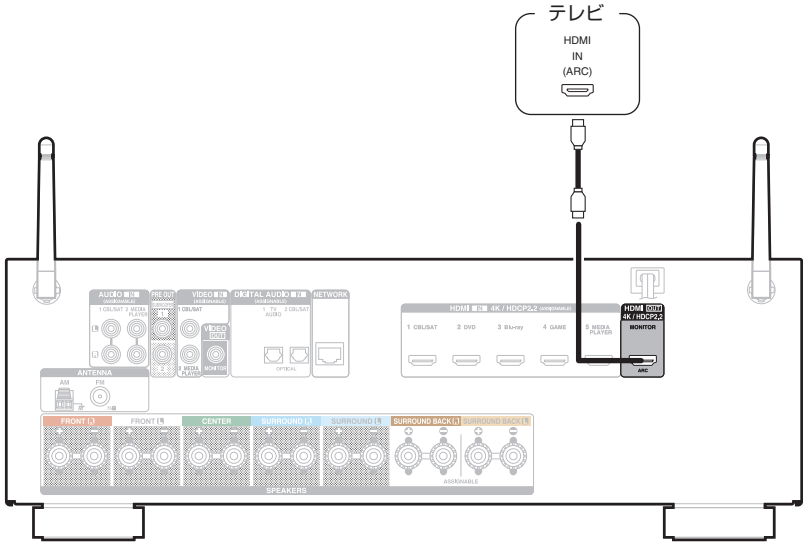
「接続 1：HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ」
(☞51 ページ)

「接続 2：HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ」
(☞52 ページ)

「接続 3：HDMI 端子がないテレビ」
(☞53 ページ)

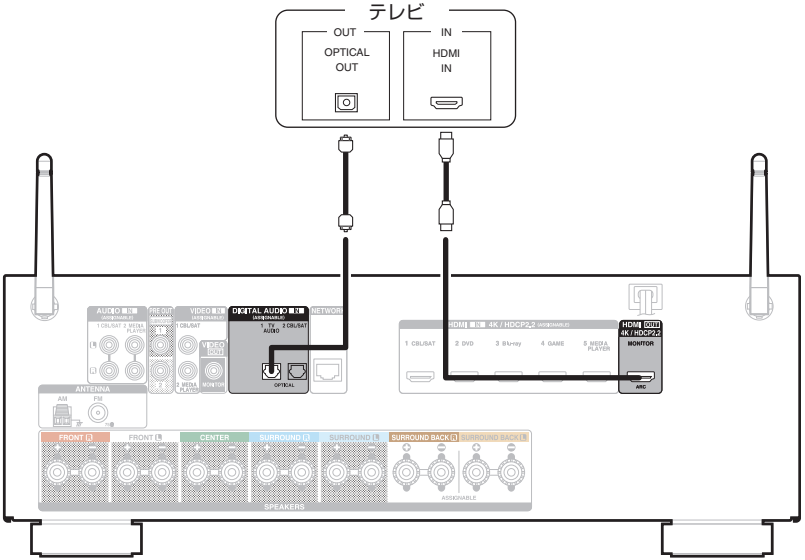
接続 1:HDMI 端子付き/ARC 機能対応のテレビ

HDMI ケーブルを使用して、本機に ARC 機能対応のテレビを接続します。
ARC 機能対応のテレビを使用する場合は、メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定してください。(☞151 ページ)



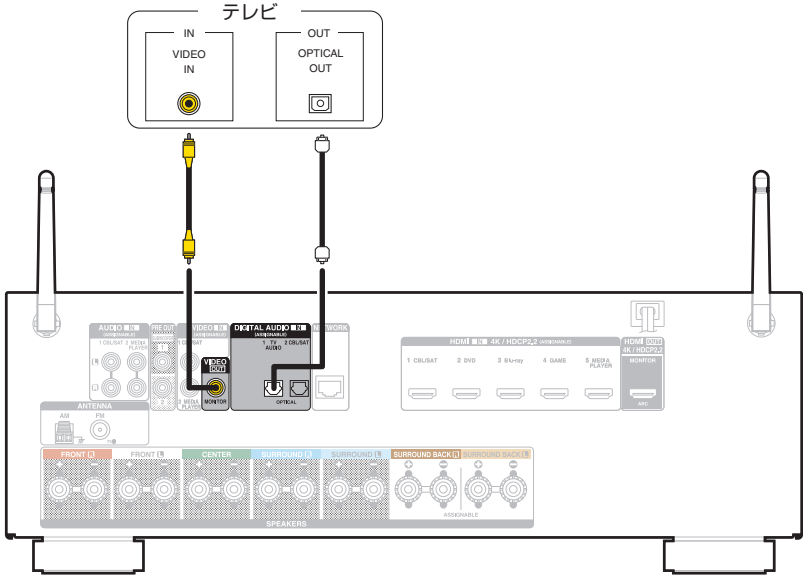
接続 2:HDMI 端子付き/ARC 機能非対応のテレビ

HDMI ケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。
本機を経由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。



接続 3:HDMI 端子がないテレビ

ビデオケーブルを使用して、本機にテレビを接続します。
本機を経由してテレビの音声を聴く場合は、光伝送ケーブルを使用して本機にテレビを接続します。



再生機器を接続する

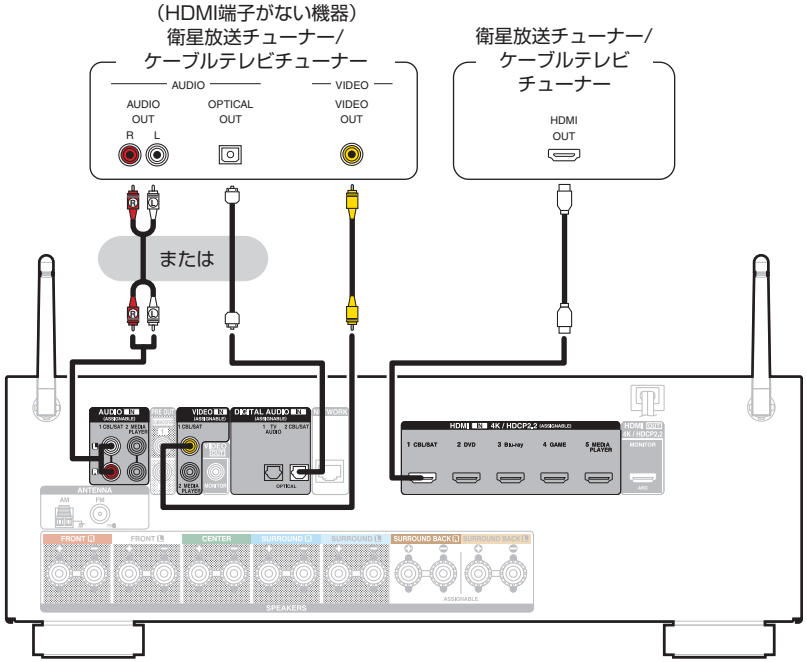
本機には 2 種類(HDMI、ビデオ)の映像入力端子と、3 種類(HDMI、デジタルオーディオ、オーディオ)の音声入力端子があります。
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。
本機と接続する機器に HDMI 端子がある場合には、HDMI ケーブルでの接続をおすすめします。
HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。

- 「セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)」(☞55 ページ)
- 「DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する」(☞56 ページ)
- 「ビデオカメラやゲーム機などを接続する」(☞57 ページ)

- 本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースのとおりに機器を接続してください。
- 本機では、HDMI IN 端子、DIGITAL AUDIO IN 端子、VIDEO IN 端子、AUDIO IN 端子に割り当てる入力ソースを変更できます。入力端子に割り当てる入力ソースの変更のしかたは、"入力端子の割り当て"をご覧ください。(☞157 ページ)
- 本機に入力した音声信号を HDMI 接続しているテレビで再生する場合は、メニューの"HDMI オーディオ出力"を"テレビ"に設定してください。(☞149 ページ)
- HDCP 2.2 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。

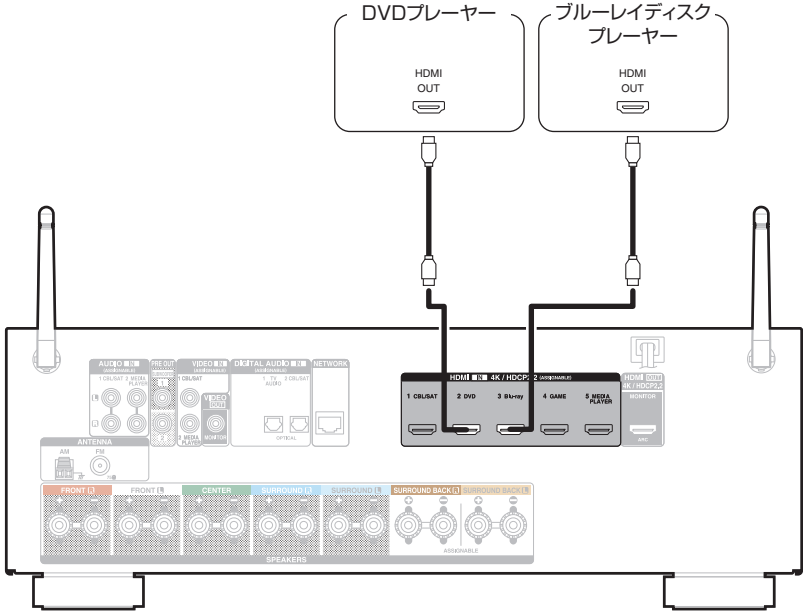
セットトップボックスを接続する(衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナー)

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーの接続例です。
本機の入力端子は、接続する機器に装備されている端子に合わせて選択してください。



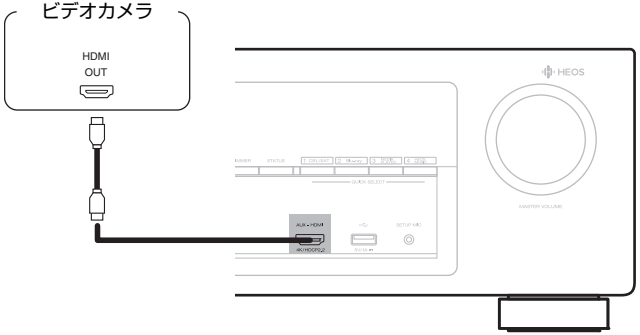
DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを接続する

DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーの接続例です。



ビデオカメラやゲーム機などを接続する

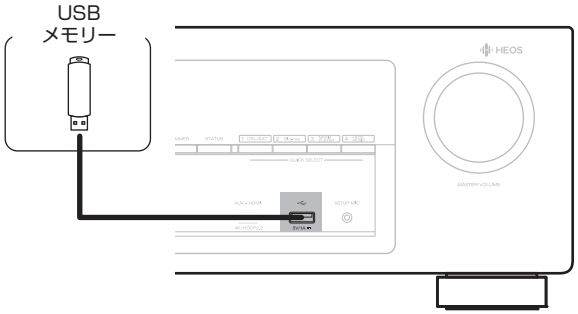
ビデオカメラの接続例です。
この端子には、ビデオカメラやゲーム機などの再生機器を接続します。



- 本接続では、4K 60/50Hz のビデオ信号は YCbCr 4:2:0 以外のフォーマットを入力できません。お使いの機器の 4K 60/50Hz の出力フォーマットが YCbCr 4:2:0 に対応していない場合は、リアパネルの HDMI 端子をご使用ください。

USB端子にUSBメモリーを接続する

操作のしかたは、「USB メモリーを再生する」(☞67 ページ)をご覧ください。



- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものを使用する場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。

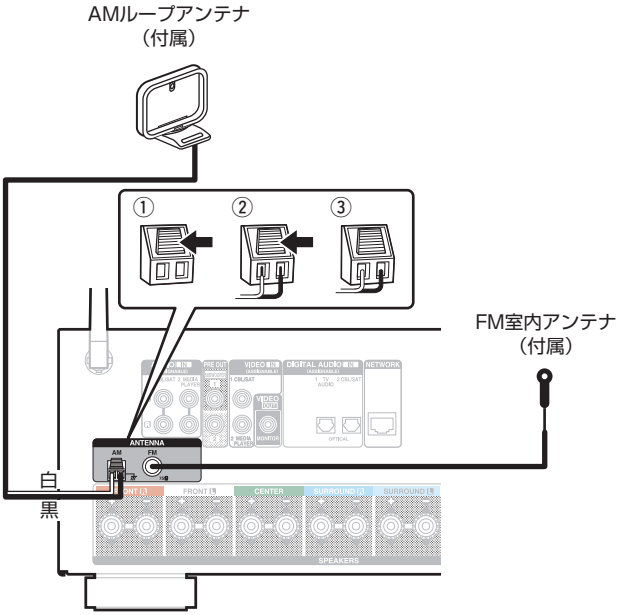
FMアンテナやAMループアンテナを接続する

本機にアンテナを接続してから放送を受信して、ノイズが最も少なく受信できるアンテナの位置をさがします。アンテナをその場所に接着テープなどで固定してください。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(☞75 ページ))

- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ご注意

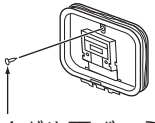
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないか確認してください。
- 本機の FM アンテナ端子の形状は「PAL 型」です。市販のアンテナやケーブルなどをご使用になるときは、「PAL 変換アダプター」をお買い求めください。



■ AM ループアンテナの使いかた

壁に掛けて使う

組み立てずにそのままお使いください。

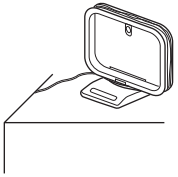


くぎや画びょうなど

置いて使う

図のように組み立ててお使いください。

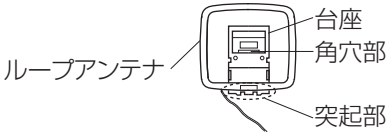
組み立てかたは、「AM ループアンテナの組み立てかた」をご覧ください。

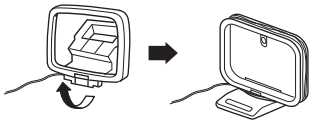


■ AM ループアンテナの組み立てかた

1 台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。

2 突起部を台座の角穴部に、差し込む。





ホームネットワーク(LAN)に接続する

本機は有線 LAN または無線 LAN を使用して、ネットワークに接続できます。

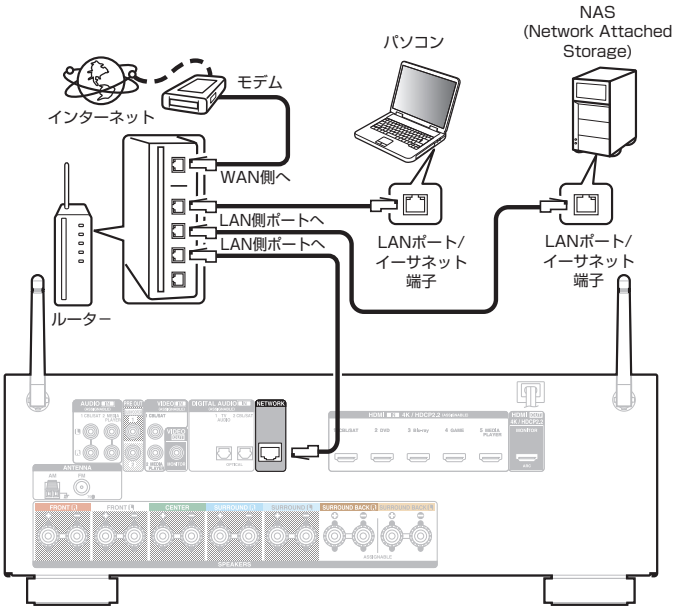
本機はホームネットワーク(LAN)に接続して、次のさまざまな再生や操作をおこなうことができます。

- インターネットラジオやメディアサーバーなどのネットワークオーディオの再生
- ストリーミング音楽サービスの再生
- AirPlay 再生
- ネットワークを経由した本機の操作
- HEOS 無線マルチルームサウンドシステムでの動作
- ファームウェアのアップデート

インターネットの接続については、ISP (Internet Service Provider)またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

有線 LAN

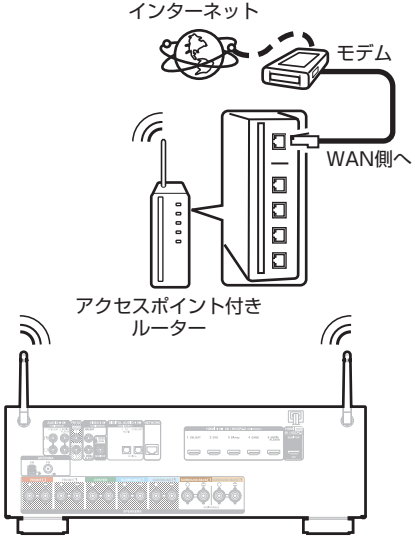
有線 LAN で接続する場合は、図のようにルーターと本機を LAN ケーブルで接続してください。



無線 LAN

無線 LAN でネットワークに接続する場合は、リアパネルの Bluetooth/無線 LAN 用ロッドアンテナを立ててご使用ください。

無線 LAN ルーターとの接続方法は、“Wi-Fi 設定”をご覧ください。(☞183 ページ)



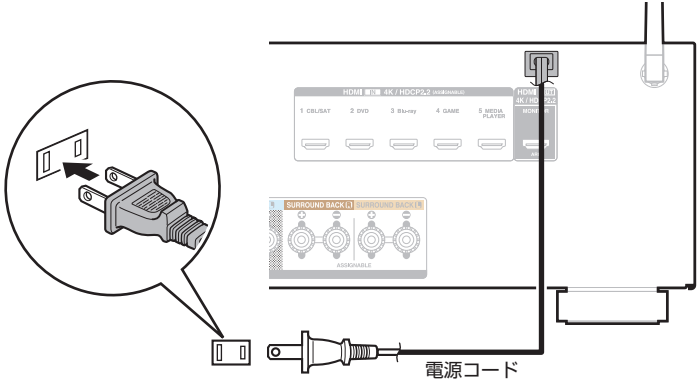
- 本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルーターをおすすめします。
  - DHCP サーバー内蔵
    LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
  - 100BASE-TX スイッチ内蔵
    複数の機器を接続するために、100Mbps 以上の速度で、スイッチングハブを内蔵していることをおすすめします。
- STP タイプまたは ScTP タイプのシールド LAN ケーブルを使用してください。(CAT-5 以上を推奨)
- LAN ケーブルは、シールド付きのノーマルタイプをおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルを使用すると、ノイズが他の機器に影響を及ぼす可能性があります。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続して使用する場合は、メニューの“ネットワーク”で IP アドレスなどの設定をおこなってください。(☞182 ページ)

ご注意

- ISP 業者によって使用できるルーターの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルーターが必要です。
- 電気通信端末機器認定品の市販ルーターなどに LAN 接続してください。
- NETWORK 端子は、直接パソコンの LAN ポート/イーサネット端子と接続しないでください。
- 各種オンラインサービスは、予告なく終了する場合があります。

電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



■ 目次

基本操作

電源を入れる 65
入力ソースを選ぶ 65
音量を調節する 66
一時的に音を消す(ミューティング) 66
サウンドモードを選ぶ 109

機器を再生する

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する 66
USB メモリーを再生する 67
Bluetooth 機器の音楽を聴く 71
FM 放送または AM 放送を聴く 75

ネットワークオーディオ/サービスを再生する

インターネットラジオを聴く 83
パソコンや NAS に保存されているファイルを再生する 85
HEOS アプリをダウンロードする 89
AirPlay 機能 98
Spotify Connect 機能 101

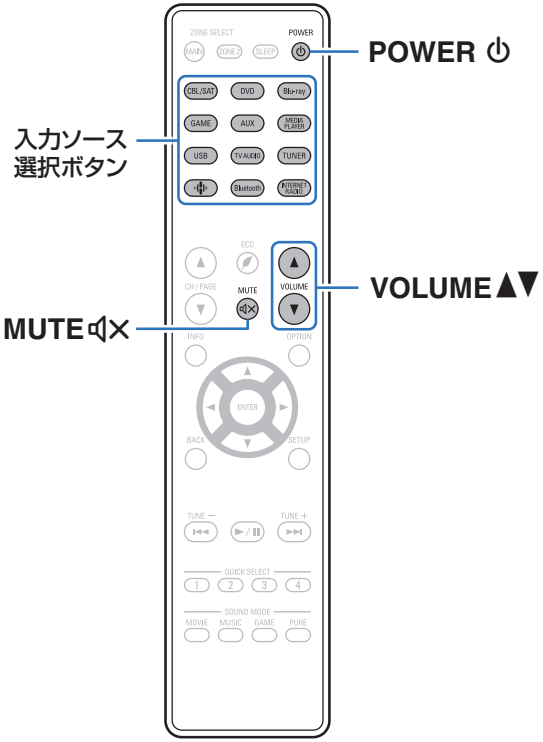
便利な機能

便利な機能 102
HDMI コントロール機能 120
スマートメニュー機能 121
スリープタイマー機能 123
クイックセレクトプラス機能 125

その他の機能

ゾーン 2(別の部屋)での再生 128

基本操作



電源を入れる

1 **POWER ⏻ を押して、電源を入れる。**

- 電源がスタンバイ状態のときに入力ソース選択ボタンを押しても、電源がオンになります。
- 本体の ⏻ を押しても電源を入れることができます。

入力ソースを選ぶ

1 **再生する入力ソース選択ボタンを押す。**
入力ソースをダイレクトに選択できます。

- 本体の SOURCE SELECT を回しても、入力ソースを選択できます。

音量を調節する

1 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。
- 本体の MASTER VOLUME を回しても、音量を調節できます。

一時的に音を消す（ミューティング）

1 MUTE 🔇を押す。
- ディスプレイの MUTE 表示が点滅します。
- テレビ画面に🔇を表示します。

- メニューの“ミューティングレベル”で音量の減衰量を設定できます。(☞143 ページ)
- ミューティングを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE 🔇を押してください。

DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーを再生する

ここでは、DVD プレーヤーやブルーレイディスクプレーヤーの再生のしかたを例に説明します。

1 再生の準備をする。
① テレビ、サブウーハーおよびプレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を本機の入力に設定する。

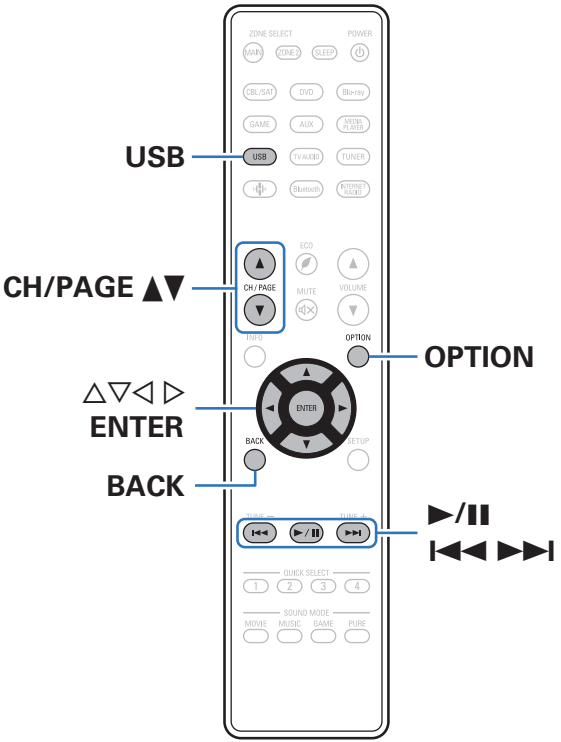
2 POWER ⏻ を押して、本機の電源を入れる。

3 DVD または Blu-ray を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 DVD プレーヤーまたはブルーレイディスクプレーヤーを再生する。

■ サラウンド再生をする(☞109 ページ)

USB メモリーを再生する



- USB メモリーに保存されている音楽ファイルを再生できます。
- 本機は、マスストレージクラスに対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーは、FAT16 または FAT32 フォーマットに対応しています。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「USB メモリーの再生について」(☞229 ページ)をご覧ください。
  - WMA
  - MP3
  - WAV
  - MPEG-4 AAC
  - FLAC
  - Apple Lossless
  - DSD

USB メモリーに保存されているファイルを再生する

1 FAT32 でフォーマットされた USB メモリーを USB 端子に挿入する。

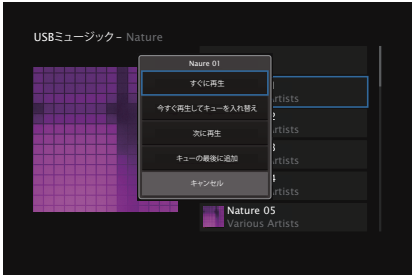
2 USB を押して、入力ソースを“USB”に切り替える。

3 本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

4 USB メモリー内の音楽データから、再生したい音楽を選ぶ。

- 音楽をどのようにリストに追加するかを選択します。

すぐに再生:	現在再生している曲の直後に選択した音楽を追加し、その曲をすぐに再生します。
今すぐ再生してキューを入れ替え:	キューを削除し、選択した曲をすぐ再生します。
次に再生:	現在再生しているトラックの直後に選択した曲を追加し、再生中の曲が終わったら選択した曲を再生します。
キューの最後に追加:	選択した曲をキューの最後に追加します。



5 **△▽ を押して“すぐに再生”または“今すぐ再生してキューを入れ替え”を選び、ENTER を押す。**

再生をはじめます。

操作ボタン	機能
▶/❚❚	再生/一時停止
⏮ ⏭	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動

- MP3 形式の音楽ファイルでアルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示させることができます。

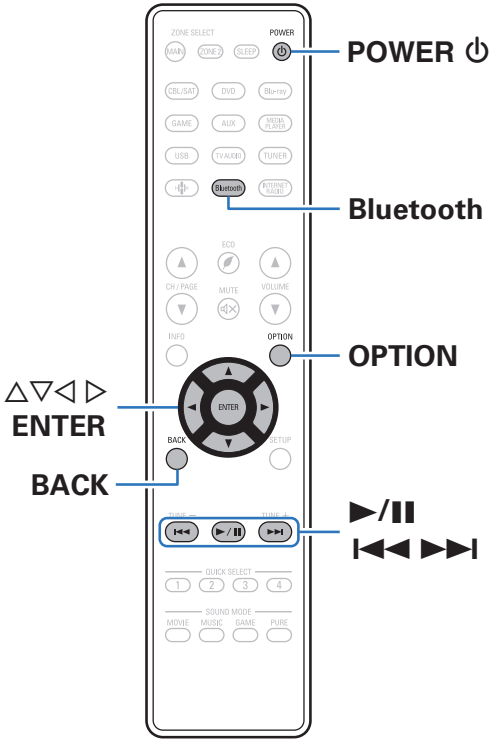
ご注意

- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。

■ オプションメニューでできる操作

- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞105 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞106 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞107 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」(☞108 ページ)

Bluetooth 機器の音楽を聴く



スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどの Bluetooth 機器と本機をペアリングして接続すると、Bluetooth 機器の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。
約 30m の範囲内で通信できます。

ご注意

- Bluetooth 機器の音楽を再生するには、Bluetooth 機器が A2DP プロファイルをサポートしている必要があります。

Bluetooth 機器の音楽を聴く

Bluetooth 機器の音楽を本機で楽しむときは、あらかじめご使用になる Bluetooth 機器と本機をペアリングしてください。
一度ペアリングすれば、再度ペアリングする必要はありません。

1 POWER ⏻ を押して、本機の電源を入れる。

2 Bluetooth を押す。

はじめてご使用になる場合は、自動的にペアリングモードになり、本機のディスプレイに“Pairing...”を表示します。

3 Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。

4 Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。

本機のディスプレイに“Pairing”が表示されている間に、Bluetooth 機器の接続操作をおこなってください。
また、Bluetooth 機器の接続操作は、本機に近い距離（1m 程度）でおこなってください。

5 Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。

- 本機のリモコンでも Bluetooth 機器を操作できます。
- 次回以降、リモコンの Bluetooth を押した場合、本機は自動的に最後に接続していた Bluetooth 機器に接続します。

操作ボタン	機能
▶/⏸	再生/一時停止
⏮ ⏭	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ

- 再生中に本体の STATUS を押すと、タイトル名、アーティスト名、アルバム名などを切り替えて表示します。

2台目以降のBluetooth機器とペアリングする

Bluetooth 機器と本機をペアリングします。

1 **Bluetooth 機器の Bluetooth 機能を有効にする。**

2 **リモコンの Bluetooth を 3 秒以上押す。**

本機はペアリングモードになります。

3 **Bluetooth 機器の画面に表示された機器の一覧に本機の名称が表示されたら、本機を選ぶ。**

- 本機は最大 8 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の Bluetooth 機器をペアリングすると、一番古い機器に置き換えて登録します。
- Bluetooth の再生画面が表示されているときに OPTION を押し、表示されたオプションメニューから“ペアリングモード”を選択しても、ペアリングモードに入ることができます。

ご注意

- 本機のリモコンで操作するには、Bluetooth 機器が AVRCP プロファイルに対応している必要があります。
- すべての Bluetooth 機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。
- Bluetooth 機器によっては、本機は Bluetooth 機器で設定している音量と連動して音声を出力します。

■ オプションメニューでできる操作

- 「2 台目以降の Bluetooth 機器とペアリングする」(☞73 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞105 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞106 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞107 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」(☞108 ページ)

Bluetooth 機器から本機に再接続する

ペアリングが済んでいれば、本体の操作をせずに接続することができます。
再生する Bluetooth 機器を切り替える場合にもこの操作をおこなってください。

1 **現在接続している Bluetooth 機器がある場合、その機器の Bluetooth 設定をオフにして接続を切断する。**

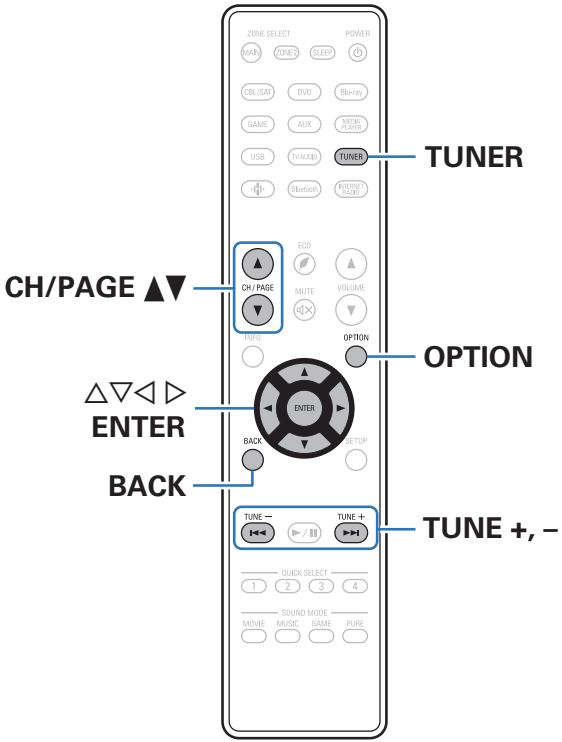
2 **接続したい Bluetooth 機器の Bluetooth 設定をオンにする。**

3 **お使いの Bluetooth 機器の Bluetooth 機器リストから本機を選択する。**

4 **Bluetooth 機器のアプリを使用して音楽を再生する。**

- 本機の電源がオンのときに Bluetooth 機器の接続操作をおこなうと、自動的に“Bluetooth”の再生画面に切り替わります。
- 本機の“ネットワークコントロール”設定を“常時オン”にし、本機がスタンバイ状態のときに Bluetooth 機器から接続操作をおこなうと、自動的に本機の電源はオンになります。(☞186 ページ)

FM放送またはAM放送を聴く



本機に内蔵のチューナーを使用して、FM 放送および AM 放送を聴くことができます。
事前に必ず FM アンテナおよび AM ループアンテナを本機に接続してください。

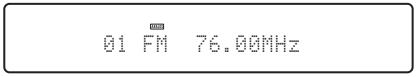
FM 放送または AM 放送を聴く

1 アンテナを接続する。(「FM アンテナや AM ループアンテナを接続する」(☞59 ページ))

2 TUNER を押して、入力ソースを“Tuner”に切り替える。

【 テレビ画面 】

【 本体のディスプレイ 】



3 OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

4 △▽ を押して“FM/AM”を選び、ENTER を押す。
受信バンド入力画面を表示します。

5 ◁▷ を押して“FM”または“AM”を選び、ENTER を押す。

FM:	FM 放送を聴くときに選択します。
AM:	AM 放送を聴くときに選択します。

6 TUNE +または TUNE -を押して、聴きたい放送局を選ぶ。
受信可能な放送局が見つかるまでスキャンします。放送局が見つかると自動的にスキャンを停止して受信します。

- FM 放送局を受信するモードには、本機が自動的に受信できる放送局を探して受信する“オート”モードと、ボタン操作で周波数を切り替えて受信する“マニュアル”モードがあります。お買い上げ時の設定は“オート”です。そのほかにも受信周波数の数字を入力して受信する“ダイレクトチューニング”モードがあります。
  “オート”モードでは、受信状態が良くない放送局は受信できません。その場合は“マニュアル”モードまたは“ダイレクトチューニング”モードで受信してください。

操作ボタン	機能
TUNE +, −	放送局の選択(アップ/ダウン)
CH/PAGE ▲▼	プリセット登録した放送局の選択
△ ▽	放送局の選択(アップ/ダウン)
◁ ▷	プリセット登録した放送局の選択

■ オプションメニューでできる操作

- 「周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)」(☞77 ページ)
- 「受信モードを変更する(チューニングモード)」(☞78 ページ)
- 「自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセット)」(☞78 ページ)
- 「聴いている放送局をプリセットする(プリセットに登録)」(☞79 ページ)
- 「プリセットした放送局に名前をつける(プリセットネーム)」(☞80 ページ)
- 「プリセットした放送局をスキップする(プリセットスキップ)」(☞81 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞105 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞106 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞107 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」(☞108 ページ)

周波数を入力して受信する(ダイレクトチューニング)

ダイレクトに周波数を入力して、放送局を受信します。

1 入力ソースが"Tuner"のときに、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して"ダイレクトチューニング"を選び、ENTER を押す。

周波数入力画面を表示します。

3 △▽ を押して数字を選び、▷ を押す。

- ◁ を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。

4 手順 3 をくり返し、聴きたい放送局の周波数を入力する。

5 入力が完了したら、ENTER を押す。

放送局を受信します。

受信モードを変更する(チューニングモード)

受信モードを変更します。“オート”モードで自動的に放送局を受信できないときは、“マニュアル”モードに変更し、手動で放送局を受信してください。

1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“チューニングモード”を選び、ENTER を押す。

3 ◁▷ を押してチューニングモードを選び、ENTER を押す。

オート:	自動的に受信できる放送局を探して受信するモードです。
マニュアル:	ボタン操作で 1 ステップずつ周波数を切り替えて受信するモードです。

自動で放送局を選局しプリセットする(オートプリセット)

自動で最大 56 局までプリセットできます。

1 入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“オートプリセット”を選び、ENTER を押す。

3 ENTER を押す。

自動で放送局を受信し、プリセットをはじめます。

- プリセットが完了すると“完了しました”を約 5 秒間表示し、オプションメニュー画面が消灯します。

- プリセットメモリーは上書きされます。

聴いている放送局をプリセットする(プリセットに登録)

手動でお好みの放送局を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

1 **プリセットしたい放送局を受信する。(「FM 放送または AM 放送を聴く」(☞76 ページ))**

2 **OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

3 **△▽ を押して"プリセットに登録"を選び、ENTER を押す。**
すでにプリセットされているチャンネルリストを表示します。

4 **△▽ を押してプリセットしたいチャンネルを選び、ENTER を押す。**
現在受信している放送局をプリセットします。
- 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1～4 をおこなってください。

チャンネル	お買い上げ時の設定
1～8	76.00 / 83.00 / 89.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
9～16	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
17～24	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
25～32	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
33～40	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
41～48	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz
49～56	90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00 / 90.00MHz

プリセットした放送局を聴く

1 **CH/PAGE ▲▼ を押して、プリセットした放送局を選ぶ。**

- 本体の TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH －を押しても、プリセットした放送局を選択できます。

プリセットした放送局に名前をつける（プリセットネーム）

プリセットした放送局に名前をつけたり、変更したりすることができます。
8 文字まで入力できます。

1 **入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。**
オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽ を押して“プリセットネーム”を選び、ENTER を押す。**
“プリセットネーム”画面を表示します。

3 **◁▷ を押して、名前をつけたい放送局のグループを選ぶ。**

4 **△▽ を押して名前をつけたい放送局を選び、ENTER を押す。**

5 **△▽ を押してネームラベルを選び、ENTER を押す。**
プリセットネームの編集画面を表示します。
• “初期化”を選択すると、周波数表示に戻ります。

6 **文字を入力して“OK”を押す。**

7 **OPTION を押して、元の画面に戻る。**

プリセットした放送局をスキップする（プリセットスキップ）

オートプリセットメモリーをおこなうと、受信できる放送局をすべてメモリーします。不要なメモリーをスキップさせることで選局しやすくなります。

1 **入力ソースが“Tuner”のときに、OPTION を押す。**

オプションメニュー画面を表示します。

2 **△▽ を押して“プリセットスキップ”を選び、ENTER を押す。**

“プリセットスキップ”画面を表示します。

3 ❑ **スキップしたい放送局をグループごとに設定するとき**

① ◁▷ を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。

② △ を押して “No.＊－＊ をスキップ設定にします” を選び、ENTER を押す。

選択したグループ“＊－＊”に含まれるすべての放送局をスキップします。

（＊ は選択しているグループ番号です。）

❑ **スキップしたい放送局ごとに設定するとき**

① ◁▷ を押して、スキップしたい放送局のグループを選ぶ。

② △▽ を押して、スキップしたい放送局を選ぶ。

③ ◁▷ を押して、“スキップ”を選ぶ。

選択した放送局をスキップします。

4 **OPTION を押して、元の画面に戻る。**

プリセットスキップを解除する

1 “プリセットスキップ”画面を表示中に◁▷を押して、スキップを解除したい放送局を含むグループを選ぶ。

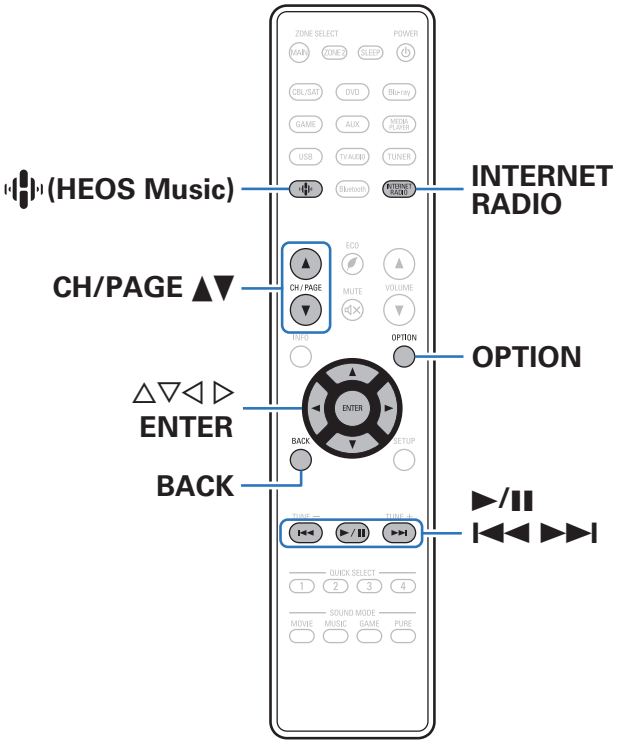
2 △▽を押して、スキップを解除したい放送局を選ぶ。

3 ◁▷を押して、“オン”を選ぶ。
スキップを解除します。

ご注意

- “プリセットスキップ”の解除をグループごとにおこなうことはできません。

インターネットラジオを聴く



- インターネットラジオとは、インターネット上に配信されているラジオ放送です。世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。
- 本機のインターネットラジオ局リストは、TuneIn ラジオサービスのデータベースサービスを利用しています。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「インターネットラジオの再生について」(☞232 ページ)をご覧ください。
  - WMA
  - MP3
  - MPEG-4 AAC

インターネットラジオを聴く

1 INTERNET RADIO を押す。

- (HEOS Music)を押しても操作ができます。△▽ を押して“TuneIn インターネットラジオ”を選び、ENTER を押してください。

2 再生したい放送局を選ぶ。

操作ボタン	機能
▶/❚❚*	再生/一時停止
⏮ ⏭ *	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動

* ポッドキャストを再生中に有効です。

- 本体の STATUS を押すたびにタイトル名、放送局名などを切り替えて表示します。

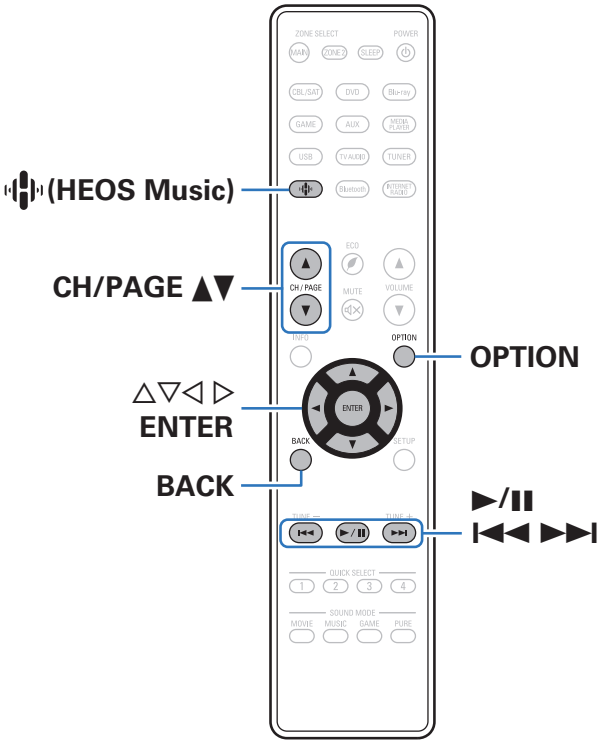
ご注意

- ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止する場合があります。

■ オプションメニューでできる操作

- 「HEOS お気に入りに追加する」(☞103 ページ)
- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞105 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞106 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞107 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」(☞108 ページ)

パソコンやNASに保存されているファイルを再生する



- 本機では、パソコンや DLNA 対応の NAS（Network Attached Storage）に保存されている音楽ファイルやプレイリスト（m3u、wpl）を再生できます。
- 本機で再生できる音声フォーマットの種類は、次のとおりです。詳しくは、「パソコンや NAS に保存されているファイルの再生について」(☞231 ページ)をご覧ください。
  - WMA
  - MP3
  - WAV
  - MPEG-4 AAC
  - FLAC
  - Apple Lossless
  - DSD

パソコンやNASに保存されているファイルを再生する

DLNA ファイルサーバーに保存されている音楽ファイルやプレイリストを再生する場合におこないます。

1 (HEOS Music)を押す。

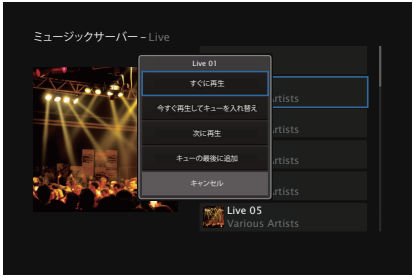
2 △▽を押して“ミュージックサーバー”を選び、ENTERを押す。

3 ネットワーク上のパソコンまたは NAS (Network Attached Storage)名を選ぶ。

4 パソコンまたは NAS 内の音楽データから、再生する音楽を選ぶ。

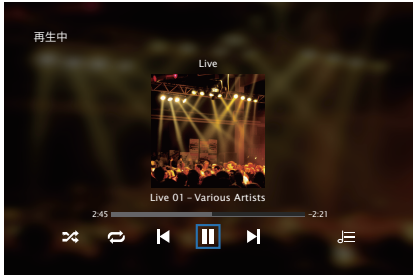
- 音楽をどのようにリストに追加するかを選択します。

すぐに再生:	現在再生している曲の直後に選択した音楽を追加し、その曲をすぐに再生します。
今すぐ再生してキューを入れ替え:	キューを削除し、選択した曲をすぐ再生します。
次に再生:	現在再生しているトラックの直後に選択した曲を追加し、再生中の曲が終わったら選択した曲を再生します。
キューの最後に追加:	選択した曲をキューの最後に追加します。



5 △▽ を押して“すぐに再生”または“今すぐ再生してキューを入れ替え”を選び、ENTER を押す。

再生をはじめます。



操作ボタン	機能
▶/❚❚	再生/一時停止
⏮ ⏭	前の曲にスキップ/次の曲にスキップ
CH/PAGE ▲▼	リストを表示中に、前のページへ移動/次のページへ移動

- 本体の STATUS を押すたびにタイトル名、アーティスト名およびアルバム名を切り替えて表示します。
- WMA (Windows Media Audio)、MP3、MPEG-4 AAC のファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示できます。
- WMA ファイルのアルバムアートは、Windows Media Player(バージョン 11 以上)を使用することで表示できます。
- Windows Media Player(バージョン 11 以上)などのトランスコードに対応したサーバーをご使用になる場合は、WMA Lossless ファイルを再生できます。

ご注意

- 無線 LAN を経由して接続されたパソコンまたは NAS で音楽ファイルを再生すると、無線 LAN 環境によっては音声が途切れることがあります。このような場合は、有線 LAN で接続してください。
- 曲の表示順は、サーバーの仕様によって異なります。サーバーの仕様によって、頭文字での検索が正しく動作せず、曲の表示順がアルファベット順にならない場合があります。

■ オプションメニューでできる操作

- 「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞105 ページ)
- 「トーンを調節する(トーンコントロール)」(☞106 ページ)
- 「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞107 ページ)
- 「すべてのゾーンで同じ音楽を再生する(オールゾーンステレオ)」(☞108 ページ)

HEOSアプリをダウンロードする

HEOS アプリから多くのオンライン音楽ストリーミングサービスを使用することができます。無料または有料配信で、より多くの音楽を提供するオンラインミュージックサービスをご使用いただけます。お住まいの地域に対応しているサービスについては、http://www.HEOSbyDenon.com をご覧ください。

App ストア、Google Play ストアまたは Amazon アプリストアで“HEOS”を検索して、iOS 用または Android 用の HEOS アプリをダウンロードしてください。

HEOS アカウント

HEOS アカウントは、本機のメニューの“HEOS アカウント”(☞188 ページ)で登録するか、HEOS アプリの“ミュージック”タブ – “設定”アイコン ⚙ をタップして登録してください。

■ HEOS アカウントとは

HEOS アカウントは、1 つのユーザー名とパスワードですべての HEOS 音楽サービスを管理するマスターアカウントです。

■ HEOS アカウントが必要な理由

HEOS アカウントでログインすれば、例えば友人宅の HEOS システムで音楽を聴くときでも、アカウント登録しているストリーミング音楽サービスや再生履歴、カスタムプレイリストにアクセスできます。

■ HEOS アカウントに登録する

HEOS アプリの“ミュージック”メニューからはじめて音楽サービスにアクセスするときに、HEOS アカウントへの登録をおすすめするメッセージと登録画面を表示します。

■ HEOS アカウントを変更する

1 “ミュージック”タブをタップする。

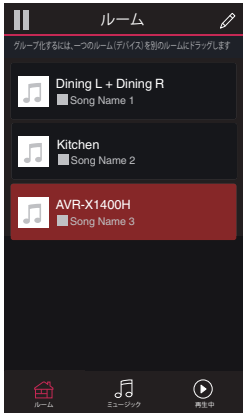
2 画面左上の設定アイコン ⚙ をタップする。

3 “HEOS アカウント”をタップする。

4 位置情報の変更やパスワードの変更、アカウントの削除、サインアウトをおこなう。

ストリーミング音楽サービスを再生する

無料または有料配信で、より多くの音楽を提供するオンラインミュージックサービスをご使用いただけます。お住まいの地域に対応しているサービスについては、
http://www.HEOSbyDenon.com をご覧ください。

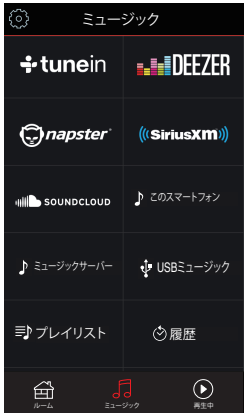


■ 再生する部屋/HEOS 機器を選ぶ

1 **“ルーム”タブをタップする。**
もし複数の HEOS 機器がある場合は、“AVR-X1400H” を選ぶ。

- 右上のえんぴつアイコン をタップすると編集モードになり、表示名を変更することができます。

■ 音楽ソースから音楽や放送局を選ぶ

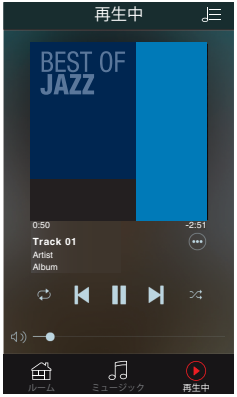


1 “ミュージック”タブをタップし、音楽ソースを選ぶ。

- 画面に表示されている音楽サービスは、お住まいの地域により利用できない場合があります。

2 再生したい音楽を選ぶ。

音楽または放送局を選ぶと、自動的に“再生中”画面に切り替わります。



- 音楽を選択時、音楽をどのようにリストに追加するかを指定します。

すぐに再生:	現在再生している曲の直後に選択した音楽を追加し、その曲をすぐに再生します。
今すぐ再生してキューを入れ替え:	キューを削除し、選択した曲をすぐ再生します。
次に再生:	現在再生しているトラックの直後に選択した曲を追加し、再生中の曲が終わったら選択した曲を再生します。
キューの最後に追加:	選択した曲をキューの最後に追加します。

- 放送局を選択時、放送局をどのようにリストに追加するかを指定します。

すぐに再生:	選択した放送局をすぐに再生します。
HEOS お気に入りに追加:	HEOS お気に入りに追加します。

同じ音楽を複数の部屋で聴く

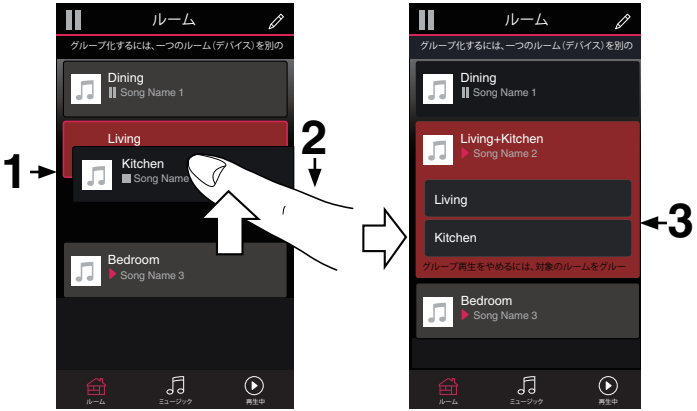
HEOS システムは、複数の HEOS 機器間の音楽再生を自動的に同期し、最大 32 台の HEOS 機器を HEOS システムに追加できます。また、16 台の HEOS 機器を 1 つのグループにすることで、一つの HEOS 機器のように機能させることができます。

■ 部屋をグループ化する

1 音楽を再生していない部屋をホールド(指で押さえたままに)する。

2 そのまま音楽を再生している部屋(赤枠で囲まれている部屋)までドラッグする。

3 2 つの部屋が 1 つのグループにグループ化され、両方の部屋で同じ音楽を再生する。



- 本機の外部入力をグループ再生する場合は、選択したオーディオ機器がアナログオーディオ入力を介して本機に接続されていることを確認してください。HDMI および OPTICAL 接続は、HEOS グループの再生には対応していません。

■ 部屋のグループ化を解除する

1 グループから外したい部屋をホールド(指で押さえたままに)する。

2 グループ(赤枠)の外にドラッグして、指を離す。

ご注意

- グループ化は音楽を再生している部屋が基準となるため、その部屋をグループから解除することはできません。

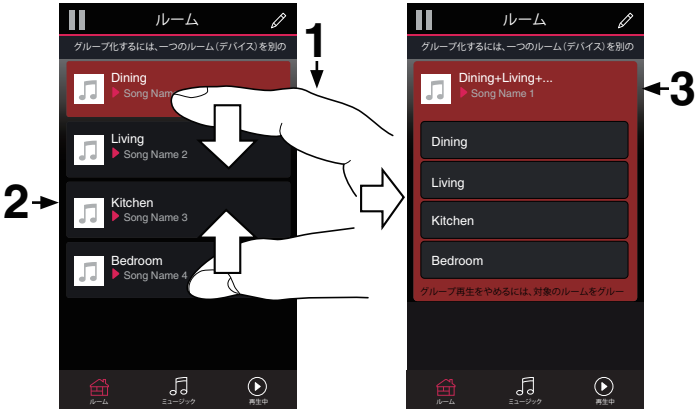
■ すべての部屋をグループ化する(パーティーモード)

ピンチジェスチャーを使用して、最大 16 の部屋をグループ化できます。

1 部屋のリスト上の画面に2本の指を置く。

2 2本の指ですばやくつまむ動作をして、画面から離す。

3 すべての部屋をグループ化し、同じ音楽がすべての部屋で再生する。



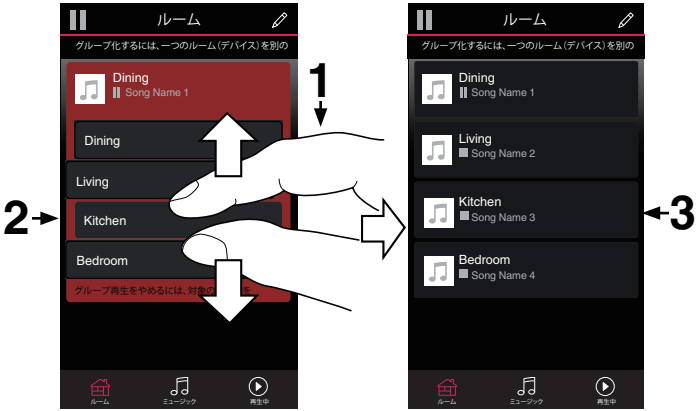
■ すべての部屋のグループ化を解除する

スプレッドジェスチャーを使用して、すべての部屋のグループ化を解除できます。

1 部屋のリスト上の画面に2本の指を近づけて置く。

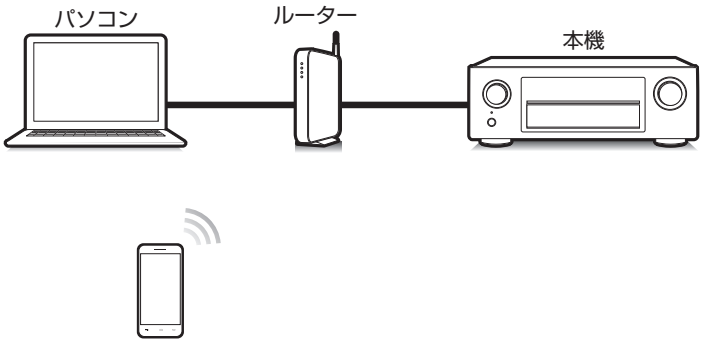
2 2本の指をすばやく互いに遠ざけ、画面から離す。

3 すべての部屋のグループ化を解除する。



AirPlay 機能

iPhone、iPod touch、iPad や iTunes に保存されている音楽ファイルを、ネットワークを経由して本機で再生できます。



- AirPlay の再生を開始すると、本機の入力ソースは自動的に“HEOS Music”に切り替わります。
- 他の入力ソースに切り替えると、AirPlay の再生が停止します。
- 本体の STATUS を押すと、曲名とアーティスト名を確認できます。
- iTunes の使用方法は、iTunes の“ヘルプ”をご覧ください。
- 画面は、OS やソフトのバージョンによって異なる場合があります。

iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機で再生する

iPhone、iPod touch、iPad を iOS 4.2.1 以上にアップデートすると、iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機へダイレクトにストリーミングできます。

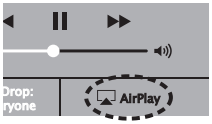
1 **iPhone、iPod touch または iPad の Wi-Fi 設定を本機と同じネットワークに接続する。**
- 詳しくは、ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

2 **iPhone、iPod touch、iPad の曲を再生する。**
iPhone、iPod touch または iPad の画面に AirPlay アイコンを表示します。

3 **AirPlay アイコンをタップする。**

【例】iOS 10

【例】iOS 9



4 **再生したいスピーカー(機器)をクリックする。**

iTunes の曲を本機で再生する

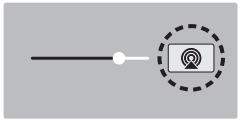
1 **本機と同じネットワークに接続しているパソコンに、iTunes10 以降をインストールする。**

2 **本機の電源を入れる。**
本機の“ネットワークコントロール”設定を“常時オン”にしてください。(☞186 ページ)

ご注意
- “ネットワークコントロール”を“常時オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。

3 **iTunes を起動し、AirPlay アイコンをクリックして、本機を選ぶ。**

【例】iTunes



4 **iTunes で曲を選び、再生する。**
本機で再生をはじめます。

複数のスピーカー(機器)を選ぶ

ご家庭にある本機以外の AirPlay 対応のスピーカー(機器)で iTunes の曲を再生できます。

1 **AirPlay アイコンをクリックして、"複数の"を選ぶ。**

2 **再生したいスピーカー(機器)をクリックする。**

ご注意

- AirPlay 機能を使用して再生する場合は、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes で設定している音量で出力します。
  再生する前に、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes の音量を最小にしてから適切な音量に調節してください。

本機のリモコンで iTunes の再生操作をおこなう

本機のリモコンで、iTunes の曲の再生や一時停止、頭出し操作ができます。

1 **iTunes のメニューの"編集" - "設定"を選ぶ。**

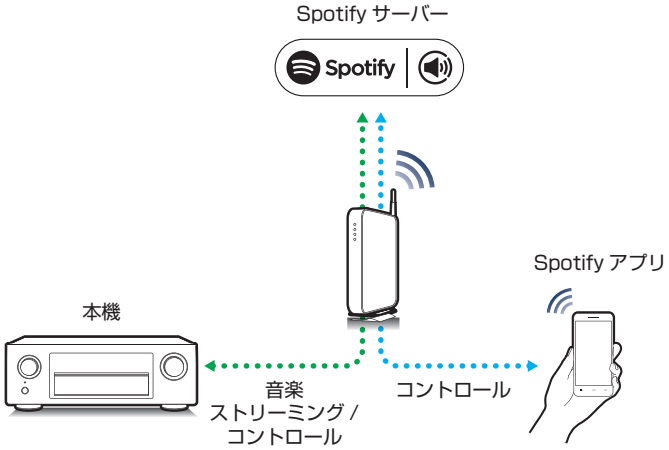
2 **iTunes の設定のウィンドウで"デバイス"を選ぶ。**

3 **"リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する"にチェックを入れ、"OK"をクリックする。**

- iTunes 12 以降をご使用になる場合は、この設定をおこなう必要はありません。

Spotify Connect機能

Spotify は、世界で人気のあるストリーミングサービスです。
Spotify のプレミアム会員に登録していると、Spotify アプリを使用してスマートフォンまたはタブレットで本機をコントロールできます。Spotify は他のアプリを使用したり、かかってきた電話を受けたりしても音楽が停止することはありません。
Spotify Connect の設定方法と使用方法については、次の URL をご覧ください。
www.spotify.com/jp/connect



Spotify の曲を本機で再生する

あらかじめお手持ちの iOS または Android 機器に “Spotify アプリ” をダウンロードしてください。
本機で Spotify の曲を再生するには、Spotify のプレミアムアカウントに登録する必要があります。

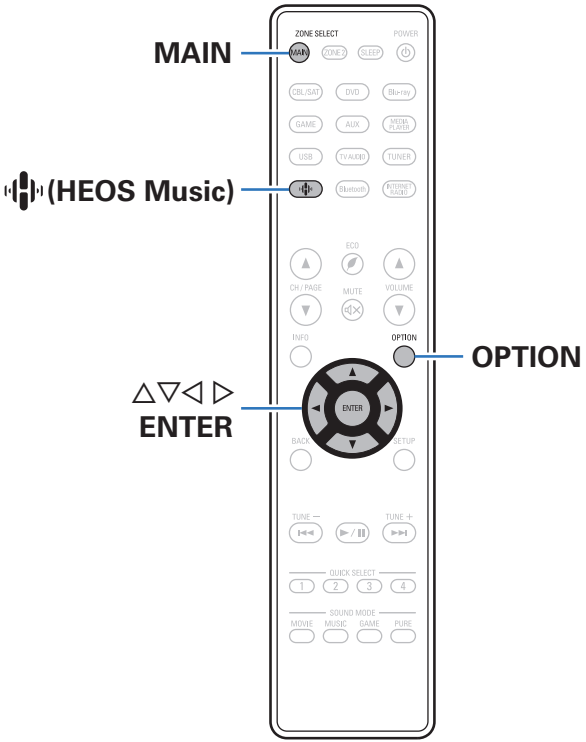
1 **iOS または Android 機器の Wi-Fi 設定を本機と同じネットワークに接続する。**

2 **Spotify アプリを起動する。**

3 **Spotify の曲を再生する。**

4 **Spotify アイコン をタップして、本機を選ぶ。**
本機で再生をはじめます。

便利な機能



- ここでは、各入力ソースで使用できる便利な機能の操作方法を説明します。
- これらの機能は、メインゾーンでのみ設定できます。

HEOS お気に入りに追加する

1 コンテンツの再生中に OPTION を押す。
オプションメニュー画面を表示します。

2 △▽ を押して“HEOS お気に入りに追加”を選び、ENTER を押す。

HEOS お気に入りを再生する

1 (HEOS Music)を押す。

2 △▽ を押して“HEOS お気に入り”を選び、ENTER を押す。

3 再生したい音楽を選ぶ。

HEOS お気に入りを削除する

1 HEOS お気に入りリスト表示中に △▽ を押して、HEOS お気に入りリストから削除したい項目を選び、OPTION を押す。

2 △▽ を押して“HEOS お気に入りから削除”を選び、ENTER を押す。

入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)

音楽を聴きながら、各チャンネルの音量を変更します。入力ソースごとに設定できます。

1 **OPTION を押す。**

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 **△▽ を押して“チャンネルレベル調節”を選び、ENTER を押す。**

“チャンネルレベル調節”画面を表示します。

3 **△▽ を押して、調整したいチャンネルを選ぶ。**

4 **◁▷ を押して、音量を調節する。**

-12.0 dB～+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)

5 **△▽◁▷ を押して“終了”を選び、ENTER を押す。**

- 各チャンネルの調整値を “0.0dB” (お買い上げ時の設定)に戻したい場合は、“はい”を選び ENTER を押してください。
- ヘッドホン接続時には、ヘッドホン用の音量を調節できます。
- “チャンネルレベル調節”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- 音声を出力しているスピーカーのみ設定できます。また、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は設定できません。(☞149 ページ)

トーンを調節する(トーンコントロール)

トーンを調節します。

1 **OPTION を押す。**

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 **△▽ を押して“トーンコントロール”を選び、ENTER を押す。**

“トーンコントロール”画面を表示します。

3 **◁▷ を押して、トーンコントロール機能のオン/オフを設定する。**

オン:	低音や高音のトーンを調節できます。
オフ (お買い上げ時の設定):	トーンを調節せずに再生します。

4 **手順 3 で“オン”を選び、▽ を押して調節する音域を選ぶ。**

低音:	低音を調節します。
高音:	高音を調節します。

5 **◁▷ を押してトーンを調節し、ENTER を押す。**

-6 dB～+6 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

- “トーンコントロール”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”のときは設定できません。
- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは設定できません。(☞145 ページ)
- 音声信号が入力されていない場合、またはメニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は設定できません。(☞149 ページ)

音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)

音声の再生中に別のソースの映像をテレビに映し出します。入力ソースごとに設定できます。

❑ **対応する入力ソース:**
Tuner / HEOS Music

1 **OPTION を押す。**

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 **△▽ を押して“ビデオセレクト”を選び、ENTER を押す。**

“ビデオセレクト”画面を表示します。

3 **◁▷ を押して、ビデオセレクトモードを選ぶ。**

オフ (お買い上げ時の設定):	ビデオセレクトモードが無効です。
オン:	ビデオセレクトモードが有効です。

4 **手順 3 で“オン”を選び、▽ を押して“ソース選択”を選ぶ。**

5 **◁▷ を押して再生したい映像の入力ソースを選び、ENTER を押す。**

- “ビデオセレクト”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

すべてのゾーンで同じ音楽を再生する（オールゾーンステレオ）

メインゾーンで再生している音楽をゾーン 2（別の部屋）でも同時に再生できます。

ホームパーティーのときに各部屋で同時に同じ音楽を楽しみたい場合や、家全体で BGM を流したい場合に便利です。

1 OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 △▽ を押して“オールゾーンステレオ”を選び、ENTER を押す。

“オールゾーンステレオ”画面を表示します。

3 “スタート”を選び、ENTER を押す。

ゾーン 2 の入力ソースがメインゾーンと同じ入力ソースに切り替わり、オールゾーンステレオモードで再生をはじめます。

■ オールゾーンステレオモードを解除する

1 オールゾーンステレオモードで再生中に、OPTION を押す。

オプションメニュー画面を表示します。

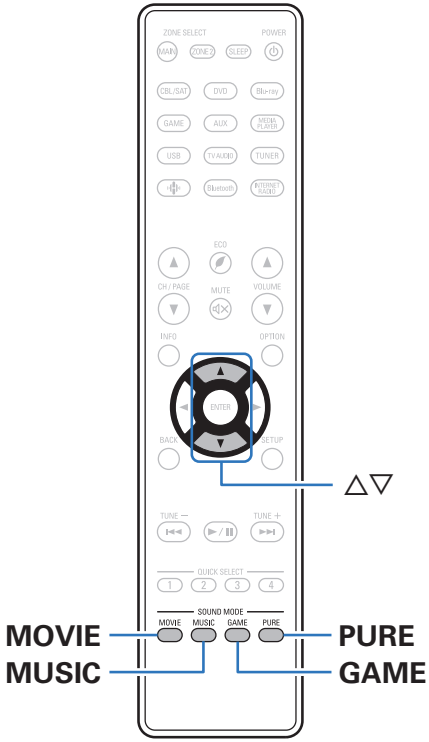
- 入力ソースが“HEOS Music”のときは、オンラインミュージックのオプションメニュー画面を表示します。“AVR オプション”を選び、ENTER を押してください。

2 △▽ を押して“オールゾーンステレオ”を選び、ENTER を押す。

3 “ストップ”を選び、ENTER を押す。

- メインゾーンの電源をオフにしたときもオールゾーンステレオモードを解除します。
- オールゾーンステレオモード中は、サウンドモードの“Multi Ch Stereo”および“Stereo”のみ選択できます。
- メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”の場合は、オールゾーンステレオモードを使用できません。(☞149 ページ)

サウンドモードを選ぶ



本機ではさまざまなサラウンド再生やステレオ再生をお楽しみいただけます。
ブルーレイディスクや DVD はもちろん、デジタル放送やネット配信の映画や音楽の多くのコンテンツには、マルチチャンネルの音声フォーマットが採用されています。
本機では、それらのマルチチャンネル音声フォーマットの再生に対応しています。また、2 チャンネルステレオ音声などのマルチチャンネル音声以外の音声フォーマットもサラウンド再生ができます。

- ディスクに収録されている音声フォーマットは、ディスクのジャケットをご覧ください。

サウンドモードを選ぶ

1 MOVIE、MUSIC または GAME を押して、サウンドモードを選ぶ。

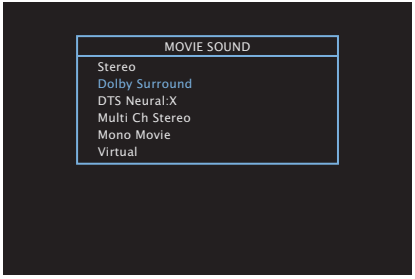
MOVIE:	サウンドモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。
MUSIC:	サウンドモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。
GAME:	サウンドモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。

- MOVIE、MUSIC または GAME のボタンには、それぞれのボタンで最後に選択したサウンドモードを記憶します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、前回再生したときと同じサウンドモードを呼び出します。
- 前回選択したサウンドモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなサウンドモードを自動的に選択します。

■ サウンドモードを切り替える

- MOVIE、MUSIC または GAME を押すと、それぞれのモードで選択できるサウンドモードを表示します。MOVIE、MUSIC または GAME を押すたびに、サウンドモードが切り替わります。
- この一覧を表示中に △▽ を押しても、サウンドモードを選択できます。
- さまざまなサウンドモードをお試しいただいた中から、最もお好みのサウンドモードでお楽しみください。

【例】MOVIE を押したとき



本機では、ディスクに収録されている Dolby や DTS などのフォーマットどおりのサラウンド再生だけでなく、ご使用のスピーカー環境に合わせた拡張タイプのサウンドモードや、Rock Arena、Jazz Club などの雰囲気を表現したサラウンド再生をおこなう“オリジナルサウンドモード”を選択できます。

ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生します。

1 **PURE を押して、"Direct" を選ぶ。**
ダイレクト再生をはじめます。

- ダイレクト再生モードのとき、次の設定はできません。
  - トーンコントロール (☞106 ページ)
  - リストアラー (☞141 ページ)
  - MultEQ® XT(☞145 ページ)
  - Dynamic EQ(☞145 ページ)
  - Dynamic Volume(☞146 ページ)
  - マニュアル EQ (☞147 ページ)

オートサラウンド再生

このモードでは、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれの信号に対応した再生モードに切り替えます。
入力信号が PCM の場合は、ステレオ再生をおこないます。入力信号が Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないます。

1 **PURE を押して、"Auto" を選ぶ。**
オートサラウンド再生をはじめます。

サウンドモードの種類について

ドルビーサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Dolby Surround	Dolby Surround を使用して、さまざまなソースを自然で臨場感のあるマルチチャンネルに拡張して再生するモードです。トップミドルなどの天井スピーカーを使用すると立体的な音場をお楽しみいただけます。
Dolby Digital	Dolby Digital で収録されたディスクの再生に適したモードです。
Dolby TrueHD	Dolby TrueHD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus で収録されたディスクの再生に適したモードです。
Dolby Atmos*	Dolby Atmos で収録されたディスクの再生に適したモードです。 Dolby Atmos コンテンツに収録されている音声データとその音声の位置データをリアルタイムで演算して適切なスピーカーから出力するため、どのようなスピーカー設置でも自然な音像を作り出すことができます。天井スピーカーや Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。

* このモードは、スピーカーの構成が 5.1 チャンネル以下のときは選択できません。

DTS サウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
DTS Surround	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS ES Dscrt6.1*1	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ディスクリート方式で追加されたサラウンドバックチャンネルを独立したチャンネルとして再生します。 すべてのチャンネルが独立しているため、360 度の空間表現力や定位感が拡大します。
DTS ES Mtrx6.1*1	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ソフトを収録時、マトリクスエンコードによりサラウンド左/サラウンド右チャンネルに追加されたサラウンドバックチャンネルを、本機のマトリクスデコーダーによってサラウンド左/サラウンド右/サラウンドバックの各チャンネルにデコードして再生します。
DTS 96/24	DTS 96/24 で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS Express	DTS Express で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS:X	DTS:X で収録されたディスクの再生に適したモードです。 DTS:X コンテンツに収録されている音声データとその音声の位置データをリアルタイムで演算して適切なスピーカーから出力するため、どのようなスピーカー設置でも自然な音像を作り出すことができます。ハイトスピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。
DTS Neural:X	DTS Neural:X Upmixer を使用して、さまざまなソースを自然で臨場感のあるマルチチャンネルに拡張して再生するモードです。 フロントハイトスピーカーなどのハイトスピーカーを使用すると、立体的な音場をお楽しみいただけます。
DTS Virtual:X*2*3	ハイトチャンネルを使用していないときに、DTS Virtual:X 技術を使用して立体的な音場をお楽しみいただけます。

*1　メニューの“スピーカーの構成” - “サラウンドバック”の設定が“無し”以外のときに選択できます。(☞174 ページ)

*2　ハイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーが使用されていないときに選択できます。

*3　入力信号が Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos のときは選択できません。

PCM マルチチャンネルサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Multi Ch In	このモードは、マルチチャンネルの PCM で収録されたディスクの再生に適したモードです。

AAC サウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
MPEG2 AAC	このモードでは、地上デジタル放送や BS デジタル放送などで MPEG-2 AAC が配信されているときに選択できます。MPEG-2 AAC により高音質の音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

オリジナルサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Multi Ch Stereo	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。
Rock Arena	アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
Jazz Club	ライブハウスでのコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
Mono Movie	モノラルの映画ソースをサラウンドサウンド再生するモードです。モノラル録音ソースを“Mono Movie”モードで再生する場合、片チャンネル(左または右)では音声が片寄るため、両チャンネルに入力してください。
Video Game	ビデオゲームのサラウンドサウンド再生に適したモードです。
Matrix	ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。
Virtual	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

オートサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Auto	このモードでは、Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、Dolby Atmos、DTS、DTS-HD、DTS:X、DTS-ES、PCM（マルチチャンネル）など、入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的にそれぞれに対応した再生モードに切り替えます。 入力信号がアナログや PCM（2 チャンネル）の場合は、ステレオ再生をおこないます。Dolby Digital や DTS の場合は、それぞれのチャンネル数に応じた再生をおこないます。

ステレオサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Stereo	サラウンド処理をおこなわずに 2 チャンネルステレオ音声を再生するモードです。 • フロントスピーカー（左/右）とサブウーハーから音声を出力します。 • マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトサウンドモード

サウンドモードの種類	説 明
Direct	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。

入力信号ごとに選択できるサウンドモード

- MOVIE、MUSIC または GAME ボタンで、次のサウンドモードを選択できます。
- メニューの“サラウンドパラメーター”で音場効果を調節すると、よりお好みのサウンドでお楽しみいただけます。(☞137 ページ)

入力信号	サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
2チャンネル ＊1	Stereo	○	○	○
	Dolby Surround ＊2	○	○	○
	DTS Neural:X ＊2	○	○	○
	DTS Virtual:X ＊3＊4	○	○	○
	Multi Ch Stereo	○	○	○
	Mono Movie	○		
	Rock Arena		○	
	Jazz Club		○	
	Matrix		○	
	Video Game			○
	Virtual	○	○	○

＊1　2 チャンネルには、アナログ入力も含みます。
＊2　2 チャンネルソースを 5.1 または 7.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時やフロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
＊3　ヘッドホン使用時やハイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。
＊4　入力信号が Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos のときは選択できません。

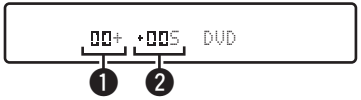
入力信号		サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
マルチチャンネル ＊5		Stereo	○	○	○
	Dolby Digital	Dolby Digital	○	○	○
		Dolby Digital + Dolby Surround ＊6	○	○	○
		Dolby Digital + Neural:X ＊6	○	○	○
	Dolby Digital Plus	Dolby Digital Plus	○	○	○
		Dolby Digital Plus + Dolby Surround ＊6＊7	○	○	○
		Dolby Digital Plus + Neural:X ＊6	○	○	○
		Dolby Atmos ＊6＊8	○	○	○
	Dolby TrueHD	Dolby TrueHD	○	○	○
		Dolby TrueHD + Dolby Surround ＊6＊7	○	○	○
		Dolby TrueHD + Neural:X ＊6	○	○	○
		Dolby Atmos ＊6＊8	○	○	○
	Dolby Atmos	Dolby Atmos	○	○	○
	DTS	DTS Surround	○	○	○
		DTS ES Dscrt 6.1 ＊6	○	○	○
		DTS ES Mtrx 6.1 ＊6	○	○	○
		DTS 96/24	○	○	○
		DTS + Dolby Surround ＊6	○	○	○
		DTS + Neural:X ＊6	○	○	○
		DTS + Virtual:X ＊3	○	○	○

＊3　ヘッドホン使用時やハイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。
＊5　入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(☞238ページ)をご覧ください。
＊6　ヘッドホンを使用しているときは選択できません。
＊7　入力信号に、Dolby Atmos が含まれていない場合に選択できます。
＊8　入力信号に、Dolby Atmos が含まれている場合に選択できます。

入力信号		サウンドモード	MOVIEボタン	MUSICボタン	GAMEボタン
	DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES	○	○	○
		DTS-HD MSTR	○	○	○
		DTS Express	○	○	○
		DTS-HD + Dolby Surround ∗6	○	○	○
		DTS-HD + Neural:X ∗6	○	○	○
		DTS-HD + Virtual:X ∗3	○	○	○
	DTS:X	DTS:X	○	○	○
		DTS:X MSTR	○	○	○
		DTS:X + Virtual:X ∗3	○	○	○
	PCMマルチチャンネル	Multi Ch In	○	○	○
		Multi Ch In 7.1 ∗6	○	○	○
		Multi In + Dolby Surround ∗6	○	○	○
		Multi Ch In + Neural:X ∗6	○	○	○
		Multi In + Virtual:X ∗3	○	○	○
	MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC	○	○	○
		AAC + Dolby Surround ∗6	○	○	○
		AAC + Neural:X ∗6	○	○	○
		AAC + Virtual:X ∗3	○	○	○
マルチチャンネル ∗5		Multi Ch Stereo	○	○	○
		Mono Movie	○		
		Rock Arena		○	
		Jazz Club		○	
		Matrix		○	
		Video Game			○
		Virtual	○	○	○

∗3　ヘッドホン使用時やハイト、天井および Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用しているスピーカー構成のときは選択できません。
∗5　入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できるサウンドモードが異なります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(☞238ページ)をご覧ください。
∗6　ヘッドホンを使用しているときは選択できません。

■ ディスプレイの表示について



❶ 使用するデコーダーを表示します。

- Dolby Digital Plus デコーダーの場合は、“□□+”と表示します。

❷ 音声を生成するデコーダーを表示します。

- “□□□”は、Dolby Surround デコーダーを使用していることをあらわします。

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、各機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御できます。

設定のしかた

1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。

メニューの“HDMI コントロール”を“オン”に設定してください。(☞151 ページ)

2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。

3 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。

- 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。

4 テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。

5 本機の入力ソースを切り替えて、HDMI 接続しているプレーヤーの映像が正しく映ることを確認する。

6 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

ご注意

- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。

スマートメニュー機能

本機能を使用すると、テレビのリモコンを使用して、本機の設定や入力ソースの選択、チューナーやインターネットラジオの選局ができます。

1 本機とテレビの HDMI コントロール機能を有効にする。(☞151 ページ)

2 本機の“スマートメニュー”設定を“オン”にしてください。(☞153 ページ)

3 テレビの“入力”＊ または“HDMI 接続した機器の操作”＊ などのメニューに表示された“AV Receiver”を選ぶ。

本機のスマートメニューをテレビに表示します。

- スマートメニュー表示中は、テレビのリモコンで本機の操作ができます。

＊ ご使用のテレビによって、選択方法が異なります。

■ 現在の入力ソース

本機が現在選択している入力ソースのコンテンツを視聴します。

■ ソース選択

本機の入力を切り替えます。
“HEOS Music”や“Tuner”を選択した場合、引き続きテレビのリモコンで操作できます。

■ サウンドモード

本機のサウンドモードを変更します。
選択できるサウンドモードは、次の 3 つです。

サラウンド:	入力信号に応じたサラウンド再生をします。
ステレオ:	ステレオ再生をします。
マルチチャンネルステレオ:	マルチチャンネルステレオ再生をします。

■ セットアップメニュー

本機の設定をおこなうセットアップメニューを表示します。

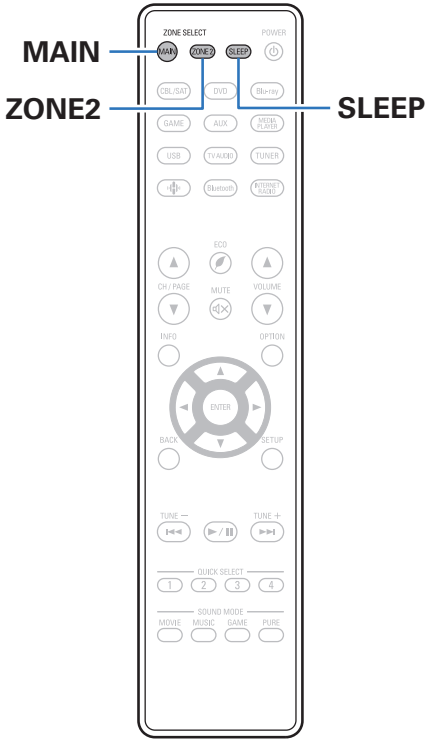
■ クイックセレクト

本機に登録されているクイックセレクトを呼び出します。

ご注意

- “HDMI コントロール”または“スマートメニュー”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
- ご使用のテレビの仕様によっては、スマートメニュー機能が正しく動作しない場合があります。このような場合は、“スマートメニュー”の設定を“オフ”にしてご使用ください。(☞153 ページ)

スリープタイマー機能



設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。
スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます。

スリープタイマーを設定する

1 **MAIN または ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。**

選択したゾーンのボタンが点灯します。

2 **SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。**

- ディスプレイの SLEEP 表示が点灯して、スリープタイマーが動作します。
- スリープタイマーは、10～120 分の範囲で 10 分ごとに設定できます。

■ 残り時間を確認する

スリープタイマー中に SLEEP を押す。
ディスプレイに残り時間を表示します。

■ スリープタイマーを解除する

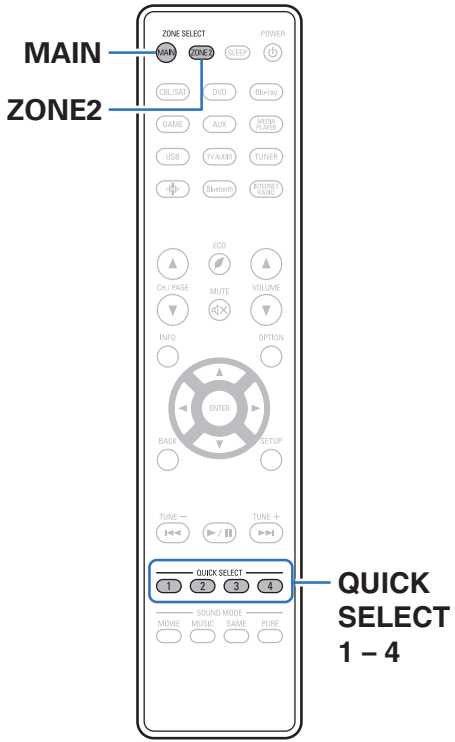
SLEEP を押して、“Off” を選ぶ。
ディスプレイの SLEEP 表示が消灯します。

- 本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご注意

- スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。

クイックセレクトプラス機能



QUICK SELECT 1～4 ボタンに入力ソース、音量レベル、サウンドモードの設定などを登録できます。
次に再生するときは、登録してある QUICK SELECT ボタンを押すだけで、記憶しているさまざまな設定を一度に切り替えることができます。
よく使う設定を QUICK SELECT 1～4 ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。
クイックセレクトプラス機能は、ゾーンごとに記憶できます。

- 本体の QUICK SELECT ボタンでは、メインゾーンのみ操作できます。

設定を呼び出す

1 **MAIN または ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。**

選択したゾーンのボタンが点灯します。

2 **QUICK SELECT を押す。**

押したボタンに記憶している設定内容を呼び出します。

- お買い上げ時の入力ソースおよび音量の設定は、次のとおりです。

【メインゾーン】

ボタン	入力ソース	音量
QUICK SELECT 1	CBL/SAT	40
QUICK SELECT 2	Blu-ray	40
QUICK SELECT 3	Media Player	40
QUICK SELECT 4	HEOS Music	40

【ゾーン 2】

ボタン	入力ソース	音量
QUICK SELECT 1	CBL/SAT	40
QUICK SELECT 2	–	–
QUICK SELECT 3	Media Player	40
QUICK SELECT 4	HEOS Music	40

設定を変更する

1 次の内容を記憶させたい状態にする。

メインゾーンでは次の ①~⑦ の設定を記憶させ、ゾーン 2 では次の ①、② の設定を記憶させることができます。

① 入力ソース(☞65 ページ)
② 音量(☞66 ページ)
③ サウンドモード(☞109 ページ)
④ Audyssey(Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®)(☞144 ページ)
⑤「リストアラー」(☞141 ページ)
⑥「入力ソースに合わせて各チャンネルの音量を調節する(チャンネルレベル調節)」(☞105 ページ)
⑦「音声の再生中にお好みの映像をモニターに映す(ビデオセレクト)」(☞107 ページ)

- 次の入力ソースで、ラジオの受信中に QUICK SELECT を長押しすると、受信中のラジオ局を記憶します。
  - Tuner / インターネットラジオ局

2 MAIN または ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンを選ぶ。

選択したゾーンのボタンが点灯します。

3 ディスプレイに“Quick∗ Memory”または“Z2 Quick∗ Memory”が表示されるまで、変更したい QUICK SELECT を長押しする。

現在の設定を記憶します。
∗ は押された QUICK SELECT の数字を表示します。

■ クイックセレクト名を変更する

本機では、テレビ画面や本体のディスプレイに表示するメインゾーンのクイックセレクト名をお好みの名前に変更できます。
変更のしかたは、メニューの“クイックセレクト名の変更”をご覧ください。(☞193 ページ)

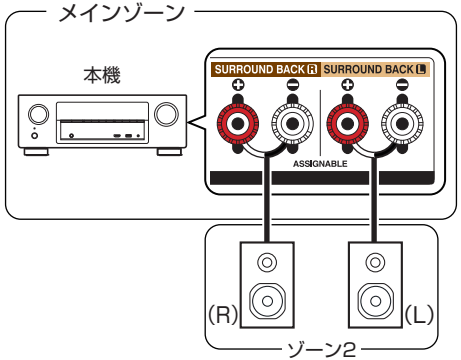
ゾーン2(別の部屋)での再生

本機を操作して、メインゾーン(本機のある部屋)以外の部屋(ゾーン 2)で音声を楽しむことができます。
メインゾーンおよびゾーン 2 で同時に同じソースを再生することができます。また、メインゾーンおよびゾーン 2 で別々のソースを再生することもできます。

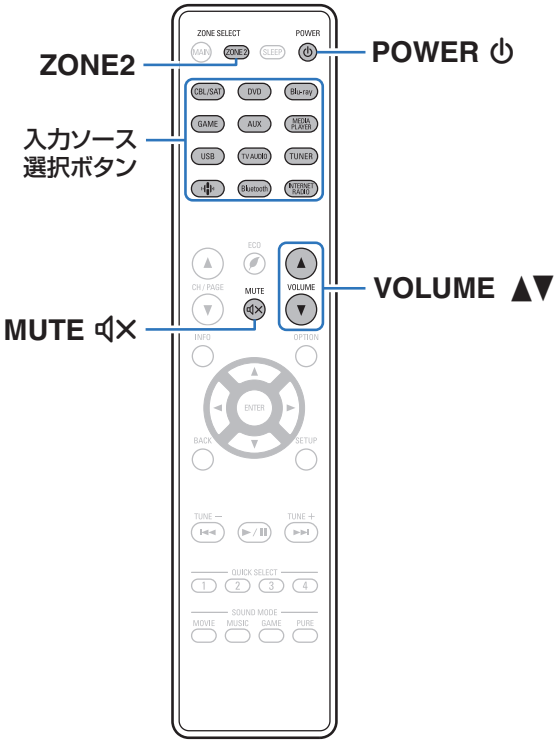
- ゾーン 2 の HDMI または OPTICAL 端子から入力されたデジタル音声信号は再生できません。ゾーン 2 の再生にはアナログ接続を使用してください。

ゾーン2の接続

メニューの“アサインモード”を“ZONE2”に設定すると、SURROUND BACK スピーカー端子からゾーン 2 の音声を出力します。
(☞172 ページ)



ゾーン2で再生する



1 **ZONE2 を押して、リモコンで操作するゾーンをゾーン 2 に設定する。**

ZONE2 ボタンが点灯します。

2 **POWER ⏻ を押して、ゾーン 2 の電源を入れる。**

ディスプレイの Z2 表示が点灯します。

- 本体の ZONE2 ON/OFF を押しても、ゾーン 2 の電源をオン/オフできます。

3 **入力ソース選択ボタンを押して、再生する入力ソースを選ぶ。**

選択した入力ソースの音声を、ゾーン 2 のスピーカーに出力します。

- 本体の ZONE2 SOURCE を押してもゾーン 2 の入力ソースを選択できます。ZONE2 SOURCE を押すたびに、入力ソースが切り替わります。

■ 音量を調節する(ゾーン 2)

VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

- お買い上げ時は、“音量の上限”を“70 (–10 dB)”に設定しています。(☞192 ページ)

- 本体の ZONE2 SOURCE を押したあとに MASTER VOLUME を回しても、ゾーン 2 の音量を調節できます。

■ 一時的に音を消す(ミューティング)(ゾーン 2)

MUTE 🔇を押す。

- ミューティングを解除するときは、音量を調節するか、もう一度 MUTE 🔇を押してください。

メニュー 一覧

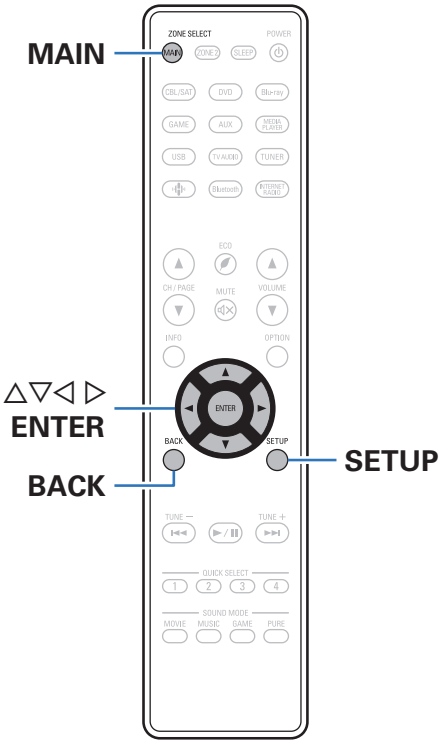
メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面を見ながら操作してください。
本機のお買い上げ時の設定は、おすすめの設定にしてあります。ご使用のシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	詳細項目	内 容	関連ページ
オーディオ	ダイアローグレベル	センターチャンネルから出力されるせりふを聴きやすくするために出力レベルを調節します。	136
	サブウーハーレベル	サブウーハーの音量を調節します。	136
	サラウンドパラメーター	音場効果を調節します。	137
	リストアラー	MP3 などの圧縮オーディオを再生するときに、低域や高域を拡張して、より豊かな再生をします。	141
	オーディオディレイ	映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。	142
	音量	メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。	143
	バイリンガルモード	AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	144
	Audyssey	Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®の設定をします。	144
	マニュアル EQ	グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。	147
ビデオ	HDMI 設定	HDMI 音声出力や HDMI パススルー、HDMI コントロールに関する設定をします。	149
	オンスクリーンディスプレイ	オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。	154
	4K 信号フォーマット	ご使用になるテレビや再生機器が 4K に対応している場合に、本機で再生する 4K 信号のフォーマットを設定します。	155
	TV フォーマット	ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。	156

設定項目	詳細項目	内 容	関連ページ
入力ソース	**入力端子の割り当て**	入力端子の割り当てを変更します。	157
	入力ソース名の変更	入力ソースの表示名を変更します。	159
	使用ソースの選択	使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	159
	ソースレベル	音声入力の再生レベルを補正します。	159
	オーディオ入力端子の選択	入力モードを設定します。	160
スピーカー	**Audyssey®セットアップ**	接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。	161
	マニュアルセットアップ	スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey®セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。	171
ネットワーク	**情報**	ネットワークの情報を表示します。	182
	接続	ホームネットワーク(LAN)に有線 LAN で接続するか、無線 LAN で接続するかを設定します。	182
	接続の設定	IP アドレスを手動で設定するときに設定します。	184
	ネットワークコントロール	電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。	186
	フレンドリーネームの編集	“フレンドリーネーム”とは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。お好みの名前に変更できます。	186
	診断	ネットワークの接続を確認します。	187

設定項目	詳細項目	内 容	参照ページ
HEOS アカウント	【HEOS アカウントでサインインしていない場合】		
	既にアカウントをもっている	HEOS アカウントにサインインします。	188
	アカウントを作成する	新規に HEOS アカウントを作成します。	188
	パスワードを再設定する	パスワードを忘れた場合、新しいパスワードの設定方法を E メールでお知らせします。	188
	【HEOS アカウントでサインインしている場合】		
	サインイン中	サインインしているアカウントを表示します。	188
	地域を変更	お住まいの地域を選択します。	188
	パスワードを変更	HEOS アカウントのパスワードを変更します。	188
	アカウントを削除	HEOS アカウントを削除します。	188
	サインアウト	HEOS アカウントからサインアウトします。	188

設定項目	詳細項目	内 容	関連ページ
一般	**言語**	テレビ画面に表示する言語を設定します。	189
	エコ設定	エコモードとオートスタンバイの省電力機能の設定をします。	189
	ゾーン 2 の設定	ゾーン 2 で再生する音声の設定をします。	192
	ゾーン名の変更	ゾーンの表示名をお好みの名前に変更します。	193
	クイックセレクト名の変更	クイックセレクト名をお好みの名前に変更します。	193
	フロントディスプレイ	本機のディスプレイの明るさを調節します。	193
	ファームウェア	アップデートやアップグレードについて、ファームウェアの最新情報の確認や更新の実施、および通知メッセージの表示の設定をします。	194
	情報	本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。	197
	使用状況の送信設定	お客様の使用状況の情報を当社へ送信するかしないかの設定をします。	198
	セーブ&ロード	USB メモリーを使用して、本機の設定を保存または復元します。	199
	セットアップロック	設定した内容を変更できないようにロックします。	199
セットアップアシスタント	**初めから設定を行う**	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、基本的な設置/接続/設定を最初からおこないます。	別冊の「かんたんスタートガイド」の 8 ページ
	言語の選択	テレビ画面に表示されるガイダンスに沿って、項目ごとに設定をおこないます。	
	スピーカーの設定		
	スピーカーの測定		
	ネットワークの設定		
	テレビ音声の接続		
	入力の設定		
	モバイルアプリ		



メニュー操作のしかた

1 **MAIN を押して、リモコンで操作するゾーンをメインゾーンに設定する。**
MAIN ボタンが点灯します。

2 **SETUP を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

3 **△▽▷を押して設定または操作したいメニューを選び、ENTER を押す。**

4 **◁▷を押して、お好みの設定に変更する。**

5 **ENTER を押して、設定を確定する。**
- 前の項目に戻るときは、BACK を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に SETUP を押してください。メニュー表示が消灯します。

オーディオ

音声に関する設定をします。

ダイアローグレベル

センターチャンネルから出力されるせりふを聞きやすくするために出力レベルを調節します。

■ 調節

ダイアログレベルを調節するかしないかを設定します。

オン:	ダイアログレベルの調節を有効にします。
オフ (お買い上げ時の設定):	ダイアログレベルの調節を無効にします。

■ レベル

センターチャンネルから出力される音量を調節します。

-12.0 dB～+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)

サブウーハーレベル

サブウーハーの音量を調節します。

■ 調節

サブウーハーレベルを調節するかしないかを設定します。

オン:	サブウーハーレベルの調節を有効にします。
オフ (お買い上げ時の設定):	サブウーハーレベルの調節を無効にします。

■ サブウーハーレベル

サブウーハーの音量を調節します。

-12.0 dB～+12.0 dB(お買い上げ時の設定:0.0 dB)

サラウンドパラメーター

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサウンドモードによって異なります。調節できる各項目については、「サウンドモードとパラメーター一覧表」(☞235 ページ)をご覧ください。

- 設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。
- “サラウンドパラメーター”の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

■ シネマ EQ

映画のせりふの高域成分をやわらげ、聞きやすくします。

オン:	“シネマ EQ”を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	“シネマ EQ”を使用しません。

■ ラウドネスマネージメント

“ダイナミックレンジ圧縮”で設定した内容で出力するか、ディスクに記録されている音声のダイナミックレンジを圧縮せずにそのまま出力するかを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	“ダイナミックレンジ圧縮”の設定およびダイアログノーマライゼーションを有効にした内容で出力します。
オフ:	“ダイナミックレンジ圧縮”の設定およびダイアログノーマライゼーションが無効になり、ディスクに記録されている信号をそのまま出力します。

- “ラウドネスマネージメント”は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos 信号を入力しているときに設定できます。

■ ダイナミックレンジ圧縮

ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。

オート:	再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン/オフします。
弱 / 中 / 強:	ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。
オフ:	ダイナミックレンジを圧縮しません。

- “ダイナミックレンジ圧縮”は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos および DTS 信号を入力しているときに設定できます。
- お買い上げ時の設定は“オフ”です。入力信号が Dolby TrueHD および Dolby Atmos ソースの場合、お買い上げ時の設定は“オート”になります。
- DTS 信号を入力しているときは、“オート”に設定できません。

■ ダイアローグコントロール

映画のせりふや音楽のボーカルの音量を調節し、聴きやすくします。

0～6(お買い上げ時の設定:0)

- ダイアローグコントロール機能に対応した DTS:X 信号を入力しているときに設定できます。

■ LFE

低域信号(LFE)レベルを調節します。

-10 dB～0 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

- 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。
  - Dolby Digital ソース:0 dB
  - DTS の映画ソース:0 dB
  - DTS の音楽ソース:−10 dB

■ センターの広がり

センターチャンネルの音声をフロント左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。主にステレオ音楽コンテンツの再生に最適なサラウンド効果を与えます。

オン:	“センターの広がり”を使用します。
オフ（お買い上げ時の設定）:	“センターの広がり”を使用しません。

- サウンドモードが“Dolby Surround”のときに設定できます。

■ DTS Neural:X

DTS Neural:X は、DTS:X 信号に含まれるチャンネルベース信号を抽出し、お使いのスピーカーの設置環境に合わせて最適なサラウンド効果を与えます。

オン（お買い上げ時の設定）:	“DTS Neural:X”を使用します。
オフ:	“DTS Neural:X”を使用しません。

- サウンドモードが“DTS:X”または“DTS:X MSTR”のときに設定できます。

■ ディレイタイム

映像に対する音声の遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。

0 ms～300 ms（お買い上げ時の設定：30 ms）

- サウンドモードが“Matrix”のときに設定できます。

■ エフェクトレベル

音響効果のレベルを調節します。

1～15（お買い上げ時の設定：10）

- サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。

■ ルームサイズ

音場空間の大きさのイメージを設定します。

小:	小さな音場空間のイメージ
やや小:	やや小さな音場空間のイメージ
標準 (お買い上げ時の設定):	標準的な音場空間のイメージ
やや大:	やや大きな音場空間のイメージ
大:	大きな音場空間のイメージ

- “ルームサイズ”は、再生する部屋の大きさをあらわすものではありません。

■ サブウーハー

サブウーハー出力のオン/オフを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	サブウーハーを使用します。
オフ:	サブウーハーを使用しません。

- サウンドモードが“Direct”または“Stereo”で、メニューの“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”のときに設定できます。(☞180 ページ)

■ 初期化

“サラウンドパラメーター”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

リストアラー

MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。“リストアラー”は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生できます。

■ モード

強:	高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。（64kbps 以下）
中:	圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。（96kbps 以下）
弱:	高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。（96kbps 以上）
オフ:	“リストアラー”を使用しません。

- アナログ入力や PCM 信号（サンプリング周波数=44.1/48kHz）が入力されたときに設定できます。
- 入力ソースが、“HEOS Music”のときのお買い上げ時の設定は、“弱”です。それ以外の入力ソースのお買い上げ時の設定は、すべて“オフ”です。
- サウンドモードが“Direct”のときは設定できません。
- “リストアラー”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

オーディオディレイ

映像と音声のタイミングがずれているときに、音声の出力タイミングを調節します。

- “オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

■ オートリップシンク

オートリップシンク機能対応のテレビからの情報に基づいて、映像と音声のタイミングのずれを自動的に補正します。

オン（お買い上げ時の設定）:	自動的に補正します。
オフ:	自動的に補正しません。

- ご使用のテレビによっては、“オートリップシンク”を“オン”に設定しても、自動補正されない場合があります。

■ 調整

手動で映像と音声の出力タイミングのずれを補正します。

0 ms～500 ms（お買い上げ時の設定：0 ms）

- “オートリップシンク”で補正されたディレイ値を微調整することもできます。

音量

メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。

■ 表示方法

音量の表示方法を設定します。

0 – 98 (お買い上げ時の設定):	0(最小)～98 の範囲で表示します。
-79.5 dB – 18.0 dB:	---dB(最小)、-79.5dB～18.0dB の範囲で表示します。

- "表示方法"の設定は、すべてのゾーンに反映します。

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60(-20 dB)/ 70(-10 dB)/ 80(0 dB)
オフ (お買い上げ時の設定)

- "表示方法"の設定が"-79.5dB – 18.0dB"のときに dB 値を表示します。(☞143 ページ)

■ 電源オン時の音量

電源をオンにしたときの音量を設定します。

前回の音量 (お買い上げ時の設定):	前回使用したときの音量になります。
消音:	常に消音状態になります。
1 – 98 **(-79 dB – 18 dB):**	設定した音量になります。

- "表示方法"の設定が"-79.5dB – 18.0dB"のときに dB 値を表示します。(☞143 ページ)

■ ミューティングレベル

ミューティング時の音量の減衰量を設定します。

消音 (お買い上げ時の設定):	消音状態になります。
-40 dB:	現在の音量から 40dB 下げて再生します。
-20 dB:	現在の音量から 20dB 下げて再生します。

バイリンガルモード

AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声を再生するときの出力内容を設定します。

■ モード

主音声 (お買い上げ時の設定)**:**	主音声のみ出力します。
副音声:	副音声のみ出力します。
主/副:	主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。
主+副:	主音声と副音声をミックスして出力します。

Audyssey®

Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®の設定をします。これらの設定は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに設定できます。

Audyssey 技術に関する詳細な情報については、「用語の解説」(☞241 ページ)をご覧ください。

- “MultEQ® XT”、“Dynamic EQ”、“リファレンスレベルオフセット”および“Dynamic Volume”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- サウンドモードが“Direct”の場合、“MultEQ® XT”、“Dynamic EQ”および“Dynamic Volume”の設定はできません。
- サウンドモードが“DTS Virtual:X”またはサウンドモード名に“+Virtual:X”を含む場合、“MultEQ® XT”、“Dynamic EQ”および“Dynamic Volume”の設定はできません。

■ MultEQ® XT

MultEQ® XT は、Audyssey®セットアップの測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。3 種類の補正カーブから選択できます。“Reference”に設定することをおすすめします。

Reference（お買い上げ時の設定）:	映画コンテンツに最適になるように補正します。
L/R Bypass:	フロントスピーカー以外のスピーカーを最適に補正します。
Flat:	スピーカーとリスニングポイントとの距離が近い、小さめの部屋に最適となるように補正します。
オフ:	“MultEQ® XT” を使用しません。

- ヘッドホン使用時、“MultEQ® XT” の設定は自動的に“オフ”になります。

■ Dynamic EQ

人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。

MultEQ® XT と連動して動作します。

オン（お買い上げ時の設定）:	Dynamic EQ を使用します。
オフ:	Dynamic EQ を使用しません。

- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは、“トーンコントロール”の調節はできません。(☞106 ページ)

■ リファレンスレベルオフセット

作成されたコンテンツに対して、オフセットレベルの設定が可能です。

Audyssey Dynamic EQ®は、一般的なフィルム(映画など)のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に補正します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定(5dB/10dB/15dB)が可能です。コンテンツに対する推奨の設定レベルは、次のようになります。

0 dB (フィルムリファレンス) (お買い上げ時の設定):	映画などのコンテンツに最適です。
5 dB:	クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。
10 dB:	ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。
15 dB:	ポップやロックなどの非常に高い音量レベルのコンテンツや、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。

- メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときに設定できます。(☞145 ページ)

■ Dynamic Volume

テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの差など)をお好みの音量設定値に自動的に調節します。

MultEQ® XT と連動して動作します。

Heavy:	音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。
Medium:	音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。
Light:	音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。
オフ (お買い上げ時の設定):	Dynamic Volume を使用しません。

- “Audyssey®セットアップ”で“Dynamic Volume”を“はい”に設定した場合は、自動的に“Medium”になります。(☞161 ページ)

マニュアルEQ

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。

- “マニュアル EQ”で設定可能なスピーカーは、サウンドモードによって異なります。
- “MultEQ® XT” の設定が“オフ”のときに設定できます。(☞145 ページ)
- サウンドモードが“Direct”のときは設定できません。
- ヘッドホンをご使用の場合は、ヘッドホン用のイコライザーを設定できます。(☞147 ページ)

■ マニュアル EQ / ヘッドホン EQ

グラフィックイコライザーを使用するかしないかを設定します。

オン:	グラフィックイコライザーを使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	グラフィックイコライザーを使用しません。

- ヘッドホンを使用しているとき、メニュー項目は“ヘッドホン EQ”になります。

■ スピーカーの選択方法

スピーカーの音色の調節を個々におこなうか、まとめておこなうかを選択します。

すべて:	すべてのスピーカーの音色をまとめて調節します。
左/右 (お買い上げ時の設定):	左右のスピーカーの音色をまとめて調節します。
各スピーカー:	スピーカーごとに音色を調節します。

■ イコライザーの調節

周波数帯域ごとの音色を調節します。

1. スピーカーを選ぶ。
2. 調節する周波数帯を選ぶ。
   63 Hz / 125 Hz / 250 Hz / 500 Hz / 1 kHz / 2 kHz / 4 kHz / 8 kHz / 16 kHz
3. レベルを調節する。
   -20.0 dB～+6.0 dB（お買い上げ時の設定：0.0 dB）

- フロント Dolby およびサラウンド Dolby スピーカーは、63 Hz/125 Hz/250 Hz/500 Hz/1 kHz のみ設定できます。

■ カーブコピー

Audyssey®セットアップで作られた Flat の補正カーブをコピーします。

- “カーブコピー”は、Audyssey®セットアップをおこなったあとに表示します。
- ヘッドホンをご使用の場合は、“カーブコピー”はできません。

■ 初期化

“マニュアル EQ”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

ビデオ

映像に関する設定をします。

HDMI 設定

HDMI オーディオ出力、HDMI パススルーおよび HDMI コントロールの設定をします。

ご注意

- “HDMI パススルー”および“HDMI コントロール”を“オン”に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。(「HDMI パススルー」(☞150 ページ)、「HDMI コントロール」(☞151 ページ))
  長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。

■ HDMI オーディオ出力

HDMI の音声の出力先を設定します。

AV アンプ (お買い上げ時の設定):	本機に接続したスピーカーで再生します。
テレビ:	本機に接続したテレビで再生します。

- HDMI コントロール機能が動作しているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します。(☞120 ページ)
- “HDMI オーディオ出力”の設定が“テレビ”で本機の電源が入っている場合、HDMI 出力端子から 2 チャンネルの音声を出力します。

■ HDMI パススルー

本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力する設定をします。

オン (お買い上げ時の設定):	本機がスタンバイのときでも、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力します。
オフ:	本機がスタンバイのときに、入力されている HDMI 信号を HDMI モニターへ出力しません 。

■ パススルーソース

本機がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。

最後のソース (お買い上げ時の設定):	前回使用していた入力ソースのままスタンバイします。
CBL/SAT / DVD / Blu-ray / Game / AUX / Media Player:	選択した入力ソースをパススルーします。

- “パススルーソース”は、“HDMI パススルー”が“オン”のとき、または“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(「HDMI パススルー」(☞150 ページ)、「HDMI コントロール」(☞151 ページ))

■ スタンバイ時のソース選択

本機がスタンバイ状態のときに、リモコンの入力ソース選択ボタンで本機の電源をオンにするかどうかを設定します。

電源オン+入力ソース選択 (お買い上げ時の設定):	本機の電源をオンして、入力ソースを切り替えます。
入力選択のみ:	本機はスタンバイ状態のまま HDMI の入力ソースを切り替えます。リモコンの入力ソース選択ボタンを受け付けたときに、本機の電源表示が点滅します。

- “スタンバイ時のソース選択”は、“HDMI コントロール”が“オン”のとき、または“HDMI パススルー”の設定が“オン”のときに設定できます。(「HDMI パススルー」(☞150 ページ)、「HDMI コントロール」(☞151 ページ))

■ HDMI コントロール

HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。

オン:	HDMI コントロール機能を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	HDMI コントロール機能を使用しません。

- 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」をご覧ください。(☞120 ページ)

ご注意

- “HDMI コントロール”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。

■ ARC

ARC 機能を使用し、HDMI MONITOR 端子に接続されているテレビから、HDMI 経由でテレビの音声を受信するかどうかを設定します。

オン:	ARC 機能を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	ARC 機能を使用しません。

- テレビのリモコンで本機の音量を調節できます。
- この機能を使用する場合は、ARC (Audio Return Channel)に対応したテレビを使用し、テレビの HDMI コントロール機能を有効にしてください。
- “HDMI コントロール”の設定を“オン”にすると、“ARC”の設定は自動的に“オン”になります。(☞151 ページ)

ご注意

- “ARC”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。

■ TV Audio 切り替え

HDMI ケーブルで接続したテレビから、CEC コマンドを受信したとき、自動的に入力ソースを“TV Audio”に切り替えるかどうかを設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にします。
オフ:	テレビからのコマンドを受信すると自動的に入力ソースを“TV Audio”にしません。

- “TV Audio 切り替え”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(☞151 ページ)

■ パワーオフコントロール

テレビの電源オフに連動して、本機の電源をスタンバイにします。

すべて (お買い上げ時の設定):	本機の入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。
ビデオ:	“HDMI”または“VIDEO”のいずれかが割り当てられている入力ソースのときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 (☞158 ページ)
オフ:	本機はテレビの電源に連動しません。

- “パワーオフコントロール”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(☞151 ページ)

■ 省電力

テレビの音声出力先の設定を“テレビスピーカー”にした場合、自動的に本機をスタンバイモードにし、消費電力を抑えます。
この機能は次のときに動作します。

- 本機の入力ソースが“TV Audio”のとき
- HDMI 接続されている機器のコンテンツを視聴しているとき

オン:	省電力機能を使用します。
オフ (お買い上げ時の設定):	省電力機能を使用しません。

- “省電力”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(☞151 ページ)

■ スマートメニュー

本機能を使用すると、テレビのリモコンを使用して、本機の設定や入力ソースの選択、チューナーやインターネットラジオの選局ができます。

オン:	スマートメニュー機能を使用します。
オフ:	スマートメニュー機能を使用しません。

- “スマートメニュー”は“HDMI コントロール”の設定が“オン”のときに設定できます。(☞151 ページ)

ご注意

- “スマートメニュー”の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
- ご使用のテレビの仕様によっては、スマートメニュー機能が正しく動作しない場合があります。このような場合は、“スマートメニュー”の設定を“オフ”にしてご使用ください。

オンスクリーンディスプレイ

オンスクリーンディスプレイに関する設定をします。

■ 音量

音量の表示に関する設定をします。

下 (お買い上げ時の設定):	画面の下部に表示します。
上:	画面の上部に表示します。
オフ:	表示しません。

- 音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“上”に設定してください。

■ 情報

入力ソースの切り替えなど情報表示の設定をします。

オン (お買い上げ時の設定):	情報を表示します。
オフ:	情報を表示しません。

■ 再生画面

入力ソースが“HEOS Music”または“Tuner”のときの再生画面の表示時間を設定します。

常時オン (お買い上げ時の設定):	常に表示します。
オートオフ:	操作したときに約 30 秒間表示します。

4K 信号フォーマット

本機に接続しているテレビや再生機器が HDMI 4K(60Hz/50Hz)信号に対応しているときに、本機で再生する 4K 信号のフォーマットを設定します。

■ 4K 信号フォーマット

本機で再生する 4K 信号のフォーマットを設定します。

標準 (お買い上げ時の設定):	ご使用のテレビと再生機器が標準的な 4K フォーマット(4K 60p 4:2:0 8bit)の映像信号に対応しているときに選択します。
拡張:	ご使用のテレビと再生機器、HDMI ケーブルが高精細な 4K フォーマット(4K 60p 4:4:4、4:2:2 および 4K 60p 4:2:0 10bit)の映像信号に対応しているときに選択します。

【"4K 信号フォーマット"の設定と対応する解像度の関係】

対応解像度	カラースペース	Deep Color	4K 信号フォーマット	
			拡張	標準(お買い上げ時の設定)
4K 24p、4K 30p、4K 25p	RGB / YCbCr 4:4:4	8bit	✓	✓
		10、12bit	✓	–
	YCbCr 4:2:2	12bit	✓	✓
4K 60p、4K 50p	YCbCr 4:2:0	8bit	✓	✓
		10、12bit	✓	–
	RGB / YCbCr 4:4:4	8bit	✓	–
	YCbCr 4:2:2	12bit	✓	–

- この設定を“拡張”に設定したときは、“HDMI Premium Certified Cable”ラベルが製品のパッケージに貼られている“Premium High Speed HDMI Cable”または“Premium High Speed HDMI Cable with Ethernet”のご使用をおすすめします。
- この設定を“拡張”に設定したときは、テレビや再生機器の設定も合わせて設定してください。
- この設定を“拡張”に設定したとき、接続した再生機器や HDMI ケーブルによっては正しく映像が出力されない場合があります。このような場合は、“標準”に設定してください。
- 当社のサービスエンジニアやカスタムインストーラーが本機の HDMI 信号フォーマットの設定をおこなっている場合は、設定項目に“カスタム”を表示します。
- “4K 信号フォーマット”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本機の電源が入っているときに本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
   ディスプレイに“V.Format:<NTSC>”を表示します。
2. 本体の DIMMER を押す。
   ディスプレイに “4K :<Standard>” を表示します。
3. 本体の TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH −を押して、“4K 信号フォーマット”を選ぶ。
4. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。

TV フォーマット

ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。

■ フォーマット

NTSC (お買い上げ時の設定):	NTSC 方式で出力します。
PAL:	PAL 方式で出力します。

- “フォーマット”は、次の操作でも設定できます。このとき、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本機の電源が入っているときに本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
   ディスプレイに“V.Format:<NTSC>”を表示します。
2. 本体の TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH −を押して、映像信号方式を選ぶ。
3. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。

ご注意

- 接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。

入力ソース

現在選択している入力ソースに関する設定をします。
設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

入力端子の割り当て

本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースのとおりに接続をおこなうと、入力ソース切り替えボタンを押すだけで、接続した機器の音声や映像を簡単に再生できます。

本機の音声/映像入力端子に印字された入力ソースと異なる接続をおこなう場合は、この項目で、HDMI 入力端子、デジタルオーディオ入力端子、アナログオーディオ入力端子およびビデオ入力端子の割り当てを変更してください。

• 各項目のお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	入力端子			
	HDMI	DIGITAL	ANALOG	VIDEO
CBL/SAT	1	OPT2	1	1
DVD	2	–	–	–
Blu-ray	3	–	–	–
Game	4	–	–	–
Media Player	5	–	2	2
TV Audio	–	OPT1	–	–
AUX	FRONT	–	–	–

❑ 衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを設定する際のご注意

テレビや衛星放送チューナーをデジタルオーディオ出力端子に接続する場合:

“入力端子の割り当て” - “DIGITAL”で割り当てた音声信号と、“HDMI”で割り当てた映像信号を組み合わせて再生する場合は、“入力モード”を“デジタル”に設定してください。(☞160 ページ)

■ HDMI

入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2 / 3 / 4 / 5 / FRONT:	選択した入力ソースに、いずれかの HDMI 入力端子を割り当てます。
–:	選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。

- メニューの“HDMI コントロール”または“ARC”を“オン”に設定している場合は、“TV Audio”に“HDMI”を割り当てることはできません。(☞151 ページ)
- 4K の信号が入力されているときは、音量やサウンドモードの変更情報を表示しません。

■ DIGITAL

入力ソースに割り当てられているデジタルオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

OPT1 (Optical) / OPT2:	選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てます。
–:	選択した入力ソースにデジタルオーディオ入力端子を割り当てません。

■ ANALOG

入力ソースに割り当てられているアナログオーディオ入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2:	選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てます。
–:	選択した入力ソースにアナログオーディオ入力端子を割り当てません。

■ VIDEO

入力ソースに割り当てられているビデオ入力端子を変更するときに設定します。

1 / 2:	選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てます。
–:	選択した入力ソースにビデオ入力端子を割り当てません。

■ 初期化

“入力端子の割り当て”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

入力ソース名の変更

選択した入力ソースの表示名を変更します。
ご使用の機器名と本機の入力ソース名が異なっている場合に便利です。お好みに合わせて変更できます。変更後は、本体のディスプレイとメニュー画面にその名前を表示します。

CBL/SAT / DVD / Blu-ray / Game / AUX / Media Player / TV Audio:	選択した入力ソースの表示名を変更します。
初期化:	入力ソース名の変更で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

- 12 文字まで入力できます。

使用ソースの選択

使用しない入力ソースを表示しないように設定します。

使用する (お買い上げ時の設定):	選択した入力ソースを使用します。
使用しない:	選択した入力ソースを使用しません。

ソースレベル

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

–12 dB～+12 dB(お買い上げ時の設定:0 dB)

- “ソースレベル”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

オーディオ入力端子の選択

各入力ソースの音声入力モードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

- “オーディオ入力端子の選択”の設定は、入力ソースごとに記憶します。

■ 入力モード

各入力ソースの音声入力モードを設定します。
通常は、“オート”に設定することをおすすめします。

オート (お買い上げ時の設定):	本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。
HDMI:	HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。
デジタル:	デジタルオーディオ入力端子からの入力信号のみを再生します。
アナログ:	アナログオーディオ入力端子からの入力信号のみを再生します。

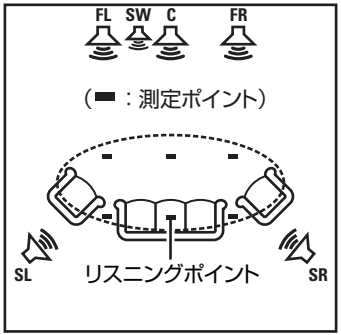
- デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイのDIG.表示が点灯します。DIG.表示が点灯しない場合は、“入力端子の割り当て”や接続を確認してください。(☞157 ページ)
- メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”で、HDMI MONITOR 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソースが“TV Audio”のときの入力モードは ARC 固定になります。

スピーカー

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を “Audyssey®セットアップ” と呼びます。
すでに“セットアップアシスタント”で“スピーカーの測定”をおこなっている場合、Audyssey®セットアップをおこなう必要はありません。
手動でスピーカーの設定をしたい場合は、メニューの“マニュアルセットアップ”でおこなってください。(☞171 ページ)

Audyssey®セットアップ

測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るためには、図のように 6 箇所以上(最大で 8 箇所)の測定をおこなうことをおすすめします。
2 箇所目以降の測定では、1 箇所目の測定位置(メインリスニングポイント)から 60cm 以内にセットアップマイクを設置してください。



FL フロントスピーカー(左)
FR フロントスピーカー(右)
C センタースピーカー
SW サブウーハー
SL サラウンドスピーカー(左)
SR サラウンドスピーカー(右)

- Audyssey®セットアップをおこなうと、Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®の機能が有効になります。(☞144 ページ)

■ メインリスニングポイントについて

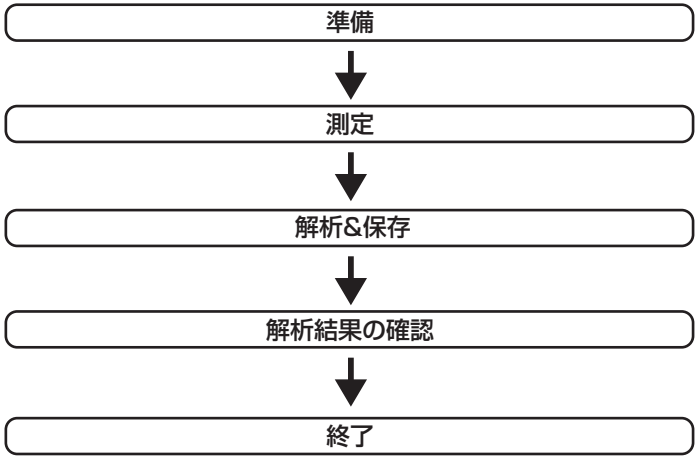
メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときに座る位置です。Audyssey®セットアップをはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。

Audyssey MultEQ® XT は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品(ラジオ、エアコン、蛍光灯など)の電源を切ってください。測定の際、これらの製品による騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。また、セットアップマイクは壁から 50cm 以上離して設置してください。正しい測定ができません。
- 測定中にテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中にリモコンの VOLUME ▲▼ または本体の MASTER VOLUME を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey®セットアップをおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

スピーカー設定の流れ(Audyssey® セットアップ)



1 セットアップマイクを三脚、または付属のマイクスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、マイクの先端を天井に向け、マイクの高さをリスナーが座ったときの耳の高さに合うように調節してください。

2 次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

❑ **ダイレクトモード機能があるサブウーハーをご使用の場合**

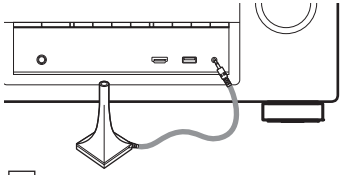
ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

❑ **ダイレクトモード機能がないサブウーハーをご使用の場合**

次のように設定してください。

- 音量の設定:12 時の位置
- クロスオーバー周波数の設定:最大/最高周波数
- ローパスフィルターの設定:オフ
- スタンバイモードの設定:オフ

3 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。



セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

4 “次へ”を選び、ENTER を押す。

5 “スタート”を選び、ENTER を押す。

Audyssey®セットアップでは、次の設定もできます。

- **アンプの割り当て**
  本機の SURROUND BACK スピーカー端子は、ご使用になるスピーカー環境に合わせて出力する信号を切り替えることができます。(「アンプの割り当て」(☞171 ページ))
- **チャンネルセレクト**
  使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップして、測定時間を短縮することができます。また、サラウンドバックスピーカーの本数を変更することもできます。
- **Dolby スピーカーの設定**
  Dolby Atmos Enabled スピーカーから天井までの距離を設定します。
  “アサインモード”の設定で、“アンプの割り当て”が“フロント Dolby”または“サラウンド Dolby”のときに設定できます。(☞171 ページ)

6 **画面の指示に従って、“次へ”を選んで進める。**

7 **次の画面が表示されたら、“テスト開始”を選び、ENTER を押す。**

1 箇所目の測定をはじめます。

- 測定には数分間かかります。

ご注意

- **テレビ画面に“注意！”が表示された場合:**
  - 「エラーメッセージについて」(☞169 ページ)をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。

8 **検出されたスピーカーが表示されたら、“次へ”を選び、ENTER を押す。**

9 2箇所目にセットアップマイクを移動させ、“次へ”を選び、ENTER を押す。

2 箇所目の測定をはじめます。
最大 8 箇所まで測定できます。

❑ Audyssey®セットアップを中止するとき

① BACK を押して、ポップアップ画面を表示させる。
② ◁ を押して“有り”を選び、ENTER を押す。

10 手順 9 をくり返して 3~8 箇所を測定する。

- 4 箇所目以降のリスニングポイントの測定を省略する場合は、◁ で“測定終了”を選択して ENTER を押し、手順 12 へ進んでください。

11 “次へ”を選び、ENTER を押す。

測定結果の解析および保存をはじめます。

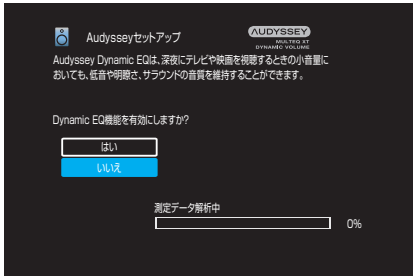
- 解析には数分間かかります。
  接続するスピーカーの数と測定箇所が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

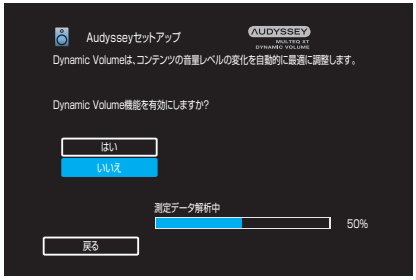
ご注意

- 測定結果の解析および保存中は、絶対に電源を切らないでください。

12 Audyssey Dynamic EQ®や Audyssey Dynamic Volume®の設定をする。

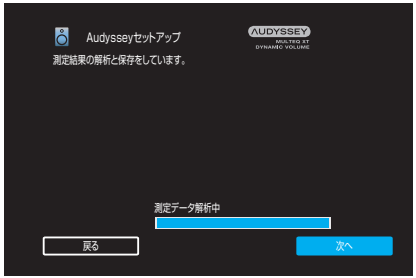
解析中に次の画面を表示します。お好みに合わせて設定してください。





- Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量が小さいときにも、明瞭に聴くことができるように周波数特性を補正します。
  深夜にテレビや映画を楽しむ場合など、音量を下げてご使用になる場合におすすめします。
- Dynamic Volume は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。
  テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切な音量調節を自動的におこないます。

13 解析および保存が完了したら、本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜き、“次へ”を選ぶ。



14 測定結果を確認する場合は、“詳細”を選び ENTER を押す。

- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。

ご注意

- Audyssey®セットアップをおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、もう一度 Audyssey®セットアップをおこなってください。

エラーメッセージについて

スピーカーの配置や測定環境などにより Audyssey®セットアップを完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
スピーカーが見つかりませんでした。	• セットアップマイクが検出されない。 • 接続しているすべてのスピーカーが検出されない。	• 付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 • スピーカーの接続を確認してください。
雑音が大きすぎるため、測定ができません	• 部屋の騒音が大きい。 • スピーカーやサブウーハーの音量が小さい。	• 騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 • 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 • スピーカーの配置や向きを確認してください。 • サブウーハーの音量を調節してください。
フロント右:無し	• 表示されたスピーカーが検出されない。	• 表示されたスピーカーの接続を確認してください。
フロント右:逆位相	• 表示されたスピーカーの位相が逆です。	• 表示されたスピーカーの極性を確認してください。 • スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、▷ を押して“続行”を選び、ENTER を押してください。

Audyssey®セットアップの設定値に戻すとき

“再設定”で“はい”を選択すると、各設定を手動で変更した場合でもAudyssey®セットアップの測定結果(MultEQ® XTが当初計算した値)に戻すことができます。

マニュアルセットアップ

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey®セットアップで測定した内容を変更するときにおこなってください。

- Audyssey®セットアップをおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Audyssey MultEQ® XT, Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®の選択ができなくなります。(☞144 ページ)
- “マニュアルセットアップ”の設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

アンプの割り当て

ご使用のスピーカーシステムに合わせて、パワーアンプの使用方法を選択します。

スピーカー構成と接続については、“スピーカーの構成と“アンプの割り当て”の設定” (☞39 ページ)をご覧ください。

■ アサインモード

パワーアンプの使用方法を設定します。

サラウンドバック (お買い上げ時の設定):	サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。
フロントハイト:	フロントハイトスピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。
トップフロント:	トップフロントスピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。
トップミドル:	トップミドルスピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。
フロント Dolby:	Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。
サラウンド Dolby:	Dolby Atmos Enabled スピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。

ZONE2:	本機内部のパワーアンプをゾーン 2 用に割り当て、ステレオ音声で出力するときに設定します。
Bi-Amp:	フロントスピーカーをバイアンプ接続して使用するときに設定します。
Front B:	2 台目のフロントスピーカーを使用して再生するときに設定します。フロントスピーカー A と B をお好みに合わせて切り替えて再生することができます。フロントスピーカーの切り替えは、メニューの“フロントスピーカー”でおこなってください。(☞181 ページ)

スピーカーの構成

スピーカーの有無や低音域再生能力によるスピーカーの大きさを設定します。

■ フロント

フロントスピーカーの大きさを設定します。

大 (お買い上げ時の設定):	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小:	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。

- “サブウーハー”の設定が“無し”の場合、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。
- “フロント”の設定が“小”の場合、“フロント”以外を“大”に設定できません。

■ センター

センタースピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	センタースピーカーを使用しません。

■ サブウーハー

サブウーハーの有無を設定します。

有り (お買い上げ時の設定):	サブウーハーを使用します。
無し:	サブウーハーを使用しません。

■ サラウンド

サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドスピーカーを使用しません。

- “サラウンド”の設定が“無し”のとき、“サラウンドバック”および“サラウンド Dolby”の設定は自動的に“無し”になります。

■ サラウンドバック

サラウンドバックスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンドバックスピーカーを使用しません。

2 台 (お買い上げ時の設定):	サラウンドバックスピーカーを 2 台使用します。
1 台:	サラウンドバックスピーカーを 1 台のみ使用します。この設定を選択したときは、SURROUND BACK の L 端子に接続してください。

- “アサインモード”の設定が“サラウンドバック”のときに設定できます。(☞171 ページ)

■ フロントハイト

フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	フロントハイトスピーカーを使用しません。

- “アサインモード”の設定が“フロントハイト”のときに設定できます。(☞171 ページ)

■ トップフロント

トップフロントスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップフロントスピーカーを使用しません。

- “アサインモード”の設定が“トップフロント”のときに設定できます。(☞171 ページ)

■ トップミドル

トップミドルスピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	トップミドルスピーカーを使用しません。

- “アサインモード”の設定が“トップミドル”のときに設定できます。(☞171 ページ)

■ フロント Dolby

フロント Dolby スピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	フロント Dolby スピーカーを使用しません。

- “アサインモード”の設定が“フロント Dolby”のときに設定できます。(☞171 ページ)

■ サラウンド Dolby

サラウンド Dolby スピーカーの有無や大きさを設定します。

大:	低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。
小 (お買い上げ時の設定):	低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。
無し:	サラウンド Dolby スピーカーを使用しません。

- “アサインモード”の設定が“サラウンド Dolby”のときに設定できます。(☞171 ページ)

距離

リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。
あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。

■ 単位

距離の単位を設定します。

メートル（お買い上げ時の設定）

フィート

■ ステップ

距離の最小可変幅を設定します。

0.1 m / 0.01 m（お買い上げ時の設定：0.1 m）

1 ft / 0.1 ft

■ 距離を設定します

0.00 m～18.00 m / 0.0 ft～60.0 ft

- メニューの“アンプの割り当て”および“スピーカーの構成”の設定により、選択できるスピーカーが異なります。（「アンプの割り当て」（☞171 ページ）、「スピーカーの構成」（☞172 ページ））
- お買い上げ時の設定：
  フロント左 / フロント右 / フロントハイト左 / フロントハイト右 / センター / フロント Dolby 左 / フロント Dolby 右 / サブウーハー：3.60 m（12.0 ft）
  上記以外のスピーカー：3.00 m（10.0 ft）
- 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 m（20.0 ft）以下になるように設定してください。

■ Dolby スピーカーの設定

Dolby Atmos Enabled スピーカーから天井までの距離を設定します。

0.90 m～3.30 m / 3.0 ft～11.0 ft
（お買い上げ時の設定：1.80 m / 6.0 ft）

- メニューの“フロント Dolby”または“サラウンド Dolby”の設定が、“スピーカーの構成”の“大”または“小”のときに設定できます。

■ 初期化

“距離”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

レベル

リスニングポイントに対して、各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。

■ テストトーン開始

選択したスピーカーからテストトーンを出力します。
テストトーンを聞きながら、各スピーカーの音量を調節してください。

-12.0 dB～+12.0 dB（お買い上げ時の設定：0.0 dB）

- 設定した“レベル”は、すべてのサウンドモードに反映します。
- 入力ソースごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、“チャンネルレベル調節”で設定してください。(☞105 ページ)
- 本体の PHONES 端子にヘッドホンを挿入している場合は、“レベル”の設定はできません。

■ 初期化

“レベル”で設定した内容がお買い上げ時の設定に戻ります。

クロスオーバー周波数

各スピーカーで再生可能な低音域の下限周波数に合わせて設定します。スピーカーのクロスオーバー周波数については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

■ スピーカーの選択方法

クロスオーバー周波数の設定方法を選択します。

すべて (お買い上げ時の設定):	すべてのスピーカーに対して同じクロスオーバー周波数を設定します。
スピーカー別:	スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。

■ クロスオーバー周波数を設定します

40 Hz / 60 Hz / 80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz / 200 Hz / 250 Hz
(お買い上げ時の設定:80 Hz)

- "クロスオーバー周波数"は、メニューの"サブウーハーモード"の設定が"LFE+メイン"のとき、または"小"に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。(☞180 ページ)
- クロスオーバー周波数は、通常"80 Hz"に設定してください。小型スピーカーをご使用になる場合は、クロスオーバー周波数をより高い周波数に設定することをおすすめします。例えば、スピーカーの周波数帯域が 250Hz～20kHz の場合は、"250 Hz"に設定してください。
- "小"に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。
- メニューの"サブウーハーモード"の設定により、"スピーカー別"で設定できるスピーカーが異なります。(☞180 ページ)
  - "LFE"の場合は、"スピーカーの構成"で"小"に設定しているスピーカーの設定ができます。"大"に設定しているスピーカーのときは、"フルバンド"が表示され、設定できません。(☞172 ページ)
  - "LFE+メイン"の場合は、"スピーカーの構成"の設定に関係なく設定できます。(☞172 ページ)

低音

サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。

■ サブウーハーモード

サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。

LFE (お買い上げ時の設定):	サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“小”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。
LFE+メイン:	サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。

- “サブウーハーモード”は、メニューの“スピーカーの構成” - “サブウーハー”の設定が“無し”以外のときに設定できます。(☞173 ページ)
- 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選択してください。
- メニューの“スピーカーの構成” – “フロント”と“センター”の設定が“大”で、なおかつ“サブウーハーモード”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。(☞172 ページ)
  常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+メイン”に設定してください。

■ LFE 用ローパスフィルター

LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。

80 Hz / 90 Hz / 100 Hz / 110 Hz / 120 Hz / 150 Hz / 200 Hz / 250 Hz (お買い上げ時の設定: 120 Hz)

フロントスピーカー

ご使用になるフロントスピーカー A または B を設定します。

A (お買い上げ時の設定):	フロントスピーカー A を使用します。
B:	フロントスピーカー B を使用します。
A+B:	フロントスピーカー A と B の両方を使用します。

- メニューの“アサインモード”の設定が“Front B”のときに設定できます。(☞172 ページ)

ネットワーク

本機をホームネットワーク(LAN)に接続して使用できるようにするためには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。
DHCP でホームネットワーク(LAN)を構築している場合は、“DHCP”を“オン”に設定します。(お買い上げ時の設定のまま使用してください。)これにより、ホームネットワーク(LAN)を使用できるようになります。
各機器に IP アドレスを手動で割り当てている場合は、“IP アドレス”の設定で本機に IP アドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなど、ご使用のホームネットワーク(LAN)に関する情報を入力する必要があります。

情報

ネットワークの情報を表示します。

フレンドリーネーム / 接続 / SSID / DHCP / IP アドレス / MAC アドレス (イーサネット) / MAC アドレス (Wi-Fi) / Wi-Fi 電波強度

接続

ホームネットワーク(LAN)に有線 LAN で接続するか、無線 LAN で接続するかを設定します。
有線 LAN でネットワークに接続する場合、LAN ケーブルを接続してから“有線(イーサネット)”を選択してください。
無線 LAN でネットワークに接続する場合、“無線(Wi-Fi)”を選び、“Wi-Fi 設定”を設定してください。(☞183 ページ)

■ 接続方法

ホームネットワーク(LAN)に接続する方法を設定します。

有線(イーサネット):	LAN ケーブルを使用して、ネットワークに接続します。
無線(Wi-Fi) (お買い上げ時の設定):	無線 LAN(Wi-Fi)機能を使用して、ネットワークに接続します。

Wi-Fi 設定

無線 LAN(Wi-Fi)ルーターとの接続をおこないます。
ルーターとの接続には次の方法があります。ご家庭の環境に合わせて接続方法を選択してください。

■ ネットワーク検索

テレビ画面に表示された接続可能な無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選択します。

1. 無線ネットワークの一覧から、接続したいネットワークを選ぶ。
   見つからない場合は、“再スキャン”を選択してください。
2. パスワードを入力し、“OK”を選ぶ。

■ iOS を使用

お手持ちの iOS デバイス(iPhone/iPod/iPad)を使用してネットワークに接続します。iOS デバイスと本機を接続することで、自動的に本機を同じネットワークに接続することができます。

1. テレビ画面で“iOS を使用”を選ぶ。
2. iOS デバイスが無線 LAN(Wi-Fi)ルーターに接続していることを確認し、iOS デバイスの Wi-Fi 設定画面の下部にある “新しい AIRPLAY スピーカーを設定...” から“Denon AVR-X1400H”を選ぶ。
3. iOS デバイスの画面で“次へ”をタップする。

- iOS 機器のファームウェアのバージョンが iOS 7 以降に対応している必要があります。

■ WPS ルーター

プッシュボタン方式の WPS に対応したルーターを使用してください。

1. テレビ画面で“プッシュボタン”を選ぶ。
2. 接続したいルーターの WPS ボタンを押して、WPS モードにする。
   - ボタンを押す時間はルーターによって異なります。
3. 2 分以内に、テレビ画面で“接続”を選ぶ。

■ 手動

接続したいネットワーク名(SSID)やパスワードを入力して接続します。

1. 次の項目を設定する。

SSID:	無線ネットワーク名(SSID)を入力します。
セキュリティ:	ご使用のアクセスポイントの暗号化設定に合わせて、暗号化方式を選択します。
パスワード:	パスワードを入力します。

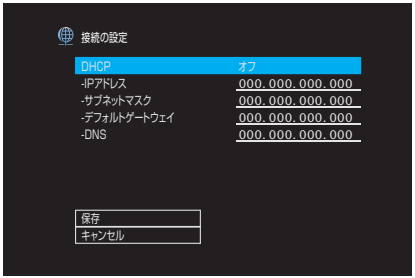
2. 設定が終わったら“接続”を選ぶ。

- 無線 LAN 対応のパソコンやタブレットから、本機の無線 LAN(Wi-Fi)の設定をおこなうこともできます。
  1. 本機の電源が入っているときに、本体の DIMMER と STATUS を 3 秒以上長押しする。
  2. ディスプレイに “Connect your Wi-Fi device to Wi-Fi network called “Denon AVR-X1400H”” と表示されたら、ご使用のパソコンやタブレットの無線 LAN を“Denon AVR-X1400H”に接続する。
  3. ブラウザを起動し、URL に“192.168.1.16/Settings/”を入力する。
  4. ブラウザを使用して設定を入力し、“接続”を選び、設定を終了する。
- 本機の“デフォルトキー”は“1”に固定されています。ルーターの“デフォルトキー”の設定を“1”にしてご使用ください。

接続の設定

IP アドレスを設定します。

- ブロードバンドルーター(DHCP 機能)をご使用の場合は、本機のお買い上げ時の設定で DHCP 機能が“オン”になっていますので、IP アドレスなどネットワーク接続に必要な情報を自動で設定します。
- DHCP 機能のないネットワークに接続する場合や固定 IP アドレスを割り当てる場合のみ、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイおよび DNS サーバーの情報を設定してください。



■ DHCP

ネットワークへの接続方法を設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	ご使用のルーターから自動的にネットワークの設定をします。
オフ:	手動でネットワークの設定をします。

■ IP アドレス

入力する IP アドレスは下記の範囲で設定してください。

- 下記以外の IP アドレスではネットワークオーディオ機能を使用することはできません。
  CLASS A:10.0.0.1～10.255.255.254
  CLASS B:172.16.0.1～172.31.255.254
  CLASS C:192.168.0.1～192.168.255.254

■ サブネットマスク

xDSL モデムやターミナルアダプターを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は“255.255.255.0”を入力します。

■ デフォルトゲートウェイ

ゲートウェイ(ルーター)に接続している場合は、その IP アドレスを入力します。

■ DNS

プロバイダから書面などで通知された DNS アドレスを入力してください。

- インターネットに接続できない場合は、再度接続や設定を確認してください。(☞61 ページ)
- インターネットの接続についてお分かりにならない場合は、ISP (Internet Service Provider)またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

ネットワークコントロール

電源がスタンバイ状態でのネットワーク機能の設定をします。

スタンバイ時オフ:	スタンバイ時に、ネットワーク機能を停止します。
常時オン (お買い上げ時の設定):	スタンバイ時でも、ネットワーク機能を停止しません。ネットワーク対応のコントローラーを使用して本機を操作できます。

- Denon 2016 AVR Remote アプリまたは HEOS アプリをご使用になる場合は、"ネットワークコントロール"の設定を"常時オン"にしてご使用ください。

ご注意

- "ネットワークコントロール"を"常時オン"に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。

フレンドリーネームの編集

フレンドリーネームとは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。お好みの名前に変更できます。

■ ネーム

リストからフレンドリーネームを選択します。
"その他"を選択すると、お好みのフレンドリーネームに変更できます。

Home Theater / Living Room / Family Room / Guest Room / Kitchen / Dining Room / Master Bedroom / Bedroom / Den / Office / その他

- 30 文字まで入力できます。
- お買い上げ時のフレンドリーネームは、"Denon AVR-X1400H"です。

■ 初期化

編集したフレンドリーネームがお買い上げ時の設定に戻ります。

診断

ネットワークの接続を確認します。

■ ケーブル接続

LAN ポートの接続の確認をします。

OK	
エラー:	LAN ケーブルが接続されていません。接続を確認してください。

- 無線 LAN で接続している場合は、“接続　無線(Wi-Fi)”を表示します。

■ ルーターアクセス

本機からルーターまでの通信の確認をします。

OK	
エラー:	ルーターとの通信に失敗しました。ルーターの設定を確認してください。

■ インターネットアクセス

本機からインターネット(WAN)のアクセス可否の確認をします。

OK	
エラー:	インターネットへの接続に失敗しました。インターネットの接続環境またはルーターの設定を確認してください。

HEOS アカウント

HEOS アカウントに関する設定をします。
HEOS アカウントは、HEOS お気に入りを使用するために必要です。
表示されるメニューは、HEOS アカウントでサインインしているかどうかによって異なります。

サインインしていない場合

■ 既にアカウントをもっている

HEOS アカウントをすでに持っている場合は、既存のアカウントとパスワードを入力してサインインします。

■ アカウントを作成する

もし HEOS アカウントを持っていない場合は、新規に HEOS アカウントを作成します。

■ パスワードを再設定する

パスワードを忘れた場合、新しいパスワードの設定方法を E メールでお知らせします。

サインインしている場合

■ サインイン中

現在サインインしている HEOS アカウントを表示します。

■ 地域を変更

サインインしている HEOS アカウントの地域設定を変更します。

■ パスワードを変更

サインインしている HEOS アカウントのパスワードを変更します。

■ アカウントを削除

サインインしている HEOS アカウントを削除します。

■ サインアウト

HEOS アカウントからサインアウトします。

一般

その他の設定をします。

言語

テレビ画面に表示するメニューの言語を設定します。

日本語 / English(お買い上げ時の設定:日本語)

- “言語”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、メニュー画面を表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 本機の電源が入っているときに本体の ZONE2 SOURCE と STATUS を同時に 3 秒以上長押しする。
   ディスプレイに“V.Format:< NTSC>”を表示します。
2. 本体の DIMMER を 2 回押す。
   ディスプレイに“Lang.:<JAPANESE>”を表示します。
3. 本体の TUNER PRESET CH +または TUNER PRESET CH −を押して、言語を設定する。
4. 本体の STATUS を押して、設定を終了する。

エコ設定

エコモードとオートスタンバイの設定をします。

■ エコモード

本機の電源がオンのときの消費電力を低減できます。

オン:	音量に関わらず、常に消費電力を低減します。
オート:	音量に合わせて、自動的に消費電力を低減します。
オフ (お買い上げ時の設定):	消費電力を低減しません。

- 大音量で音声を出力したいときは、“エコモード”を“オフ”に設定することをおすすめします。
- リモコンの ECO を押しても、エコモードを切り替えることができます。

■ 電源オン時の設定

電源をオンにしたときのエコモードを設定します。

最後の設定 (お買い上げ時の設定):	前回電源をオフにする前の設定になります。
オン:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オン”になります。
オート:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オート”になります。
オフ:	電源をオンにしたとき、常にエコモードが“オフ”になります。

■ オンスクリーンディスプレイ

本機の消費電力を、テレビ画面にメーターで表示します。

常時オン:	テレビ画面に常にメーターを表示します。
オート (お買い上げ時の設定):	モードや音量の変更時、テレビ画面にメーターを表示します。
オフ:	テレビ画面にメーターを表示しません。

■ オートスタンバイ

自動的に本機をスタンバイ状態にする設定をします。

❑ MAIN ZONE

音声や映像の入力がない状態で本機を操作しないときに、自動的にスタンバイ状態にする時間を設定します。
スタンバイ状態になる前に、本体のディスプレイとメニュー画面に“オートスタンバイ”を表示します。

60 min:	約 60 分後に本機をスタンバイ状態にします。
30 min:	約 30 分後に本機をスタンバイ状態にします。
15 min:	約 15 分後に本機をスタンバイ状態にします。
オフ (お買い上げ時の設定):	自動的に本機をスタンバイ状態にしません。

❑ ZONE2

音声や映像の入力があっても、何も操作がない状態が続いた場合、ここで設定した時間が経過すると自動で電源が切れます。

8 hours:	約 8 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。
4 hours:	約 4 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。
2 hours:	約 2 時間後にゾーン 2 をスタンバイ状態にします。
オフ (お買い上げ時の設定):	自動的にゾーン 2 をスタンバイ状態にしません。

ゾーン２の設定

ゾーン 2 で再生する音声の設定をします。

- “音量の上限”および“電源オン時の音量”の設定値は、音量の“表示方法”の設定に合わせて表示します。(☞143 ページ)
- メニューの“アサインモード”の設定が“ZONE2”のときに設定できます。(☞172 ページ)

■ 音量レベル

音量出力レベルを設定します。

可変 (お買い上げ時の設定):	音量の調節ができます。
1 - 98 **(-79 dB - 18 dB):**	音量をお好みのレベルに固定します。リモコンで音量の調節はできません。

- “表示方法”の設定が“-79.5dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞143 ページ)

■ 音量の上限

音量の上限を設定します。

60(-20 dB) / 70(-10 dB) / 80(0 dB) (お買い上げ時の設定: 70(-10 dB))	
オフ:	音量の上限を設定しません。

- メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。(☞192 ページ)
- “表示方法”の設定が“-79.5dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞143 ページ)

■ 電源オン時の音量

電源を入れたときの音量を設定します。

前回の音量 (お買い上げ時の設定):	前回使用したときの音量になります。
消音:	常に消音状態になります。
1 - 98 **(-79 dB - 18 dB):**	設定した音量になります。

- メニューの“音量レベル”の設定が“可変”のときに設定できます。(☞192 ページ)
- “表示方法”の設定が“-79.5dB - 18.0 dB”のときに dB 値を表示します。(☞143 ページ)

ゾーン名の変更

ゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。

メインゾーン / ゾーン 2

初期化:	編集したゾーン名がお買い上げ時の設定に戻ります。

- 10 文字まで入力できます。

クイックセレクト名の変更

テレビ画面に表示するクイックセレクト名をお好みの名前に変更します。

クイックセレクト 1 / クイックセレクト 2 / クイックセレクト 3 / クイックセレクト 4

初期化:	編集したクイックセレクト名がお買い上げ時の設定に戻ります。

- 16 文字まで入力できます。

フロントディスプレイ

本機のディスプレイに関する設定をします。

■ ディスプレイの明るさ

本機のディスプレイの明るさを調節します。

通常 (お買い上げ時の設定):	通常の明るさです。
薄暗い:	薄暗くします。
暗い:	暗くします。
消灯:	ディスプレイを消灯します。

- 本体の DIMMER を押しても、ディスプレイの明るさを調節できます。

ファームウェア

アップデートやアップグレードについて、ファームウェアの最新情報の確認や更新を実施します。また、アップグレードの通知メッセージ表示の設定をします。

■ アップデートの確認

ファームウェアのアップデートがあるか確認します。
アップデート可能なファームウェアがリリースされている場合は、アップデートを実行できます。

今すぐアップデートする:	アップデートを実行します。アップデートを開始すると、メニュー画面はシャットダウンします。アップデート中は、ディスプレイに進行状況を表示します。
後でアップデートする:	後でアップデートを実行します。

- アップデートに失敗しても、本機は自動的にアップデートを再試行します。アップデートできない場合には、ディスプレイに“Update Error”を表示します。アップデートエラーメッセージについては、「故障かな？と思ったら」 - 「アップデート/アップグレードエラーメッセージ」をご覧ください。(☞221 ページ)
  メッセージに従い環境の確認をおこなったうえで、再度アップデートしてください。
- このメニューは、“アップデートの許可”の設定が“オフ”のときは選択できません。

■ 自動アップデート

本機がスタンバイモードのときに、最新のファームウェアへ自動的に更新します。

❑ 自動アップデート

本機がスタンバイモードのときに、最新のファームウェアへ自動的に更新します。

オン:	自動でアップデートします。
オフ (お買い上げ時の設定):	自動でアップデートしません。

❑ タイムゾーン

タイムゾーンを変更します。
お住まいの地域にあったタイムゾーンを設定してください。

- このメニューは、“アップデートの許可”の設定が“オフ”のときは選択できません。

■ アップデートの許可

本機のアップデートおよびアップグレードを有効または無効に設定します。

オン (お買い上げ時の設定):	アップデートおよびアップグレードを有効にします。
オフ:	本機のアップデートおよびアップグレードを無効にします。

- この設定をおこなうと、他の HEOS 機器や HEOS アプリとの互換性に問題が生じる場合があります。

■ アップグレードのお知らせ

最新のファームウェアのアップグレードが可能な場合は、電源をオンにしたときテレビ画面に通知メッセージを表示します。通知メッセージは、電源をオンにしたときに約 40 秒間表示します。

オン (お買い上げ時の設定):	アップグレードの通知を表示します。
オフ:	アップグレードの通知を表示しません。

- このメニューは、“アップデートの許可”の設定が“オフ”のときは選択できません。

■ 新機能の追加

本機にダウンロード可能な新機能が表示され、アップグレードがします。

アップグレードパッケージ:	アップグレードする項目を表示します。
アップグレードステータス:	アップグレードによって追加された機能の一覧を表示します。
アップグレード:	アップグレードを実行します。 アップグレードを開始すると、メニュー画面をシャットダウンします。アップグレード中は、ディスプレイに経過時間を表示します。

- “アップデート”および“新機能の追加”に関する情報は、当社ホームページなどで告知する予定です。アップグレードをご利用になる場合の詳細については、当社ホームページをご覧ください。
- お手続きが完了すると、このメニューに“登録完了”と表示され、アップグレードすることができます。お手続きされていない場合は、“-------”を表示します。
  お手続きの際には、この画面に表示されている ID 番号が必要になります。本体の TUNER PRESET CH +と STATUS を 3 秒以上長押しすると、ID 番号をディスプレイに表示させることができます。
- アップグレードに失敗した場合には、ディスプレイに“Upgrade Error”を表示します。アップグレードのエラーメッセージについては、「故障かな？と思ったら」-「アップデート/アップグレードエラーメッセージ」をご覧ください。(☞221 ページ)
  この場合は、ネットワーク環境を確認し、再度アップデートしてください。
- このメニューは、“アップデートの許可”の設定が“オフ”のときは選択できません。

“アップデート”および“新機能の追加”をおこなうときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットに接続できる環境と設定が必要です。(☞61 ページ)
- アップデートやアップグレードが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- アップデートやアップグレードが完了するまで、1 時間程度かかります。
- 一旦アップデートやアップグレードを開始すると、完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータがリセットされる場合があります。
- アップデートやアップグレード中に更新が失敗した場合は、本体の ⏻ を 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。約 1 分後、ディスプレイに“Please wait”を表示し、更新を再開します。それでも失敗が続く場合は、ネットワークの環境を確認してください。

情報

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

■ オーディオ

メインゾーンのオーディオの情報を表示します。

サウンドモード:	設定しているサウンドモード
入力信号:	入力信号の種類
フォーマット:	入力信号のチャンネル数(フロント/サラウンド/LFE の有無)
サンプリング周波数:	入力信号のサンプリング周波数
オフセット:	ダイアログノーマライゼーションの補正値
フラグ:	サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が DTS-ES Matrix のときは“MATRIX”、DTS-ES Discrete 信号などのときは“DISCRETE”を表示します。

■ ビデオ

メインゾーンの HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。

信号情報

解像度 / カラースペース / ビット数

HDMI モニター

インターフェース / 対応解像度

■ ゾーン

各ゾーンの現在の設定状態を表示します。

MAIN ZONE:	メインゾーンの設定状態を表示します。表示する内容は、入力ソースによって異なります。
ZONE2:	ゾーン 2 の設定状態を表示します。

■ ファームウェア

バージョン:	現在のファームウェアのバージョン情報を表示します。
DTS バージョン:	現在の DTS バージョンを表示します。

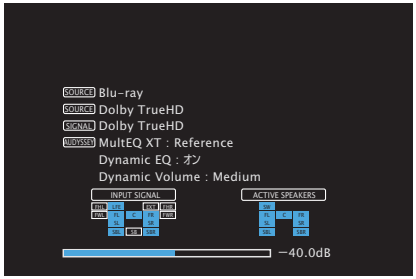
■ お知らせ

お知らせを表示します。
また、電源をオンにしたときにお知らせを表示するかしないかを設定します。

お知らせの表示

オン (お買い上げ時の設定):	通知メッセージを表示します。
オフ:	通知メッセージを表示しません。

- INFO を押すと、現在のソース名、音量、サウンドモード名などを画面下側に表示します。



使用状況の送信設定

当社は今後の製品改善のために、本機の設定状況や機能の使用状況に関する情報の送信をお願いしております。お客様から送信される情報は今後の製品開発の参考にさせていただきます。

送信される情報は個人を特定する情報は含まれません。この情報は、当社の製品改善目的のためにのみ利用させていただき、第三者へ提供することは決して致しません。

はい:	本機の使用状況を情報提供します。
いいえ:	本機の使用状況を情報提供しません。

セーブ&ロード

USB メモリーを使用して、本機の設定を保存または復元します。

- 空き容量が 128MB 以上で、FAT32 の形式でフォーマットされた USB メモリーが使用できます。また、USB メモリーによっては正しく保存または復元ができない場合があります。
- 保存または復元が完了するまで、10 分程度かかることがあります。完了するまで電源を切らないでください。

■ 設定を保存

USB メモリーに本機の現在の設定を保存します。
設定が正しく保存されると、ディスプレイに“Saved”を表示し、USB メモリーに“config.avr”というファイルを作成します。

- 作成されたファイルの名前を変更しないでください。変更すると、復元時に設定の保存ファイルとして認識されません。

■ 設定を復元

USB メモリーに保存した設定を本機に復元します。
保存された設定が本機に正しく復元されると、ディスプレイに“Loaded”を表示して自動的に再起動します。

セットアップロック

設定した内容を変更できないようにロックします。

■ セットアップロック

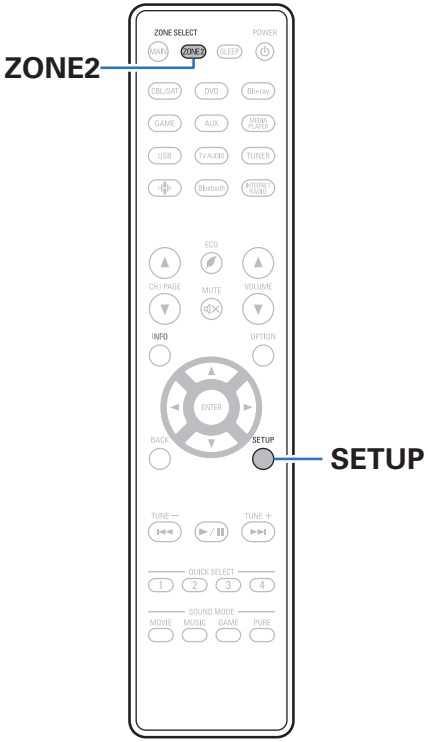
オン:	設定した内容をロックします。
オフ (お買い上げ時の設定):	設定した内容をロックしません。

- 設定を解除するときは、“セットアップロック”を“オフ”に設定してください。

ご注意

- “セットアップロック”を“オン”に設定すると、“セットアップロック”以外の設定項目は表示しません。

リモコンで操作するゾーンを限定する



リモコンでゾーン 2 を操作できないように設定することができます。

1 **ZONE2 と SETUP を長押しする。**
MAIN および ZONE2 ボタンが点滅します。

■ 設定を解除する

1 **設定中に ZONE2 と SETUP を長押しする。**
MAIN および ZONE2 ボタンが点滅し、設定を解除します。

■ 目次

こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい 202
電源を入れたときの音量を常に同じにしたい 202
常にサブウーハーから音を出したい 202
映画のせりふを聴きやすくしたい 202
小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい 202
テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい 202
スピーカーの構成や設置を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい 203
今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい 203
使っていない入力ソースを消したい 203
ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい 203
テレビのリモコンで本機を操作したい 203

故障かな？と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる 205
リモコンで操作ができない 206
本機のディスプレイが表示されない 206
音がまったく出ない 207
希望する音が出ない 208
音が途切れたり、ノイズが入ったりする 211
テレビに映像が映らない 212
テレビにメニュー画面が表示されない 213
AirPlay 再生ができない 214
USB メモリーが再生できない 215
Bluetooth が再生できない 216
インターネットラジオが再生できない 217
パソコン内や NAS 内の音楽ファイルが再生できない 218
各種オンラインサービスが再生できない 219
HDMI コントロール機能が動作しない 219
無線 LAN ネットワークに接続できない 220
アップデート/アップグレードエラーメッセージ 221

こんなときの解決方法

誤って音量が大きくならないようにしたい

- メニューの“音量の上限”で音量の上限値をあらかじめ設定してください。小さな子供が誤って音量を上げすぎることなどを防ぎます。ゾーンごとに設定できます。(「音量」(☞143 ページ)、「音量の上限」(☞192 ページ))

電源を入れたときの音量を常に同じにしたい

- お買い上げ時の設定では、本機をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときに、前回スタンバイしたときの音量がそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、メニューの“電源オン時の音量”で、電源を入れたときの音量を設定してください。ゾーンごとに設定できます。(「音量」(☞143 ページ)、「電源オン時の音量」(☞192 ページ))

常にサブウーハーから音を出したい

- 入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音が出ない場合があります。メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。(☞180 ページ)

映画のせりふを聴きやすくしたい

- メニューの“ダイアローグレベル”でレベルを調節してください。(☞136 ページ)

小音量再生においても、低音や明瞭さを保ちたい

- メニューの“Dynamic EQ”を“オン”に設定してください。周波数特性を補正することによって、小音量再生のときでも低音を失うことなく、音をはっきり聴くことができます。(☞145 ページ)

テレビや映画などのコンテンツによる音量差を自動的に調節したい

- メニューの“Dynamic Volume”を設定してください。テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をお好みの音量に自動的に調節します。(☞146 ページ)

スピーカーの構成や設置を変えたり、スピーカーを買い替えたりした場合に、最適なリスニング環境に設定したい

- Audyssey®セットアップをおこなってください。新しいリスニング環境に最適なスピーカーの設定を自動でおこないます。(☞161 ページ)

今聴いている音楽に好きな映像を組み合わせたい

- オプションメニューの“ビデオセレクト”で“オン”を選択してください。チューナーや HEOS ミュージック、USB ミュージック、Bluetooth の音楽を聴きながら、DVD やセットトップボックスなどお好みの映像ソースを組み合わせることができます。(☞107 ページ)

使っていない入力ソースを消したい

- メニューの“使用ソースの選択”で使用していない入力ソースを設定してください。本体の SOURCE SELECT つまみを回したときに使用していない入力ソースをスキップできます。(☞159 ページ)

ホームパーティーなどのときにすべてのゾーンで同じ音楽を楽しみたい

- オプションメニューの“オールゾーンステレオ”で“スタート”を選択してください。メインゾーンで再生している音楽をゾーン 2 でも同時に再生できます。(☞108 ページ)

テレビのリモコンで本機を操作したい

- テレビの “入力”* または “HDMI 接続した機器の操作”* などのメニューに表示された“AV Receiver”を選択します。本機のスマートメニューをテレビに表示します。このスマートメニューは、ご使用のテレビのリモコンで操作できます。

* ご使用のテレビによって、選択方法が異なります。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

故障かな？と思ったら

最初に次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

- 上記の手順 1～3 をおこなっても動作が改善しない場合、本機を再起動すると改善することがあります。
  ディスプレイに“Restart”が表示されるまで、本体の ⏻ ボタンを押し続けるか、本機の電源コードを抜き差ししてください。

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。
なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

電源が入らない / 電源が切れる

電源が入らない。

- コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。(☞63 ページ)

電源が自動的に切れる。

- スリープタイマーが設定されています。再度電源を入れてください。(☞123 ページ)
- “オートスタンバイ”が設定されています。操作がない状態で一定時間が経過すると、“オートスタンバイ”が動作します。“オートスタンバイ”を無効にするには、メニューの“オートスタンバイ”を“オフ”に設定してください。(☞191 ページ)

電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。

- 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。(☞249 ページ)
- 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。

電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。

- スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。(☞35 ページ)
- 音量を下げて、電源を入れ直してください。(☞65 ページ)
- 本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。

電源ボタンを押しても本機の電源がオフにならず、ディスプレイに“ZONE2 On”と表示される。

- ゾーン 2 の電源がオンになっています。本機の電源をオフ(スタンバイ)にする場合は、本体の ZONE2 ON/OFF ボタンを押すか、リモコンの ZONE2 ボタンを押したあとに、POWER ⏻ ボタンを押して、ゾーン 2 の電源をオフにしてください。

電源ボタンを押しても本機の電源がオフにならない。ディスプレイに“HEOS On”を表示します。

- 同じネットワーク上の HEOS 機器が本機の入力ソースを再生しています。本機の電源をオフ(スタンバイ)にする場合、HEOS 機器側で再生を停止してください。約 20 分後、自動的に本機の電源がオフになります。

リモコンで操作ができない

リモコンで操作ができない。

- 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。(☞9 ページ)
- リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。(☞9 ページ)
- 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。
- 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。(☞9 ページ)
- 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。
- 操作したいゾーンとリモコンのゾーンの設定が合っていません。MAIN または ZONE2 ボタンを押して、リモコンを操作するゾーンを選択してください。(☞135 ページ)
- 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の赤外線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

本機のディスプレイが表示されない

ディスプレイの表示が消える。

- メニューの“ディスプレイの明るさ”を“消灯”以外の設定にしてください。(☞193 ページ)

音がまったく出ない

スピーカーから音が出ない。

- すべての機器の接続を確認してください。(☞35 ページ)
- 接続ケーブルを奥まで挿してください。
- 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。
- ケーブルが破損していないか確認してください。
- スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。(☞35 ページ)
- スピーカー端子をしっかり締めてください。また、スピーカー端子の締めつけがゆるんでいないか確認してください。(☞35 ページ)
- 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。(☞65 ページ)
- 音量を適切な大きさに調節してください。(☞66 ページ)
- ミューティング(消音)モードを解除してください。(☞66 ページ)
- デジタルオーディオ入力端子の設定の確認をおこなってください。(☞157 ページ)
- 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定がオフになっていることがあります。
- 本体の PHONES 端子にヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子および SUBWOOFER 端子から音が出なくなります。

DVI-D 接続時に、音声が出ない。

- 本機を DVI-D 端子付きの機器に接続した場合、音声は出力しません。別途、音声の接続をおこなってください。

希望する音が出ない

音量が上がらない。

- 音量の上限値が低く設定されています。メニューの“音量の上限”で上限値を設定してください。(☞143 ページ)
- 入力された音声フォーマットや設定に合わせて適切な音量補正処理をしているため、上限値まで上がらない場合があります。

HDMI で接続したときに、音が出ない。

- HDMI 端子の接続を確認してください。(☞51 ページ)
- HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI オーディオ出力”の設定を“AV アンプ”に設定してください。テレビから出力するときは“テレビ”に設定してください。(☞149 ページ)
- HDMI コントロール機能を使用している場合は、テレビ側のオーディオ出力の設定が AV アンプになっているか確認してください。(☞120 ページ)

特定のスピーカーから音が出ない。

- スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
- メニューの“スピーカーの構成”で“無し”以外になっているか確認してください。(☞172 ページ)
- メニューの“アサインモード”の設定を確認してください。(☞171 ページ)
- サウンドモードが“Stereo”および“Virtual”のときは、フロントスピーカーとサブウーハーからのみ音声を出力します。

サブウーハーから音が出ない。

- サブウーハーの接続を確認してください。
- サブウーハーの電源を入れてください。
- メニューの“スピーカーの構成” - “サブウーハー”を“有り”に設定してください。(☞173 ページ)
- メニューの“スピーカーの構成” - “フロント”の設定が“大”の場合は、入力信号やサウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。(☞172 ページ)
- 入力信号にサブウーハー音声信号(LFE)が含まれていない場合、サブウーハーから音声が出力されない場合があります。(☞180 ページ)
- メニューの“サブウーハーモード”を“LFE+メイン”に設定すると、常にサブウーハーから音声を出力することができます。(☞180 ページ)

DTS 音声が出力されない。

- 接続した機器のデジタル音声出力の設定が“DTS”になっているか確認してください。

Dolby Atmos、Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。

- HDMI で接続してください。(☞55 ページ)
- 接続した機器のデジタル音声出力の設定を確認してください。機器によってはお買い上げ時の設定が“PCM”になっている場合があります。

DTS Neural:X モードが選択できない。

- DTS Neural:X は、ヘッドホン使用時は選択できません。

Dolby Surround モードが選択できない。

- ヘッドホン使用時は、Dolby Surround を選択できません。

AAC 放送の音が途切れる。

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。

AAC として再生しない。

- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®が選択できない。

- Audyssey®セットアップを実施していない場合は、選択できません。(☞161 ページ)
- サウンドモードを“Direct”以外に切り替えてください。(☞111 ページ)
- サウンドモードが“DTS Virtual:X”またはサウンドモード名に“+Virtual:X”を含む場合は選択できません。
- ヘッドホン使用時は選択できません。

“リストアラー”が選択できない。

- アナログ信号または PCM 信号(サンプリング周波数=44.1/48kHz)が入力されているか確認してください。Dolby Digital や DTS サラウンドなどのマルチチャンネル信号の再生には“リストアラー”を使用することができません。(☞141 ページ)
- サウンドモードを“Direct”以外に切り替えてください。(☞111 ページ)

ゾーン 2 から音が出ない。

- HDMI 端子やデジタル端子(OPTICAL)から入力しているデジタル信号の音声は再生できません。アナログ接続をしてください。
- ゾーン 2 で Bluetooth の音声を聴く場合、本機と Bluetooth 機器の間に障害物がなく、なおかつ約 30m の範囲内で使用してください。

音が途切れたり、ノイズが入ったりする

インターネットラジオや USB メモリーを再生中に、音が途切れることがある。

- USB メモリーの転送速度が遅いと音が途切れることがあります。
- ネットワークの通信速度が遅いか、ラジオ局が混雑しています。

iPhone で通話すると、本機の音声出力にノイズが入る。

- iPhone を本機から 20cm 以上離して通話してください。

FM 放送または AM 放送の雑音が多い。

- アンテナの向きや位置を変えてください。(☞59 ページ)
- 本機から AM ループアンテナを外してください。
- 屋外アンテナを使用してください。(☞59 ページ)
- アンテナと他の接続ケーブルを離してください。(☞59 ページ)

音が歪んで聴こえる。

- 音量を下げてください。(☞66 ページ)
- メニューの“エコモード”を“オフ”に設定してください。“エコモード”が“オン”または“オート”のときは、大きな音量を再生すると音声が歪むことがあります。(☞189 ページ)

Wi-Fi 接続時に音切れがする。

- 無線 LAN で使用する周波数帯域は、電子レンジ・コードレスフォン・ゲーム機のワイヤレスコントローラー・その他の無線 LAN 機器で使用します。そのため、これらの機器と本機を同時に使用すると、電波干渉により音途切れが発生する場合があります。次の方法をおこなうと、音途切れが改善される場合があります。(☞61 ページ)
  - 干渉している機器を本機から離して設置する。
  - 干渉している機器の電源を切る。
  - 本機に接続しているルーターのチャンネル設定を変更する。(チャンネルの変更のしかたは、無線ルーターの取扱説明書をご覧ください。)
  - 有線 LAN 接続に切り替える。
- 特にデータ容量の大きい音楽ファイルを再生するときなどに、ご使用の無線 LAN の環境によっては、再生音が途切れることがあります。その場合は有線 LAN 接続をおこなってください。(☞183 ページ)

テレビに映像が映らない

映像が映らない。

- すべての機器の接続を確認してください。(☞51 ページ)
- 接続ケーブルを奥まで挿してください。
- 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。
- ケーブルが破損していないか確認してください。
- 本機に接続されたテレビの入力端子に入力の設定を合わせてください。(☞157 ページ)
- 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。(☞65 ページ)
- ビデオ入力端子の設定の確認をおこなってください。(☞157 ページ)
- プレーヤーとテレビの解像度が合っていることを確認してください。(☞197 ページ)
- テレビが著作権保護(HDCP)に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。(☞228 ページ)
- HDCP 2.2 で著作権保護されているコンテンツを楽しむ場合は、HDCP 2.2 に対応した再生機器とテレビをご使用ください。
- 4K(60/50Hz)の映像を再生したい場合は、"High Speed HDMI Cable"または"High Speed HDMI Cable with Ethernet"をご使用ください。より高品位に 4K(60/50Hz)の映像を楽しむために、HDMI Premium Certified Cable のラベルが製品のパッケージに貼られている"Premium High Speed HDMI Cables"または"Premium High Speed HDMI Cables with Ethernet"のご使用をおすすめします。

DVI-D 接続時に、テレビに映像が映らない。

- DVI-D 接続の場合、機器間によってはコピーガード著作権保護(HDCP)によって正しく動作しない場合があります。(☞228 ページ)

メニューを表示中に、テレビに映像が映らない。

- 次の映像信号の再生中にメニューを操作すると、メニューの背景に再生映像は表示されません。
  ·一部の 3D ビデオコンテンツの映像
  ·コンピューター解像度(例:VGA)の映像
  ·16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像
  ·4K(60/50Hz)の映像
  ·HDR 信号の種類による

テレビにメニュー画面が表示されない

テレビにメニュー画面や操作内容が表示されない。

- メニュー画面は、本機と HDMI 接続しているテレビにのみ表示します。本機とテレビをほかの映像出力端子で接続している場合は、本機のディスプレイを見ながら操作してください。
- 次の映像信号の再生中は、テレビに操作内容は表示されません。
  - 一部の 3D ビデオコンテンツの映像
  - コンピューター解像度(例:VGA)の映像
  - 16:9、4:3 以外のアスペクト比の映像
  - 4K の映像
  - HDR 信号の種類による
- テレビ側で 2D 映像を 3D 映像に変換している場合は、メニュー画面や操作内容を正しく表示しません。(☞198 ページ)
- メニューの“TV フォーマット”をご使用のテレビに合わせて設定してください。(☞156 ページ)

AirPlay 再生ができない

iTunes/iPhone/iPod touch/iPad 上に AirPlay のアイコンが表示されない。

- 本機とパソコン/iPhone/iPod touch/iPad が同一のネットワーク(LAN)に接続されていません。本機と同一の LAN に接続してください。(☞61 ページ)
- iTunes/iPhone/iPod touch/iPad が AirPlay 対応のファームウェアではありません。最新のファームウェアにアップデートしてください。

音が出ない。

- iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量が最小になっています。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の音量と本機の音量は連動しています。適切な値に設定してください。
- AirPlay の再生をしていないか、本機が選択されていません。iTunes/iPhone/iPod touch/iPad の画面で AirPlay アイコンをクリックして、本機を選択してください。(☞99 ページ)

iPhone/iPod touch/iPad で AirPlay 再生時に音が途切れる。

- iPhone/iPod touch/iPad のバックグラウンドで起動しているアプリケーションを終了してから AirPlay 再生をしてください。
- 無線接続で外部の影響を受けている可能性があります。無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くするなどネットワーク環境を変更してください。

リモコンで iTunes の再生操作ができない。

- iTunes の“リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する”の設定を有効にしてください。リモコンで再生/一時停止/スキップ操作ができます。

USB メモリーが再生できない

USB メモリーが認識できない。

- USB メモリーを接続し直すなど、接続を確認してください。(☞58 ページ)
- マスストレージクラス対応の USB メモリーに対応しています。
- 本機は、USB ハブを経由した接続はできません。USB メモリーは USB 端子に直接接続してください。
- USB メモリーのフォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。
- すべての USB メモリーの動作は保証できません。一部の USB メモリーは、認識できない場合があります。また、AC アダプターから電源供給できるタイプの USB 接続対応ポータブルハードディスクを使用する場合は、ハードディスクに AC アダプターを接続して使用してください。

USB メモリー内のファイルを表示しない。

- 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。(☞67 ページ)
- 本機が表示できるファイルのフォルダ階層は最大 8 階層です。また、1 階層あたり最大 5000 ファイル(フォルダ)です。USB メモリーのフォルダ構成を変更してください。
- USB メモリーに複数のパーティションがある場合、先頭のパーティションのファイルのみを表示します。

iOS および Android 機器が認識できない。

- 本機の USB 端子は、iOS および Android 機器の再生には対応していません。

USB メモリーのファイルを再生できない。

- 本機が対応していないフォーマットで作成されています。本機が対応しているフォーマットを確認してください。(☞229 ページ)
- 著作権保護のかかったファイルを再生しようとしています。本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。
- ファイルサイズが 2MB を超えるアルバムアートを使用している場合、再生できない場合があります。

Bluetooth が再生できない

本機に Bluetooth 機器が接続できない。

- Bluetooth 機器の Bluetooth 機能が有効になっていません。Bluetooth 機器の取扱説明書をご覧いただき、Bluetooth 機能を有効にしてください。
- 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
- Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない場合、本機と接続できません。
- ご使用の Bluetooth 機器の電源を入れ直してから、お試しください。

音が途切れる。

- 本機と Bluetooth 機器を近づけてください。
- 本機と Bluetooth 機器の間にある障害物を取り除いてください。
- 電波干渉がおきないように、電子レンジや無線 LAN 機器および他の Bluetooth 機器から本機を離してください。
- Bluetooth の再接続操作をおこなってください。

インターネットラジオが再生できない

ラジオ局のリストが表示されない。

- LAN ケーブルが正しく接続されていないか、ネットワークが切断されています。接続状態を確認してください。(☞61 ページ)
- ネットワークの診断モードをおこなってください。

インターネットラジオが再生できない。

- 選択したラジオ局が、本機に対応していないフォーマットで放送されています。本機で再生できるフォーマットは、MP3、WMA と AAC です。(☞232 ページ)
- ルーターのファイアウォールがはたらいています。ファイアウォールの設定を確認してください。
- IP アドレスが正しく設定されていません。(☞184 ページ)
- ルーターの電源が入っているか確認してください。
- IP アドレスを自動で取得する場合は、ルーターの DHCP サーバー機能を有効にしてください。また、本機の DHCP 設定を“オン”にしてください。(☞184 ページ)
- IP アドレスを手動で取得する場合は、本機の IP アドレスを設定してください。(☞184 ページ)
- 時間帯により無音放送になっているラジオ局があります。この場合、音声は出力しません。しばらく経ってから選択するか、別のラジオ局を選択してください。(☞84 ページ)
- ラジオ局が放送を停止しています。放送中のラジオ局を選択してください。

お気に入りに登録したラジオ局に接続できない。

- ラジオ局がサービスを停止しています。放送中のラジオ局を登録してください。

パソコン内やNAS内の音楽ファイルが再生できない

パソコンに保存してある音楽ファイルが再生できない。

- ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。(☞231 ページ)
- 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。
- 本機の USB 端子は、パソコンと接続することはできません。
- メディアの共有設定が正しくありません。本機がアクセスできるように設定を変更してください。詳しくはメディアの取扱説明書をご覧ください。

サーバーが見つからないか、サーバーに接続できない。

- パソコンまたはルーターのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルーターのファイアウォールの設定を確認してください。
- パソコンの電源が入っていません。電源を入れてください。
- サーバーが起動していません。サーバーを起動してください。
- 本機の IP アドレスが正しくありません。本機の IP アドレスを確認してください。(☞182 ページ)

パソコン内の音楽ファイルが再生できない。

- 本機の USB 端子にパソコンを接続しても、パソコン内の音楽ファイルは再生できません。パソコンはネットワーク経由で本機に接続してください。(☞61 ページ)

パソコン内や NAS 内のファイルが表示されない。

- 本機が対応していない形式のファイルは表示しません。(☞231 ページ)

NAS に保存した曲が再生できない。

- DLNA 準拠の NAS をご使用の場合は、NAS の設定で DLNA サーバー機能を有効にしてください。
- DLNA に準拠していない NAS をご使用の場合は、パソコンを経由して再生してください。また、Windows Media Player のメディア共有機能設定をおこない、再生対象フォルダに NAS を追加してください。
- 接続を制限している場合は、オーディオ機器を接続対象にしてください。

各種オンラインサービスが再生できない

各種オンラインサービスが再生できない。

- サービスが終了している可能性があります。

HDMI コントロール機能が動作しない

HDMI コントロール機能が動作しない。

- メニューの“HDMI コントロール”の設定が“オン”になっているか確認してください。(☞151 ページ)
- HDMI コントロール機能に対応していない機器は操作できません。また、接続する機器や設定によっては、HDMI コントロール機能が動作しない場合があります。その場合は、外部機器を直接操作してください。(☞120 ページ)
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定が有効になっているか確認してください。(☞120 ページ)
- HDMI 機器を追加して接続するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化されることがあります。HDMI で接続した機器と本機の電源を入れ直してください。(☞120 ページ)

無線LANネットワークに接続できない

ネットワークに接続できない。

- ネットワーク名(SSID)、パスワードおよび暗号化設定が正しく設定できていません。ネットワークの設定と本機の設定内容を合わせてください。(☞184 ページ)
- 無線 LAN のアクセスポイントからの距離を短くしたり、障害物をなくしたりして、見通しをよくしてから接続し直してください。また、電子レンジや他のネットワークのアクセスポイントから離して設置してください。
- アクセスポイントのチャンネル設定を、他のネットワークで使用しているチャンネルから離して設定してください。
- 本機は WEP(TSN)との互換性はありません。

WPS ルーターに接続ができない。

- ルーターの WPS モードが動作しているか確認してください。
- ルーターの WPS ボタンを押してから、2 分以内にテレビに表示されている「接続」ボタンを押してください。
- WPS2.0 規格に対応したルーター/設定が必要です。暗号化タイプを“無し”、“WPA-PSK (AES)”または WPA2-PSK (AES)に設定してください。(☞184 ページ)
- ルーターの暗号化方式が WEP/WPA-TKIP/WPA2-TKIP のいずれかの場合は、WPS ボタンを使用して接続することはできません。この場合は“ネットワーク検索”または“手動”の方法で接続してください。

iPhone/iPod touch/iPad を使用したネットワーク接続ができない。

- iPhone/iPod touch/iPad を最新のファームウェアにアップデートしてください。
- また、無線接続で設定する場合は、iOS 7 以降に対応している必要があります。

アップデート/アップグレードエラーメッセージ

アップデート/アップグレードが中断または失敗した場合は、エラーメッセージが表示されます。

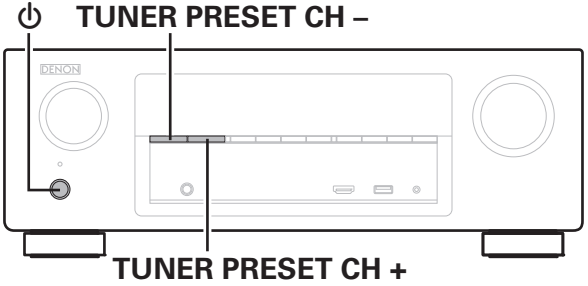
ディスプレイ表示	説 明
Connection failed. Please check your network, then try again.	ネットワークの回線が不安定です。 サーバーとの接続に失敗しました。 ご使用のネットワーク環境をご確認のうえ、アップデートを再試行してください。
Update failed. Please check your network, then try again.	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。 ご使用のネットワーク環境をご確認のうえ、アップデートを再試行してください。
Upgrade failed. Please check your network, then try again.	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。 ご使用のネットワーク環境をご確認のうえ、アップデートを再試行してください。
Please check your network, unplug and reconnect the power cord, and try again.	アップデートに失敗しました。 本体の ⏻ を 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。 アップデート後は自動的に再起動します。
Please contact customer service in your area.	機器が故障している可能性があります。 お客様相談センターにお問い合わせください。

お買い上げ時の設定に戻す

表示が正しくない場合や操作ができない場合などに本機を再起動すると、改善することがあります。お買い上げ時の設定に戻す前に、再起動することをおすすめします。(☞204 ページ)

再起動しても動作が改善しない場合に、この操作をおこなってください。

各種設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。



1 ⏻ を押して、電源を切る。

2 TUNER PRESET CH +と TUNER PRESET CH – を同時に押しながら、⏻ を押す。

3 ディスプレイに“Initialized”が表示されたら、2 つのボタンから指を離す。

- お買い上げ時の設定に戻す前に、メニューの“セーブ&ロード”機能を使用すると、本機の各種設定内容を記憶させ、復元することができます。(☞199 ページ)

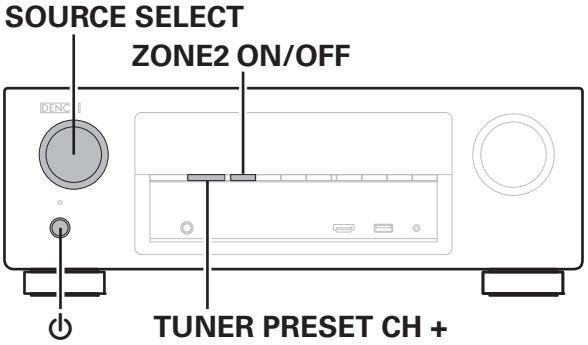
ネットワークの設定をお買い上げ時の設定に戻す

ネットワークコンテンツの再生やネットワーク接続ができない場合に、本機を再起動すると、改善することがあります。お買い上げ時の設定に戻す前に、再起動することをおすすめします。(☞204 ページ)

再起動しても動作が改善しない場合に、この操作をおこなってください。

ネットワーク設定内容がお買い上げ時の設定になります。再度設定をおこなってください。

ただし、メニューの“アンプの割り当て”、“スピーカーの構成”および“ビデオ”の設定などは、リセットされません。



1 ⏻ を押して、本機の電源を入れる。

2 SOURCE SELECT を回して、“HEOS Music”を選ぶ。

3 本機の電源が入っているときに、本体の TUNER PRESET CH +と ZONE2 ON/OFF を同時に 3 秒以上長押しする。

4 ディスプレイに“Network Reset...”が表示されたら、2 つのボタンから指を離す。

5 リセットが完了すると、ディスプレイに“Completed”を表示する。

- お買い上げ時の設定に戻す前に、メニューの“セーブ&ロード”機能を使用すると、本機の各種設定内容を記憶させ、復元することができます。(☞199 ページ)

ご注意

- リセットが完了するまで、電源を切らないでください。

保証と修理について

■ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。
  保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

■ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

■ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

■ 修理料金のしくみ

- 技術料‥‥故障した製品を正常に修復するための料金です。
  技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代‥‥修理に使用した部品代金です。
  その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
- 出張料‥‥製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
  別途駐車料金をいただく場合があります。

■ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

■ 修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 修理お問い合わせ窓口へご相談ください。
- 出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

■ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名·····取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号···保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

■ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

HDMI について

High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。
HDMI 接続ではアナログの映像伝送で実現できなかったハイビジョン映像の伝送や、ブルーレイディスクプレーヤーで採用された高音質音声フォーマット(Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS-HD、DTS-HD Master Audio)の伝送ができます。
また、従来の接続では、接続する機器間を音声ケーブルと映像ケーブルを使用して接続する必要がありましたが、HDMI 接続では、HDMI ケーブル 1 本で音声信号と映像信号を伝送できます。これにより、ホームシアターシステムで煩雑になりやすい配線をすっきりさせることができます。
本機は次の HDMI 機能に対応しています。

- **Deep Color**
  HDMI がサポートしている映像技術です。通常、RGB または YCbCr の各色を 8bit(256 階調)ずつで表現するところを、10bit(1024 階調)、12bit(4096 階調)、16bit(65536 階調)で表現することができるため、より高精細な色の表現を可能にします。
  HDMI 接続する機器の双方が Deep Color に対応している必要があります。
- **x.v.Color**
  色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。
  “x.v.Color” はソニーの登録商標です。
- **3D**
  本機は、HDMI 規格の 3D(3 次元)映像信号の入出力に対応しています。3D 映像の再生には本機のほかに、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。
- **4K**
  本機は、HDMI 規格の 4K(3840 × 2160 ピクセル)映像信号の入出力に対応しています。
- **Content Type**
  この機能は、出力映像の種類(コンテンツ情報)に適した設定を自動でおこないます。
- **Adobe RGB color、Adobe YCC601 color**
  Adobe システムズ社が定義した色空間(カラースペース)のことです。従来の RGB よりも広い色空間を持っているため、より鮮明で自然な映像を表現することができます。
- **sYCC601 color**
  “x.v.Color” 同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

- **オートリップシンク**
  映像と音声のずれを自動的に補正します。
  オートリップシンク機能対応のテレビを使用してください。
- **HDMI パススルー**
  本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します。
- **HDMI コントロール**
  本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。
  - 電源オフ連動
    テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。
  - 音声出力先の切り替え
    テレビの操作で音声をテレビから出力するか、AV アンプから出力するか切り替えることできます。
  - 音量調節
    テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。
  - 入力ソースの切り替え
    テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースが切り替わります。
    プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。
- **ARC（Audio Return Channel）**
  HDMI コントロール制御のもと、テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。
  ARC 機能のないテレビとの HDMI 接続では、本機に接続した再生機器の映像信号をテレビに伝送することはできても、テレビの音声を本機で再生することはできません。テレビ番組をサラウンド音声で視聴したい場合などには、別途音声ケーブルの接続が必要になります。
  これに対し、ARC 機能のあるテレビとの HDMI 接続では、音声ケーブルの接続は不要です。本機とテレビを接続する HDMI ケーブルを通して、テレビの音声信号を本機に入力することができます。この機能により、テレビの音声を本機のサラウンド再生で楽しみいただけます。

■ 対応する音声フォーマット

2 チャンネルリニア PCM	2 チャンネル、32kHz～192kHz、16/20/24bit
マルチチャンネルリニア PCM	7.1 チャンネル、32kHz～192kHz、16/20/24bit
ビットストリーム	Dolby Digital / DTS / Dolby Atmos / Dolby TrueHD / Dolby Digital Plus / DTS:X / DTS-HD Master Audio / DTS-HD High Resolution Audio / DTS Express / MPEG-2 AAC

■ 対応する映像信号

- 480i
- 576i
- 720p 60/50Hz
- 1080p 60/50/24Hz
- 480p
- 576p
- 1080i 60/50Hz
- 4K 60/50/30/25/24 Hz

著作権保護システムについて

HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、本機とテレビとプレーヤーのすべてが HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。

- HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力できません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

- 本機を Deep Color（ディープ・カラー）、4K、ARC 機能対応の機器と接続する場合は、HDMI ロゴのある“High Speed HDMI cable with Ethernet”を使用してください。

USB メモリーの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示できます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/Apple Lossless/DSD)または 349×349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	チャンネル	ビットレート	拡張子
WMA*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48～192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	32～320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	2 チャンネル	–	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	16～320 kbps	.aac/.m4a/.mp4
FLAC	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	2 チャンネル	–	.flac
Apple Lossless*2	32/44.1/48/88.2/96/192kHz	2 チャンネル	–	.m4a
DSD	2.8/5.6MHz	2 チャンネル	–	.dsf/.dff

*1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

*2 Apple Lossless Audio Codec (ALAC)デコーダは Apache License Version 2.0(http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0)に基づいて配布されています。

■ 再生可能な最大ファイル数とフォルダ数

本機で表示できるフォルダやファイルの制限数は次のとおりです。

項目＼メディア	USB メモリー
メモリーの容量	FAT16:2GB、FAT32 :2TB
フォルダの階層数 *1	8 階層
フォルダ数	500
ファイル数 *2	5000

*1 制限数にはルートフォルダを含みます。

*2 USB メモリーの容量やファイルサイズにより、許容ファイル数が変わる場合があります。

Bluetooth 機器の再生について

本機は、次の Bluetooth プロファイルに対応しています。

- A2DP (Advanced Audio Distribution Profile):
  この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、モノラルやステレオの音声データを高品質にストリーミング配信することができます。
- AVRCP (Audio/Video Remote Control Profile):
  この規格に対応している Bluetooth 機器を接続すると、本機から Bluetooth 機器を操作することができます。

■ Bluetooth 通信について

本機からの電波放送は、医療機器の操作を妨げることがあります。電波干渉は故障の原因となるため、次の場所では本機と Bluetooth 機器の電源を必ず切ってください。

- 病院、電車、航空機、ガソリンスタンドや可燃性ガスを発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

パソコンやNASに保存されているファイルの再生について

- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.0)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示させることができます。
- WMA META タグに対応しています。
- アルバムアートの画素サイズ(ピクセル)が 500×500(WMA/MP3/WAV/FLAC/Apple Lossless/DSD)または 349×349(MPEG-4 AAC)を超えている場合は、正しく再生できないことがあります。
- ネットワーク経由での音楽ファイルの再生には、そのフォーマットの配信に対応したサーバーまたはサーバーソフトウェアが必要です。

■ 再生できるファイルの仕様

	サンプリング周波数	チャンネル	ビットレート	拡張子
WMA*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	48～192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	32～320kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	2 チャンネル	–	.wav
MPEG-4 AAC*1	32/44.1/48kHz	2 チャンネル	16～320 kbps	.aac/.m4a/.mp4
FLAC	32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz	2 チャンネル	–	.flac
Apple Lossless*2	32/44.1/48/88.2/96/192kHz	2 チャンネル	–	.m4a
DSD	2.8/5.6MHz	2 チャンネル	–	.dsf/.dff

*1 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからダウンロードしたコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

*2 Apple Lossless Audio Codec (ALAC)デコーダは Apache License Version 2.0(http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0)に基づいて配布されています。

インターネットラジオの再生について

■ 再生できる放送局の仕様

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA	32/44.1/48kHz	48～192 kbps	.wma
MP3	32/44.1/48kHz	32～320kbps	.mp3
MPEG-4 AAC	32/44.1/48kHz	16～320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4

パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容（入力モード、HDMI 出力モード、サウンドモード、トーンコントロール、チャンネルレベル、MultEQ® XT、Dynamic EQ、Dynamic Volume、リストアラーやオーディオディレイなど）を入力ソースごとに記憶します。

- “サラウンドパラメーター”の設定は、サウンドモードごとに記憶します。

ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。

サウンドモードとチャンネル出力の関係

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、メニューの“スピーカーの構成”の設定により出力するチャンネルが異なります。(☞172 ページ)

サウンドモード	チャンネル出力									
	フロント 左右	センター	サラウンド 左右	サラウンドバック 左右	フロントハイト 左右	トップフロント 左右	トップミドル 左右	フロント Dolby Atmos Enabled左右	サラウンド Dolby Atmos Enabled左右	サブウーハー
Direct（2チャンネル）	○									◎*5
Direct（マルチチャンネル）	○	◎	◎	◎*4	◎*4	◎*4	◎*4	◎*4	◎*4	◎
Stereo	○									◎
Dolby Atmos	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Dolby TrueHD	○	◎	◎	◎*4	◎*4					◎
Dolby Digital Plus	○	◎	◎	◎*4	◎*4					◎
Dolby Digital	○	◎	◎							◎
Dolby Surround *1	○	◎	◎	◎*6	◎	◎	◎	◎	◎	◎
DTS:X	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
DTS-HD	○	◎	◎	◎*4	◎*4					◎
DTS Express	○	◎	◎	◎						◎
DTS 96/24	○	◎	◎	◎						◎
DTS Surround	○	◎	◎	◎						◎
DTS Neural:X *2	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
DTS Virtual:X *3	○	◎	◎	◎						◎
Multi Ch In	○	◎	◎	◎*4						◎
MPEG-2 AAC	○	◎	◎							◎
Multi Ch Stereo	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Rock Arena	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Jazz Club	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Mono Movie	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Video Game	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Matrix	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Virtual	○									◎

*1～*6:「サウンドモードとチャンネル出力の関係」(☞234 ページ)

＊1　該当するサウンドモードは、“Dolby Surround”およびサウンドモード名に“+Dolby Surround”を含むサウンドモードです。
＊2　該当するサウンドモードは、“DTS Neural:X”およびサウンドモード名に“+Neural:X”を含むサウンドモードです。
＊3　該当するサウンドモードは、“DTS Vitual:X”およびサウンドモード名に“+Vitual:X”を含むサウンドモードです。
＊4　入力信号に含まれるチャンネルを出力します。
＊5　メニューの“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”に設定している場合、音声は出力されません。(☞180 ページ)
＊6　メニューの“スピーカーの構成”-“サラウンドバック”を“1 台”に設定している場合、音声は出力されません。(☞174 ページ)

サウンドモードとパラメーター一覧表

サウンドモード	サラウンドパラメーター								
	シネマEQ	ラウドネスマネージメント *1	ダイナミックレンジ圧縮 *2	ダイアローグコントロール *3	LFE *4	ディレイタイム	エフェクトレベル	ルームサイズ	センターの広がり
Direct（2チャンネル）		○	○						
Direct（マルチチャンネル）		○	○	○	○				
Stereo		○	○	○	○				
Dolby Atmos	○	○	○		○				
Dolby TrueHD	○	○	○		○				
Dolby Digital Plus	○	○	○		○				
Dolby Digital	○	○	○		○				
Dolby Surround	○	○	○						○
DTS:X	○		○	○	○				
DTS-HD	○				○				
DTS Express	○				○				
DTS 96/24	○				○				
DTS Surround	○		○		○				
DTS Neural:X	○	○	○						
DTS Virtual:X	○		○						
Multi Ch In	○				○				
MPEG-2 AAC	○				○				
Multi Ch Stereo	○	○	○	○	○				
Rock Arena		○	○		○		○	○	
Jazz Club		○	○		○		○	○	
Mono Movie		○	○		○		○	○	
Video Game		○	○		○		○	○	
Matrix		○	○		○	○			
Virtual		○	○		○				

*1～*4:「サウンドモードとパラメーター一覧表」(☞237 ページ)

サウンドモード	サラウンドパラメーター		トーンコントロール *5	ダイアローグレベル	サブウーハーレベル *6	Audyssey			Restorer *11
	DTS Neural:X	サブウーハー				MultEQ® XT *7*8*9	Dynamic EQ *10	Dynamic Volume *10	
Direct（2チャンネル）		○*12			○*12				
Direct（マルチチャンネル）				○	○				
Stereo		○*13	○		○*13	○	○	○	○
Dolby Atmos			○	○	○	○	○	○	
Dolby TrueHD			○	○	○	○	○	○	
Dolby Digital Plus			○	○	○	○	○	○	
Dolby Digital			○	○	○	○	○	○	
Dolby Surround			○	○	○	○	○	○	○
DTS:X	○		○	○	○	○	○	○	
DTS-HD			○	○	○	○	○	○	
DTS Express			○	○	○	○	○	○	
DTS 96/24			○	○	○	○	○	○	
DTS Surround			○	○	○	○	○	○	
DTS Neural:X			○	○	○	○	○	○	○
DTS Virtual:X			○	○	○				○
Multi Ch In			○	○	○	○	○	○	
MPEG-2 AAC			○	○	○	○	○	○	
Multi Ch Stereo			○	○	○	○	○	○	○
Rock Arena			○	○	○	○	○	○	○
Jazz Club			○	○	○	○	○	○	○
Mono Movie			○	○	○	○	○	○	○
Video Game			○	○	○	○	○	○	○
Matrix			○	○	○	○	○	○	○
Virtual			○		○	○	○	○	○

*5～*13:「サウンドモードとパラメーター一覧表」(☞237 ページ)

＊1　この項目は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos 信号を再生しているときに選択できます。
＊2　この項目は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS:X または DTS 信号を再生しているときに選択できます。
＊3　この項目は、ダイアログコントロール機能に対応した DTS:X 信号を入力しているときに選択できます。
＊4　この項目は、Dolby Digital、DTS または DVD オーディオを再生しているときに選択できます。
＊5　メニューの“Dynamic EQ”の設定が“オン”のときは設定できません。(☞145 ページ)
＊6　メニューの“サブウーハー”の設定が“無し”のときは設定できません。(☞173 ページ)
＊7　この項目は Audyssey®セットアップ(スピーカーの測定)を実施していない場合は設定できません。
＊8　この項目は、48kHz を超えるサンプリング周波数の DTS:X 信号が入力された場合は選択できません。
＊9　この項目は、サウンドモードが“DTS Virtual:X”およびサウンドモード名に“+Virtual:X”を含む場合は選択できません。
＊10　メニューの“MultEQ® XT”の設定が“オフ”のときは設定できません。(☞145 ページ)
＊11　この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。
＊12　メニューの“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”のときに設定できます。(☞180 ページ)
＊13　メニューの“フロント”の設定が“小”、または“サブウーハーモード”の設定が“LFE+メイン”のときに設定できます。(☞173, 180 ページ)

入力信号の種類と対応するサウンドモード

● お買い上げ時に設定されているサウンドモードを示します。
○ 選択できるサウンドモードを示します。

サウンドモード	ご注意	2チャンネル信号			マルチチャンネル信号											
		Dolby Digital (+/HD)/ MPEG-2 AAC	DTS (-HD)	アナログ / PCM	Dolby Atmos	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (EX)	DTS:X	DTS-HD	DTS Express	DTS ES Dscrt6.1	DTS ES Mtrx6.1	DTS	PCM マルチチャンネル	MPEG-2 AAC
Direct																
Direct		○	○	○*2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Stereo																
Stereo		○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Dolby Surround																
Dolby Atmos	*1				●											
Dolby TrueHD					○*3	○										
Dolby Digital +					○*4		○									
Dolby Digital								○								
Dolby (D+) (HD) + Dolby Surround						●	●	●								
Dolby (D+) (HD) + Neural:X					○*5	○	○	○								
Dolby Surround		●	○	○												

*1～*5:「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(☞240 ページ)

サウンドモード	ご注意	2チャンネル信号			マルチチャンネル信号											
		Dolby Digital (+/HD)/ MPEG-2 AAC	DTS (-HD)	アナログ / PCM	Dolby Atmos	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (EX)	DTS:X	DTS-HD	DTS Express	DTS ES Dscrt6.1	DTS ES Mtrx6.1	DTS	PCM マルチチャンネル	MPEG-2 AAC
DTS Surround																
DTS:X MSTR / DTS:X									●							
DTS-HD MSTR										○*10						
DTS-HD HI RES										○*11						
DTS Express											○					
DTS ES Dscrt 6.1	*6											○				
DTS ES Mtrx 6.1	*6												○			
DTS 96/24														○*12		
DTS Surround												○	○	○		
DTS (-HD) + Dolby Surround										○	○	○	○	○		
DTS (-HD) + Neural:X	*7									●	●	●	●	●		
DTS (-HD) / DTS:X + Virtual:X	*8								○	○	○	○	○	○		
DTS Neural:X	*7	○	●	○												
DTS Virtual:X	*9	○	○	○												
Multi Ch In																
Multi Ch In															●	
Multi Ch In 7.1	*6														○*13	
Multi In + Dolby Surround															○	
Multi In + Neural:X															○	
Multi In + Virtual:X															○	

*5～*13:「入力信号の種類と対応するサウンドモード」(☞240 ページ)

サウンドモード	ご注意	2チャンネル信号			マルチチャンネル信号											
		Dolby Digital (+/HD)/ MPEG-2 AAC	DTS (-HD)	アナログ / PCM	Dolby Atmos	Dolby TrueHD	Dolby Digital Plus	Dolby Digital (EX)	DTS:X	DTS-HD	DTS Express	DTS ES Dscrt6.1	DTS ES Mtrx6.1	DTS	PCM マルチチャンネル	MPEG-2 AAC
MPEG-2 AAC																
MPEG-2 AAC																○
AAC + Dolby Surround																●
AAC + Neural:X																○
AAC + Virtual:X																○
オリジナルサウンドモード																
Multi Ch Stereo		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
Rock Arena		○	○	○	○*5	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
Jazz Club		○	○	○	○*5	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
Mono Movie		○	○	○	○*5	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
Video Game		○	○	○	○*5	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
Matrix		○	○	○	○*5	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
Virtual		○	○	○	○*5	○	○	○		○	○	○	○	○	○	

*1 サラウンドバック、フロントハイト、トップフロント、トップミドル、フロント Dolby またはサラウンド Dolby スピーカーを使用しているときに選択できます。
*2 お買い上げ時の AirPlay 再生のサウンドモードは、“Direct”です。
*3 Dolby Atmos 信号に Dolby TrueHD 信号が含まれている場合に選択できます。
*4 Dolby Atmos 信号に Dolby Digital Plus 信号が含まれている場合に選択できます。
*5 Dolby Atmos 信号に Dolby TrueHD または Dolby Digital Plus 信号が含まれている場合に選択できます。
*6 サラウンドバックスピーカーを使用しているときに選択できます。
*7 この項目は、48kHz を超えるサンプリング周波数の DTS(-HD)信号が入力された場合は選択できません。
*8 この項目は、48kHz を超えるサンプリング周波数の DTS:X 信号が入力された場合は選択できません。
*9 入力信号が Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD または Dolby Atmos のときは選択できません。
*10 入力信号が DTS-HD Master Audio のときに選択できます。
*11 入力信号が DTS-HD Hi Resolution のときに選択できます。
*12 入力信号が DTS 96/24 のときに選択できます。
*13 この項目は、入力信号にサラウンドバックを含む場合に選択できます。

用語の解説

■ Audyssey

Audyssey Dynamic EQ®

Audyssey Dynamic EQ®は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Audyssey Dynamic EQ®は、Audyssey MultEQ® XT 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®

Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など)をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調節する技術です。また、Audyssey Dynamic Volume®の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey MultEQ® XT

Audyssey MultEQ® XT は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
Audyssey MultEQ® XT は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

■ Dolby

Dolby Atmos

映画館で最初に導入された Dolby Atmos は、ホームシアターに新しい革命的なサウンド体験をもたらします。Dolby Atmos は既存のサラウンドとは異なり、三次元空間を独立した動きのあるサウンド(またはオブジェクト)を、よりクリアで、より正確に配置することが可能です。Dolby Atmos は、リスナーの上方に音場を導入したことで、自然でリアルなサウンド体験を実現し、リスナーをストーリーに引き込みます。

Dolby Atmos Stream

Dolby Atmos のコンテンツは、ブルーレイディスクやストリーミングメディアから、Dolby Digital Plus または Dolby TrueHD 方式で提供されます。Dolby Atmos 信号には、音の位置が記録されているメタデータが含まれています。これにより、あらゆるスピーカー構成のホームシアター環境でも最適な音像再生になるように調節されます。

Dolby Digital

Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル(FL、FR、C)とサラウンド 2 チャンネル(SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。

このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital Plus

Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Surround

Dolby サラウンドは 2 チャンネルや 5.1 チャンネル、7.1 チャンネルのコンテンツをあなたのサラウンド環境に合わせてアップミックスし再生する次世代のサラウンドテクノロジーです。Dolby サラウンドは Dolby Atmos を再生できるシステムだけではなく、従来のスピーカーレイアウトにも互換性があります。

Dolby Speaker Technology(Dolby Atmos Enabled スピーカー)

Dolby Atmos Enabled スピーカーは、天井にスピーカーを設置する代わりに、天井に向け音を出し再生音を反射させ、頭上からの音を実現させることができる技術を搭載したスピーカーです。このスピーカーはスピーカードライバーが上向きに取り付けられている独特な構造と特別な信号処理機能を持っています。従来のスピーカーと一体になっているものや従来のスピーカーの上に載せて使用するものがあります。従来のスピーカーシステムと同様のスピーカー設置環境のまま Dolby Atmos と Dolby サラウンドの再生環境を提供します。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。

このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

■ DTS

ダイアログコントロール

ダイアログコントロールは、映画のせりふや音楽のボーカルの音声を収録しているオブジェクトの音量のみを好きな音量に調節する技術です。ダイアログコントロール対応の DTS:X 信号が入力されたときに設定できます。

DTS

Digital Theater System の略で、DTS 社が開発したデジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24

DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround

DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1

DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えてサラウンドバックチャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1

DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声にサラウンドバックチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS Express

DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps～256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD

ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質·高機能化したデジタル音声技術です。

多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数やロスレス·オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS 96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕のあるデータビットレートによって高音質化を図っています。また、この信号フォーマットには従来の 5.1 チャンネル DTS デジタルサラウンドのデータも含んでいるため、従来製品とも互換性があります。

DTS-HD Master Audio

DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットです。サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との互換性を有しています。

DTS:X

DTS:X はリスニングポイントを包み込むようにスピーカーを設置することで、立体的な音場空間を再現します。また、オブジェクトとして記録された音像がスピーカー間をスムーズに移動することで、自然でリアルなサウンド体験を実現します。

DTS Neural:X

DTS Neural:X は 2 チャンネルや 5.1 チャンネル、7.1 チャンネルのコンテンツを、お使いのサラウンド環境に合わせてアップミックスし再生します。DTS:X のコンテンツだけではなく、従来のコンテンツでも、立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

DTS Virtual:X

DTS Virtual:X は、部屋のサイズ、レイアウトまたはスピーカー構成に関係なく、多次元サウンドをお楽しみいただけます。

■ 音声

Apple Lossless Audio Codec

アップル社が開発した音声データ可逆圧縮方式のコーデックです。iTunes や iPhone、iPod で再生できます。約 60～70%に圧縮されたデータを完全に元どおりのデータに再現します。

FLAC(Free Lossless Audio Codec)

可逆圧縮方式のフリーの音声ファイルフォーマットです。可逆圧縮のため、原音からの音質の劣化がありません。

FLAC のライセンスについては、次のとおりです。

Copyright (C) 2000, 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009 Josh Coalson

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

LFE

Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

MP3 (MPEG Audio Layer-3)

音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG-2 AAC

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)は、MPEG (Moving Picture Experts Group)により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。

高音質·高圧縮率を確保できることが特長です。

MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

【 米国におけるパテントナンバー 】

08/937,950	5,579,430	5,299,238
5848391	08/678,666	5,299,239
5,291,557	98/03037	5,299,240
5,451,954	97/02875	5,197,087
5 400 433	97/02874	5,490,170
5,222,189	98/03036	5,264,846
5,357,594	5,227,788	5,268,685
5 752 225	5,285,498	5,375,189
5,394,473	5,481,614	5,581,654
5,583,962	5,592,584	05-183,988
5,274,740	5,781,888	5,548,574
5,633,981	08/039,478	08/506,729
5 297 236	08/211,547	08/576,495
4,914,701	5,703,999	5,717,821
5,235,671	08/557,046	08/392,756
07/640,550	08/894,844	

MPEG(Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4

デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、“MPEG-1 Video”、“MPEG-2 Video”、“MPEG-4 Visual”、“MPEG-4 AVC”などがあります。音声の規格には、“MPEG-1 Audio”、“MPEG-2 Audio”、“MPEG-4 AAC”などがあります。

WMA(Windows Media Audio)

米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。

WMA データは、Windows Media® Player を使用してエンコード(符号化)することができます。

WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正しく動作しないことがあります。

サンプリング周波数

サンプリングとは、音の波(アナログ信号)を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化(デジタル信号化)することです。

1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω(オーム)という単位であらわします。

この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ダイアログノーマライゼーション機能

Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS または DTS-HD ソースの再生中、自動的に動作します。

この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。

ダイナミックレンジ

機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス

サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

■ 映像

プログレッシブ(順次走査)

映像の 1 フレームを 1 つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。

■ ネットワーク

AirPlay

iTunes または iPhone、iPod touch、iPad に収録されているコンテンツをネットワーク経由で対応する機器に転送(再生)する機能です。

WEP Key(ネットワークキー)

データ通信をおこなう際にデータを暗号化するために使用する鍵情報です。本機はデータの暗号化/復号化ともに同一の WEP キー(ネットワークキー)を用いるため、通信する相手と同一の WEP キーを設定する必要があります。

Wi-Fi®

無線 LAN の互換性接続を保証する団体「Wi-FiAlliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。

WPA(Wi-Fi Protected Access)

Wi-Fi アライアンスが策定したセキュリティ規格です。従来の SSID(ネットワーク名)や WEP キー(ネットワークキー)に加えて、ユーザー認証機能や暗号化プロトコルを採用して、セキュリティを強化しています。

WPA2(Wi-Fi Protected Access 2)

Wi-Fi アライアンスが策定した WPA の新バージョンです。WPA と比べ、より強力な AES 暗号に対応しています。

WPA-PSK/WPA2-PSK(Pre-shared Key)

あらかじめ設定した文字列が無線 LAN アクセスポイントとクライアントで一致した場合、相互認証をおこなう簡易認証の方式です。

ネットワーク名(SSID: Service Set Identifier)

無線 LAN のネットワークを構成するとき、混信やデータの盗難などを防ぐために、グループ分けをします。このグループ分けを「SSID(ネットワーク名)」でおこないます。さらにセキュリティ強化のために、WEP キーを設定し、「SSID」と WEP キーが一致しないと通信できないようになっています。簡易ネットワークを構成する場合に適しています。

■ その他

HDCP

機器間でデジタル信号を送受信する際に信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の 1 つです。

メインゾーン

本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。

ペアリング

ペアリング(登録)とは、Bluetooth 機器と本機を接続するために必要な操作です。ペアリングすると互いの機器が認証し合うので、混線することなく接続できます。
はじめて Bluetooth 機器を接続する場合は、最初に本機と本機に接続する Bluetooth 機器をペアリングする必要があります。

保護回路

何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。

登録商標について

"Made for iPod," "Made for iPhone," and "Made for iPad" mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, iPhone, or iPad, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.

Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards.

Please note that the use of this accessory with iPod, iPhone, or iPad may affect wireless performance.

AirPlay, iPad, iPhone, iPod touch, and Retina are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

iPad Pro, iPad Air, iPad mini, and Lightning are trademarks of Apple Inc.

The trademark "iPhone" is used with a license from Aiphone K.K.

- iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod shuffle および iPod touch は、著作権のないコンテンツまた は法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に 複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

本機は、Audyssey Laboratories™からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®および Audyssey Dynamic Volume®は、Audyssey Laboratories の登録商標です。

Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG、Inc.が所有する登録商標であり、D&M Holdings Inc.はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者に帰属します。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、Dolby Atmos、Dolby Surround、Dolby Vision およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTS の特許については、http://patents.dts.com をご覧ください。
DTS、シンボル、DTS およびシンボルとの組み合わせ、DTS:X、DTS:X ロゴ、Virtual:X および DTS Virtual:X ロゴは、米国および/またはその他の国における商標および/または DTS、Inc.の登録商標です。© DTS, Inc. 版権所有。

HDMI および HDMI の High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における商標または HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIED ロゴは、Wi-Fi Alliance の登録商標です。
無線 LAN の互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。

Adobe、Adobe ロゴ、および Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。

主な仕様

■ オーディオ部

- **パワーアンプ部**

定格出力:

フロント:
80W+80W(負荷 8Ω、20Hz～20kHz T.H.D. 0.08%)
120W+120W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)
センター:
80W(負荷 8Ω、20Hz～20kHz T.H.D. 0.08%)
120W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)
サラウンド:
80W+80W(負荷 8Ω、20Hz～20kHz T.H.D. 0.08%)
120W+120W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)
サラウンドバック:
80W+80W(負荷 8Ω、20Hz～20kHz T.H.D. 0.08%)
120W+120W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 0.7%)

実用最大出力:

135W+135W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 10% 2 チャンネル駆動 JEITA)
175W(負荷 6Ω、1kHz T.H.D. 10% 1 チャンネル駆動 JEITA)

出力端子: 4～16Ω

- **アナログ部**

入力感度: 200 mV
周波数特性: 10Hz～100kHz:+1、-3dB(Direct モード時)
S/N 比: 98dB(IHF-A、Direct モード時)

■ ビデオ部

- **標準ビデオ端子**

入出力レベル/インピーダンス:	1Vp-p、75Ω
周波数特性:	5Hz～10MHz:0、-3dB

■ チューナー部

	[FM]	[AM]
受信周波数範囲:	76.0MHz～95.0MHz	522kHz～1629kHz
実用感度:	1.2μV(12.8dBf)	18μV
50dB 感度:	モノ:2.8μV(20.2dBf)	
S/N 比:	モノ:70dB(IHF-A、Direct モード時) ステレオ:67dB(IHF-A、Direct モード時)	
ひずみ率:	モノ:0.7%(1kHz、100%変調時) ステレオ:1.0%(1kHz、90%変調時)	

■ 無線 LAN 部

ネットワーク種類(無線 LAN 規格):	IEEE 802.11a/b/g/n 準拠 (Wi-Fi®準拠)*1
セキュリティ:	WEP 64bit, WEP 128bit WPA/WPA2-PSK(AES) WPA/WPA2-PSK(TKIP)
使用周波数帯域:	2.4GHz、5GHz

*1 Wi-Fi®準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「WiFi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示します。

■ Bluetooth 部

通信システム:	Bluetooth バージョン 3.0 + EDR (Enhanced Data Rate)
送信出力	Bluetooth Specification Power Class 1
最大通信範囲:	見通し距離　約 30m *2
使用周波数帯域:	2.4GHz
変調方式:	FHSS (Frequency-Hopping Spread Spectrum)
対応プロファイル:	A2DP(Advanced Audio Distribution Profile)1.2
	AVRCP(Audio Video Remote Control Profile)1.5
対応コーデック:	SBC
伝送範囲(A2DP):	20Hz~20,000Hz

*2　実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

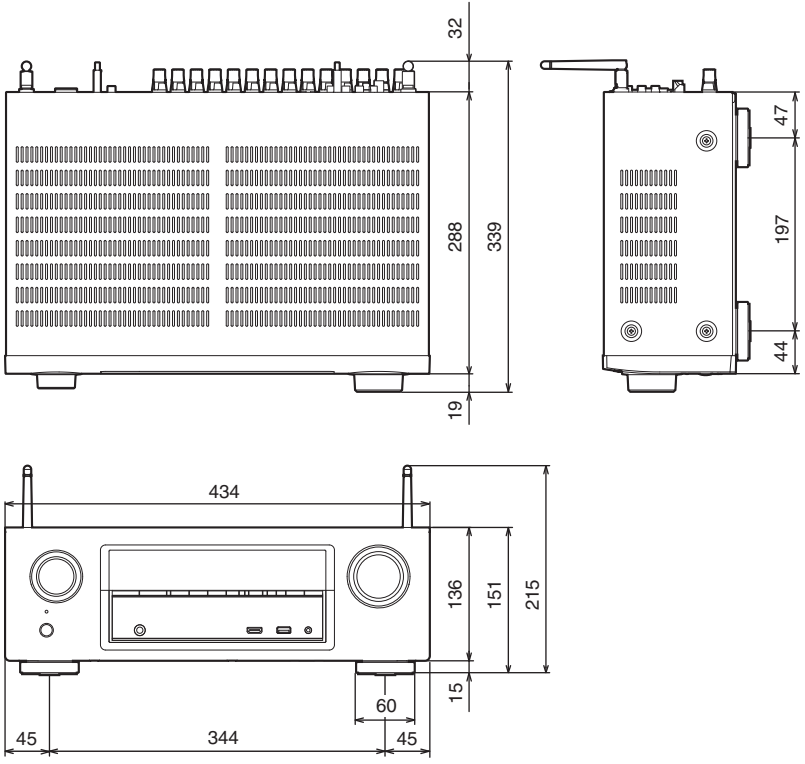
■ 総合

電源:	AC100V、50/60Hz
消費電力:	430W
スタンバイ時の消費電力:	0.1W *
CEC スタンバイ時の消費電力:	0.5W

* メニューの“ネットワークコントロール”設定が“スタンバイ時オフ”で、なおかつ“HDMI パススルー”設定が“オフ”のとき

JEITA:(社)電子情報技術産業協会(略称:JEITA)が制定した規格です。
仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

■ 寸法(単位:mm)



■ 質量:8.5 kg

索引

☞ 数字
3D 226
4K 226
5.1 チャンネル 32, 40
7.1 チャンネル 32, 41

☞ A
AirPlay 98
All Zone Stereo 108
Audyssey Dynamic EQ® 241
Audyssey Dynamic Volume® 241
Audyssey MultEQ® XT 241
Audyssey®セットアップ 161
Audyssey の設定 144, 163

☞ B
Bluetooth 機器 72

☞ D
Dolby Atmos 241
DTS サウンドモード 113, 243
DVD プレーヤー 56, 66

☞ F
FM/AM アンテナ 59, 76

☞ H
HDCP 228
HDMI コントロール 120, 151
HEOS アカウント 90, 188
HEOS お気に入り 103

☞ N
NAS 85

☞ P
PCM マルチチャンネルサウンドモード ... 114

☞ S
Spotify 101

☞ U
USB メモリー 58, 67

☞ W
Wi-Fi の設定 183

☞ い
一般の設定 134, 189
インターネットラジオ 83

☞ え
衛星放送チューナー 55
映像の設定 131, 149
エコモード 189

☞ お

オーディオの設定 131, 136
オートサウンドモード 111
オートスタンバイ 191
お買い上げ時の設定に戻す 222
オリジナルサウンドモード 114
音声フォーマット 228, 229, 231, 232
音量 66, 105

☞ く

クイックセレクトプラス機能 125

☞ け

ケーブルテレビ 55
ゲーム機 57

☞ こ

故障かな？と思ったら 204
こんなときの解決方法 202

☞ さ

サウンドモード 110, 233, 235

☞ す

ステレオサウンドモード 115
スピーカーを接続する 35
スピーカーの設定 132, 161
スリープタイマー 123

☞ せ

セットアップアシスタント 134
セットトップボックス 55

☞ そ

ゾーン 2 ..... 49, 128

☞ た

ダイレクトサウンドモード 115

☞ て

ディスプレイ 19
テレビ 51, 52, 53

☞ と

トーンコントロール 106
ドルビーサウンドモード 112, 242

☞ に

入力信号 238
入力ソース 65
入力端子の割り当て 157
入力の設定 132, 157

☞ ね

ネットワークの設定 132, 182

☞ は

バイアンプ 47
パソコン 85

☞ ひ

ビデオカメラ 57
ビデオセレクト 107

☞ ふ

ファームウェアのアップデート 194
ブルーレイディスクプレーヤー .. 56, 66
フロントパネル 16

☞ へ

ペアリング 72, 73

☞ ほ

保護回路について 249

☞ み

ミューティング 66

☞ む

無線 LAN の接続 62, 183

☞ め

メニュー 一覧 131

☞ ゆ

有線 LAN 61, 182

☞ り

リアパネル 21
リストアラー 141
リスニングポイント 161
リモコン 24

ライセンス

■ ユニットで使用するソフトウェアのライセンス情報

GPL、LGPL ライセンスについて

本製品では、GNU-General Public License(以下 GPL)、GNU Lesser General Public License(以下 LGPL)などが適用されるコードを一部のモジュールで使用しております。

これらのソフトウェアに関しては、各ライセンスに基づきソースコードを入手、改編、配布することができます。

当社のお客様相談センターにお問い合わせいただければ、実費にて GPL、LPGL ライセンスに基づくソースコードをご提供させていただいております。なお、提供しているソースコードは保証されていません。また、ソースコードの内容についてのお問い合わせは受け付けておりませんので、あらかじめご了承ください。

ここでは、本機に使われているソフトウェアの利用許諾(ライセンス)について記載しています。正確な内容を保有するため、原文(英語)を記載しています。

❑ GPL

使用オープンソース	バージョン
bridge-utils	2.8
busybox	1.21.1
ebtables	2.0.10-4
Linux kernel	3.10.74
mtd-utils	1.4.3
ntfs-3g_ntfsprogs	2011.4.12
ntpclient	2007
u-boot	2015.01
wireless-tools	29

❑ LGPL

使用オープンソース	バージョン
ffmpeg	0.8.3
glibc	2.9
libmms	0.6.2

❑ curl-7.24.0

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE
Copyright (c) 1996 - 2014, Daniel Stenberg, <daniel@haxx.se>
All rights reserved.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.
THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.
Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in this Software without prior written authorization of the copyright holder.

❑ e2fsprogs-libs-1.40.8/lib/uuid

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, and the entire permission notice in its entirety, including the disclaimer of warranties.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, ALL OF WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF NOT ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ expat-2.0.1

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd and Clark Cooper

Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Expat maintainers.

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.

IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

❑ getopt

http://cvsweb.netbsd.org/bsdweb.cgi/src/lib/libc/stdlib/

Copyright (c) 1987, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ jQuery

Copyright 2014 jQuery Foundation and other contributors
http://jquery.com/

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

❑ libpcap-1.4.0

License: BSD

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The names of the authors may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

❑ libtar-1.2.11

Copyright (c) 1998-2003 University of Illinois Board of Trustees
Copyright (c) 1998-2003 Mark D. Roth
All rights reserved.
Developed by: Campus Information Technologies and Educational Services, University of Illinois at Urbana-Champaign
Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal with the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimers.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimers in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the names of Campus Information Technologies and Educational Services, University of Illinois at Urbana-Champaign, nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this Software without specific prior written permission.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.
IN NO EVENT SHALL THE CONTRIBUTORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS WITH THE SOFTWARE.

❑ mDNS 320.10.80

The majority of the source code in the mDNSResponder project is licensed under the terms of the Apache License, Version 2.0, available from:
<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>
To accommodate license compatibility with the widest possible range of client code licenses, the shared library code, which is linked at runtime into the same address space as the client using it, is licensed under the terms of the "Three-Clause BSD License".
The Linux Name Service Switch code, contributed by National ICT Australia Ltd (NICTA) is licensed under the terms of the NICTA Public Software Licence (which is substantially similar to the "Three-Clause BSD License", with some additional language pertaining to Australian law).

❑ mongoose

https://github.com/cesanta/mongoose/

Copyright (c) 2004-2013 Sergey Lyubka

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

❑ openssl-1.0.0d

Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
   "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)

HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

❑ portmap-6.0

Copyright (c) 1990 The Regents of the University of California.

- All rights reserved.
- Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. A ll advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

- THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ pstdint.h-0.1.12

- BSD License:
- Copyright (c) 2005-2011 Paul Hsieh
- All rights reserved.
- Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

- THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.
- IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ rl78flash 2000.3.1

License

=======

The MIT License (MIT)

Copyright (c) 2012 Maxim Salov

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

❑ sqlite 2003.5.7

SQLite Copyright
SQLite is in the
Public Domain

All of the code and documentation in SQLite has been dedicated to the public domain by the authors. All code authors, and representatives of the companies they work for, have signed affidavits dedicating their contributions to the public domain and originals of those signed affidavits are stored in a firesafe at the main offices of Hwaci. Anyone is free to copy, modify, publish, use, compile, sell, or distribute the original SQLite code, either in source code form or as a compiled binary, for any purpose, commercial or non-commercial, and by any means.

The previous paragraph applies to the deliverable code and documentation in SQLite - those parts of the SQLite library that you actually bundle and ship with a larger application. Some scripts used as part of the build process (for example the "configure" scripts generated by autoconf) might fall under other open-source licenses. Nothing from these build scripts ever reaches the final deliverable SQLite library, however, and so the licenses associated with those scripts should not be a factor in assessing your rights to copy and use the SQLite library.

All of the deliverable code in SQLite has been written from scratch. No code has been taken from other projects or from the open internet. Every line of code can be traced back to its original author, and all of those authors have public domain dedications on file. So the SQLite code base is clean and is uncontaminated with licensed code from other projects.

❑ strlcpy.c , v1.11

- Copyright (c) 1998 Todd C. Miller <Todd.Miller@courtesan.com>
- Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.
- THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND THE AUTHOR DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, DIRECT, INDIRECT, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

❑ taglib-1.5

copyright : (C) 2002 - 2008 by Scott Wheeler
email : wheeler@kde.org

"The contents of this file are subject to the Mozilla Public License Version 1.1 (the "License"); you may not use this file except in compliance with the License. You may obtain a copy of the License at http://www.mozilla.org/MPL/

Software distributed under the License is distributed on an "AS IS" basis, WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing rights and limitations under the License.

❑ tinyxml 2002.4.3

www.sourceforge.net/projects/tinyxml

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

❑ Tremor

http://wiki.xiph.org/index.php/Tremor

Copyright (c) 2002, Xiph.org Foundation

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the Xiph.org Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ zlib

http://www.zlib.net/

zlib.h -- interface of the 'zlib' general purpose compression library version 1.2.3, July 18th, 2005

Copyright (C) 1995-2004 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly jloup@gzip.org, Mark Adler
madler@alumni.caltech.edu

❑ Spotify ソフトウェアはここにあるサードパーティーのライセンスを受けています。

www.spotify.com/connect/third-party-licenses

当社製品のご相談と修理についてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記窓口にご連絡ください。

お客様相談センター

☎ 0570（666）112
FAX : 044（330）1367

■ 受付時間　9 : 30 ～ 17 : 30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

■ 上記番号がご利用いただけない場合　☎ 050（3388）6801
〒 210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル

■ お問い合わせをいただく前に、ホームページの FAQ をご確認ください。
http://denon.jp/jp/html/faq.html

■ メールでお問い合わせをいただくこともできます。
http://denon.jp/jp/html/contact.html

＊ 電話番号・ファックス番号・URL は変更になる場合があります。

修理相談窓口

☎ 0570（666）811

■ 受付時間　9 : 30 ～ 12 : 00 、13 : 00 ～ 17 : 30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

■ 上記番号がご利用いただけない場合　☎ 0466（86）9520

■ 故障・修理・その他のサービス関連情報については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。
http://denon.jp/jp/html/service.html

■ 代表修理窓口
首都圏サービスセンター
〒 252-0816　神奈川県藤沢市遠藤 2010-16
FAX : 0466（86）9522

＊ ディーアンドエムホールディングス本社では製品の修理を受け付けておりません。

DENON®

株式会社 ディーアンドエムホールディングス
〒 210-8569
神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル

3520 10501 00ADA
Copyright © 2017 D&M Holdings Inc. All Rights Reserved.